

長野県の学校のピアノ

梓川小学校のスタンウェイを起点に、ドイツ製ピアノを中心として、
大正デモクラシー期から学制改革まで

山下利昭

目次

はじめに

I 南安曇のスタンウェイ…白樺教育とピアノ

1.1 : 倭尋常高等小学校 (現・梓川小学校) …大正 14 年 (1925)

1.1.1 : 新校長・松岡弘と新任訓導・米久保耕策

1.1.2 : 「倭小事件」「白樺教育」から新教育「研究学級」「ダルトンプラン」(1)

[松岡弘——米久保耕策——杉崎瑠——実験心理学——研究学級——ダルトンプラン]

1.1.3 : 長野県におけるヘルバルト主義教育から「白樺教育」、そして「新教育」へ

1.1.4 : 「ダルトンプラン」(2) …「白樺教育」の弱点と「システム」

1.2 : 南安曇郡下のピアノ

1.2.1 : STEINWAY

1.2.2 : 南安のピアノ・トライアングルと松本地域のピアノ

II : 長野県下小学校のピアノ

2.1 : 長野県下小学校のドイツ製ピアノ

2.2 : 『長野県の学校』および各校の沿革誌等のピアノ : 資料 A,B,C

2.2.0 : ピアノの受容 (1) …森鷗外『文づかひ』

2.2.1 : ピアノの受容 (2) …小学校のピアノ

2.2.2 : ピアノの受容 (3) …村のピアノ

2.2.3 : 戦時下のピアノ…「音感教育」とピアノの「疎開」

おわりに

はじめに

北アルプスの山懐・上高地から流れ出る梓川、その急流が岩山を削って溪谷を作り、削られ押し出された土砂が平地に段丘を作る。右岸が筑摩、左岸は安曇と呼ばれ、現在松本市となっている旧・梓村／倭村はこの左岸の開口部に位置する。

両村の合併によって統合された梓川小学校に、スタンウェイ STEINWAY & SONS のグランドピアノ¹がある。大正14年(1925)、今の場所より東方に2Kmほど下った、当時の倭尋常高等小学校(以下、倭小学校と記す。他校も同)に導入・設置された。平成9年(1997)に修復されて以降、2世代を越える児童たちに固有の音色でリズムを刻む。ローズウッドの明るい木目調も鮮やかで、黒塗りの学校ピアノに慣れた目に華麗である。

修復当時の旧・梓川村「公民館報」は、平成6年から9年にかけて10回にわたって「大正の旋律スタンウェイ物語」の特集を組み、70年前の設置の経緯や尽力した人々、時代背景やスタンウェイ(以下本文では「スタンウェイ」に統一)について紹介²している。また「会報南安曇教育」も、理事・松尾恒史がこの修復を取り上げている〔引用文中の(…)は、「略」の意、以下同〕。

(…)購入が大正十四年と言うことは、話が始まったのはそれより何年か前のことであろう。

するとそれは、県下でも特に取り組みの盛んであった倭小学校での白樺教育の時とほぼ時を同じくするのである。当時の教師の熱意を感じない訳にはいかない。(平成9年刊、第161号)

本稿のリサーチは、以下の二つから始まる：1)上記引用のように、倭小学校は、大正デモクラシーの思潮の中で芽吹いた自由主義教育の中、長野県教育界に特有とされる「白樺教育」とそれへの弾圧として、「戸倉小事件」とともに県教育史に特記される「倭小事件」(大正8年)の当事校である。地域社会と密着した農村の規模の小さな小学校³であり、「事件」の余震のなお残る同校がピアノ購入に至った経緯について、即ち「白樺教育」との関係についてのリサーチが一つ、2)また、ピアノ購入時の大正14年は、自由主義教育への弾圧事例とされる「川井訓導事件」がこの地域の中心・松本市で起き(大正13年)、県教育界が揺れ続けていた時期であり、購入当時の時代背景についてのリサーチがもう一つである(関東大震災は大正12年に起こっている)。

本稿は、続いて、同校のスタンウェイ設置が、全県的にみて特別なことであるか否かの検証のため、地域および時期の範囲を拡大する。管見の先では、戦時下のピアノの果たした役割も視野に入ってくるはずである。

I 南安曇のスタンウェイ…白樺教育とピアノ

1.1 : 倭尋常高等小学校(現・梓川小学校)…大正14年(1925)ころ

1.1.1 : 新校長・松岡弘と新任訓導・米久保耕策

公民館報「大正の旋律スタンウェイ物語」第6回は、購入・設置の経緯について、当時の同僚・安藤寿々美(寿々實)の回想を紹介している：

職場で一緒だった米久保耕策という先生が、情操教育、特に音楽教育に熱心で、その先生の強い働きかけがあって購入が実現したと聞いています。物のあまり無い時代で、時々昼食のお弁当を持って来られない生徒もいました。そんな中で、オルガンでさえ貴重なのに、学校にピ

アノが来たのですから、どんなに画期的な出来事だったかご想像ください。ピアノの音がすると、音楽室の窓に群がり、目を輝かせて聞いていました。

(旧・梓川村「公民館報」、平成6年11月10日号)

スタンウェイ購入は、米久保訓導の「強い働きかけ」によるものとされる。ただ、現存する倭小学校「学校日誌」において、ピアノ購入に関するものは以下にとどまる：

大正13年11月19日：松岡校長及原(政)米久保両訓導、ピアノ購入ノ件ニツキ、午後豊科へ出張

したがって、スタンウェイ購入の経緯については、米久保はじめ関係者の記憶に頼ることになる。

大正11年(1922)、長野師範新卒の米久保耕策(1901生れ)は、倭小学校に着任した。

(…)古びた廊下、薄暗い校舎、私の期待したものと反していた。砂のじやりじやりする廊下をつまさきで歩いて小使室へはいると、丈のひくい小使さんが出て来たので私が、初めて此の学校に勤めることになって来たんですという。「へえ、そうかね」と宿直の部屋へ案内してくれた。(…)倭村も学校も人も、何一つ知っていないで、県から頂いた一本の格令をたよりにやって来たのであった。やがて男の子が茶をもって来てくれた。小使さんの孫であろうか小柄な少年である。くりぬいた丸盆に急須とふちのかけた茶わんを一つのせてもって来たのである。「お茶のみましょう」といって無造作に炬燵の上に乗せていった。三月の薄い夕日が西の窓から斜に影を壁に落としていた。

柱にかかった古時計が四時をうってまもなく、人品のよい、髭を立てた先生がはいて来た。

(…)「宿の見付かるまでこの宿直にいなさい。私も探してあげますが」「今度の校長先生は、隣村ですから自宅から通うでしょう。そうしたら、校長住宅があるからそこに置いてもらった」という有難い言葉に安心して宿直室に泊めていただく気持ちになった。

翌三十日には、新校長、新教頭はじめ全職員が登校され、新卒の私も紹介された後、職員会を開き新年度の方針や種々打合があり、新年度の学級担任が発表された。

昨日宿直で時間が余りすぎている時、新聞と一所にあった新入学児童名簿を見たら、長男長女が非常に多いのに驚き数えて見たら半数を越えていた。長男長女の総領組と非総領組とにわけてそれぞれの特性の違いや、共通性などを調べて見たいと思い、校長先生に話して見たら「それは珍しい」といって教頭と相談された。その結果、私は新一年の総領組を担当し(…)

驚いた事(1)朝先生と会っても挨拶する児童が一人もないのを見て全く驚いた。(2)木造校舎の中を草履の土足で歩いているのにも驚いた。

(米久保耕策：『MYシステム—米久保耕策教育の歩み—』、至芸出版社、昭和55年刊、p.12f)

歳月を経て、なお、初任時の記憶は鮮明である。この引用から、「倭小事件」後の「驚いた」学校の実情(荒廃・無秩序の?)を確認した後、新入児童を「総領組と非総領組とにわけて」の新卒訓導による「6年間持ち上がり担任」に焦点を当てたい。

1.1.2 : 「倭小事件」「白樺教育」から新教育「研究学級」「ダルトンプラン」(1)

[松岡弘——米久保耕策——杉崎瑠——実験心理学——研究学級——ダルトンプラン]

「倭小事件」については、すでに今井信雄「“倭事件”攷」⁴はじめ適任者による詳細な調査研究が公になっており、本稿のテーマからも、また時期としてもやや逸れることから、米久保を招聘した新校長・松岡弘に関するスケッチにとどめる。

ピアノ導入に先立つ大正11年4月、新校長・松岡弘は、新卒訓導・米久保らを伴って着任した。「倭小事件」後遺症ともいえる状態からの同校の立て直し人事と考えられる。

松岡弘(1890~1983)は、明治45年長野師範卒業、郷里・南安曇郡温明小学校訓導として着任、同時に洗礼を受けた(22才)。生家の温村・下長尾は、倭小学校の北方約2Kmの距離にある。大正5年、生家に近い隣村のこの倭小学校に首席訓導として赴任、その年の5月に松本地方最初の「聖書研究会」を立ち上げる⁵。大正8年4月、松岡の長野・後町小学校への転出とともに、村内の「白樺教育」攻撃が顕在化する。「耶蘇退治」とも標榜されたこの攻撃は、同郷のクリスチャン訓導への遠慮が不要になったからか、同年末のクリスマス劇上演で「事件」となった。

「事件」直後の大正9年3月(大正8年度末)、輪湖英一校長が在職1年で南穂高小学校に転出したのを初め、16名の教員中、主要な教員5名が退職、休職、転出⁶となって倭小学校を去った。新年度(大正9年度)の「学校日誌」4月6日の項には「処分5名」と記されて、事件に対する新体制の立場は明確である。この中には、松岡弘・首席訓導(当時)が招聘した中谷勲の休職処分も含まれ、松岡にとっては、前年の大正7年、請われて戸倉小学校に割愛した滝沢万治郎の「戸倉小事件」での退職処分に次ぐ痛恨事であった⁷。滝沢は松岡と同様、「聖書研究会」の会員であり、また、中谷は手塚縫蔵(クリスチャン)の推薦で、松岡首席訓導のいた倭小学校に移ったばかりであった。

「行事」においても、「白樺教育」攻撃の発端となった大正8年5月27日「海軍記念日」の「此ノ日南安各学校聯合運動会アリ。当校ハ考フル所アリ之ニ参加セズ」から、「事件」後の新体制では、大正9年度「海軍記念日ナルニツキ、全校小倉官林方面へ遠足ス」を経て、大正10年度、聯合運動会に復帰している：「南安聯合運動会を有明原に於て。本校児童(尋五以上)」。また、尋五/六年の遠足目的地も、大正8年10月24日「穂高(礫山館)」から、大正9年4月23日の松本市「千鹿頭」へと変わった。

松岡、米久保らの着任は、この「事件」から2年経っていた。松岡は、3年間の後町小学校を経ての帰任であり、校長となつての最初の勤務である。倭小学校の大正11年度は、新校長の以下の訓辞で始まる：

教授訓使上ニ於テ特ニ留意セラレタシ。一、個性ヲ尊重シ形式ヨリモ内容方面ニ重キヲ置キ、自発的精神ノ養成ニツトム

その松岡にとって米久保耕策は期待の新任訓導であった。

私(松岡弘、引用者注)が大正十一年に長野市後町小学校訓導から南安曇郡倭小学校の校長に初めて任命された時、其の年の師範学校の卒業生を配当して貰うことにして、その人選を付属小学校の首席訓導の奥村政治郎先生にお願いした所、先生は本校の杉崎先生と相談の上、君を推薦してくれたのであった。杉崎先生は、心理学の先生で学徳の高い立派な尊敬して居る先生であった。(松岡弘：「序」、所収『MYシステム——米久保耕策教育の歩み——』、同前、p.1)

倭小学校は小さくて十四学級であった。以前にも三年いたこともあってよく知っていた。良い学校、良い組織にしなければいけないと思って米久保とともに行ったのだが、この米久保は音楽も絵もよくできたが、子どもの心理にもよく通じていた。そして彼はぜひ一年生を担任したいと言った。新卒には高等科をもたせるのが当時のふつうの状態であったが、一年生をと言

うので、一年が二組あったが、一方の長男・長女だけの組を持たせた。彼は六年間もちつづけて、一種のダルトンプランのようなかたちで指導をした⁸。

「良い学校、良い組織にしなければ」と倭小学校に戻った松岡は、また、私的には老父母の看病のためでもあった⁹。彼は、校長の「任地居住」原則の例外として、「家と学校との間は一田圃しかなかったこともあって、家から通勤」する。空いた校長住宅には、米久保が取りあえず住むことになる。

米久保は、当時の師範学校での新しい教育システム（後述）とそのための「子どもの心理に」通じていた。彼が、着任早々、新入児童を総領組と非総領組とに分けての総領組6年間持ち上がり担任を認められたのは、松岡の念頭に、長野師範・付属小学校での「研究学級」¹⁰があったのだろう。

「杉崎先生」は杉崎瑠（1877～1943）、今井信雄によれば、明治44年「加州大学専科に入学し、実験心理学を専攻してストラットン博士につく」、大正3年、カリフォルニア大学心理学科を卒業、同5年長野師範学校教諭となり、同6年4月から同・付属小学校に開設した「特別学級（研究学級）」を指導、実験心理学を中心とした教育学を初等教育に導入した先駆者とされる。「デューイの学説を大胆に実践化した“研究学級”育ての親がこの杉崎である」¹¹。

また、彼は同9年から長野県教育界の唯一の言論機関『信濃教育』の編集委員を勤めた¹²。『ダルトンプラン』（宮崎市蔵・訳）が同誌上に掲載・紹介されたのはこの時期であり、米久保が師範卒業を前にした大正10年12月から倭小学校着任の同11年4月まで、4回にわたっている（第422号～第426号）。

『信濃教育』掲載の「ダルトンプラン」Dalton laboratory Plan から、冒頭部分を引用する：

学校と称するは誤りですか？勿論です。（…）私が理想とする学校なるものは社会学的実験室とでも云ふべきものであります。（…）実験室なる言葉は或人には如何にも取扱いにくく、且耳障りな語だとは思ひます。是生体解剖や名も知れぬ化合物の香がするからであります。併し私には大変な意味のある言葉だと思ひます。（…）私は古き連想や迷信やの絆のない言葉をと捜しました。（…）実験室と言つては何故いけないのですか？（p.26）

教育上の天才モンテソリー女史は児童の自由を絶叫しました。併し或国に於ては誤解せられ而して放縦と自由とを混同した教師によって貧弱に代表されました。併し女史の意味する所のものは人間の完全なる発達を妨ぐる障害を除いてやるといふことに他ならないのであります。（p.28）

「ダルトンプラン」のコンセプトは、自然科学的客観性に基づいた「社会科学的実験室」にあり、杉崎瑠の学んだ「実験心理学」の教育原理による応用・実践例の一つと考えられる。「白樺教育」の文学的・芸術的主観性の対極と位置付けられ、特に、上記引用の後半部は、時期的にも、『信濃教育』からの「白樺教育」の一側面に対する批判とも見做すことができる。

師範在学中に「白樺教育」の構造的限界を目の当たりにしていた米久保世代にとって、「6年間持ち上がり担任」は、付属小学校で実践されていた科学的「実験心理学」に基づく「特別学級」の応用であり、かつての「ヘルバルト教育」に代わる「新教育」¹³システムであろう。「ダルトンプラン」と「特別学級」とは、新校長・松岡の訓辞「個性ヲ尊重シ形式ヨリモ内容方面ニ重キヲ置キ、自発的精神ノ養成ニツトム」を実現するためのシステムであり、少なくとも松岡は、「実験心理学」への期待を込めて（後述の西牧節義の回想にあるように）米久保の「6年間持ち上がり担任」提案を認めたものと考えられる。

ここで大正8年度に遡り、倭小学校での「白樺教員」と『信濃教育』との関係に触れる。

坂井、中谷と揃った倭校は（…）前年度まで職員室備え付けの雑誌『信濃教育』・『学校教育』・

『教育研究』は全部やめてしまい、変わって『太陽』・『日本及日本人』・『丁酉倫理』・『文明評論』・『婦人ノ友』・『理学界』、それに『芸術』と『白樺』が加えられた¹⁴。

「白樺教員」の『信濃教育』無視の傾向は倭小学校に限ったことではなく、また逆に、犠牲者まで出した「戸倉事件」「倭事件」に対する『信濃教育』側の沈黙¹⁵も、後の「川井訓導事件」への対応とは対照的である。前者が、地域社会（村）と（白樺）教員間に生じた「事件」であるのに対し、後者が文部行政当局と「教権」との間に生じた教育の本質にかかわる事件¹⁶だからであろうか。

大正11年度からの松岡・新体制は、倭小学校「学校日誌」の以下の招待講演者によって、『信濃教育』へ回帰したと考えられる。

大正11年6月7日：南安曇郡教育部会春季総集会。招待員演説、久保田俊彦先生

大正12年6月6日：当校に於て南部職員会を開く。招待員 土屋文明氏

大正13年8月28日：南部教育会主催国語講習会。九月一、二日の両日午前9時より、

午前2時間午後2時間、梓小学校に於て開くことに決定。講師久保田俊彦氏

1.1.3：長野県におけるヘルバルト主義教育から「白樺教育」、そして「新教育」へ

ここで、倭小学校からもピアノからも逸れるが、退潮してゆく「白樺教育」とは逆に、主流になってゆく「新教育」について、県教育史の概略を当時の教育関係者の言から整理しておきたい。「白樺教育」は長野県固有であったが、全国的には大正デモクラシーの一現象であり、この時期は、その終焉に向かう転回点にあっていたと考えられ¹⁷、その反省から「新教育」をもって米久保耕策がスタートしたと考えられるからである。

俯瞰（Ⅰ）：一志茂樹…ヘルバルト教育と新しい教育思潮

明治三〇年代から大正の初期にかけては、もっぱら倫理学とヘルバルト流の教育思想¹⁸が信州ばかりでなく、全国をおおっておったように思います。いわゆる三段教育法というテクニックが教育界を風靡しておりました。わたくしが小学校へ入学した明治三三年ころは、極めて幼稚な、寺子屋と大差ないような教育を受けたのでありますが、それから見ますと、明治末年ころの教育は躍進的に前進しております。教授法が教育の前面に打ち出されておりました。（…）論理的な構造論の上に立って、ものを仔細に観察させ、展開し、集約していくことを綴方教授の本領としていたのであります。（…）次に申したいことは、当時、一方に、教授中心の形式的な教育がありましたとともに、新しい教育思潮がそろそろ出かけております。その第一は、（…）個性教育のことであります。（…）次に自由教育であります。（…）それから次に新しい教育主張としては、ディューイのデモクラシーの原理にもとづく教育思潮であります。（…）とくに影響の大きかったのはウィリアム・ジェームスの実験心理学であります。（「東筑摩塩尻教育会百年誌」、昭和59年刊、p.3）

自身「白樺教員」を代表する一人であった歴史家・一志の回想である。「ヘルバルト流の教育」法が近代教育に大きな貢献を果たしながら、やがてそのシステムが硬直化・形骸化して、「何を」教えるかより、「どのように」教えるかに重点が置かれ、「形式的」として自由主義教育者たちから批判を受ける余地が生じた。長野県にあっては、「個性教育」「自由教育」を掲げる「白樺教育」がこの土壌に芽吹いた。

以下は、しかし、その「白樺教育」の限界である。

俯瞰（Ⅱ）：松岡弘…信州「白樺教育」の限界

白樺派の人たちは理想主義の精神で純粹でいいところをもってはいたが、文学的で、たとえば、武者小路のまねをしたような作文を作らせるとか、美術や音楽を重んずることはいいが、地理、歴史や数学などの基礎学科を軽んずる風があった。(『師道 松岡弘著述集』(II)、昭和59年刊、p.328)

俯瞰(Ⅲ):「白樺教育」の衰退の(…)要因は「白樺」自身の持つ教育的限界にあったと考えられる。「白樺」の教育は、芸術分野においては、従来の教育から大きく脱皮し、生き生きとした教育が行われ、一時代を作った(…)このことは一方では、論理的分野、特に数理の分野の軽視という結果を生んだ。(…)理数系の科目を軽視し、芸術至上を標榜するかれらの教育は、自らの教育や方法においても、しっかりした理論体系を持ち得なかった。その主張はきわめて主観的であり、説得力を欠くものとならざるを得なかった。(「東筑摩塩尻教育会百年誌」、同前、p.432f)

俯瞰(Ⅳ):渡辺坦平

大正初期頃は、欧州大戦勃発のため、経済恐慌、米騒動等世態混乱の時代で、白樺一派の理科学軽視、文芸一辺倒の風を生じ、これが気分教育と称せられ、世の悪評を受けた」

(『渡辺坦平遺稿集』:所収「南安曇教育会百年誌」、p.344)

今井信雄も「白樺運動」の退潮の要因として、以下の項目に整理している¹⁹⁾。

- 1: 相次ぐ弾圧:大正7年;戸倉事件、大正8年;倭事件、大正9年;南箕輪事件、(…)
- 2: (…)
- 3: ヘルバルト教育の否定に対応する理論的な体系の欠如
- 4: 芸術教育重視で理数系教科目の軽視
- 5: 児童の家庭や市町村の慣習への批判による彼らからの敵視
- 6: (…)

そして、「ディューイのデモクラシーの原理にもとづく教育思潮」「ウィリアム・ジェームスの実験心理学」の実践が試みられる。前述の杉崎瑠の「研究学級」であり、また「ダルトンプラン」であろう。

1.1.4:「ダルトンプラン」(2):「白樺教育」の弱点と「システム」

大正11年度の「学校日誌」は着任早々の米久保訓導に関する記述で占められる。

大正11年6月3日:南部職員会(梓学校)。招待員:岩崎先生「日本民族の発達」

会員演説:米久保、五十川、白木

6月29日:米久保訓導壮行会(六週間現役兵)

6月30日:米久保訓導 入営準備の為め帰郷

7月1日:米久保訓導 本日より六週間現役兵として五十聯隊へ入営

8月18日:米久保訓導 六週間現役終了本日より出校

8月23日:米久保訓導 音楽講習会へ出席(穂高)

10月24日:米久保訓導 博物研究会へ出張

除隊後の彼の最初の行動が「音楽講習会」出席である。穂高小学校には大正8年にピアノが入っていた²⁰⁾。また「博物研究会へ出張」には、「白樺教育」の弱点とされた「理数系教科目の軽視」から「重視」への転換をうかがうこともできる。

現存する「学校日誌」の米久保訓導に関する記述は、以後、以下に限られ、スタンウェイ購入及び披露時のそれは欠落している。

大正13年4月5日：西牧、米久保両訓導、東京ニ於ケルダルトン案講習会出席のため出張²¹

(4月8日帰校)

「ダルトン案講習会」に同行した西牧節義は、松岡・新校長赴任に伴い、西隣りの梓小学校から転任した教頭であり、新任の米久保を加えた3人は、大正11年度の同時着任²²でもある。彼は前掲の記念集『MYシステム』に、米久保のこの件について以下の寄稿をしている：

長野師範では(…)教育は児童の心理に副うて進めるべきであるとの思潮が強かった。従来通りの国定教科を文部省通達の時間割にあてはめて画一的な教育²³に終始することには、教育を志す者の中に疑問があつて何か新しい道を歩もうとする考えがあつた。然し之を實際化することは仲々許され難いことだった。この壁に挑んだのが君の第一歩だったと思う。

米国のダルトン女史によって提唱された所謂ダルトンプラン²⁴を、国定教科を中核とする教育の中に如何にとり入れるかが問題であつた。環境に応じ地域社会を尊重し、人間性に副う教育に志す若き教育者の悩みの解決に当たつたことを忘れることは出来ない。国定教科書と配当時間割との取扱方について最も苦心されたと思う。伝統ある信州教育の中に、一部とはいえダルトン案を具現化することは異色中の異色であつたと思う。数次にわたる校長先生との話し合いの末、君の希望は入れられ一学年を担当されることになった。家庭調査の結果、長男長女と二、三男坊がほぼ同数だったので総領組と二、三男坊組の二組に別け、君はその総領組を受け持った。爾来六年間卒業まで持ち続けた。このことは、大胆で責任は至って大きく最新の注意を払つての試みであつたこと勿論である」

(西牧節義：『思い出すことなど』、所収『MYシステム』、同前、p.17)

表層の大正デモクラシーの底流で勢いを増す国家主義教育の流れを、「国定教科」「文部省通達」に記す西牧の回想に、「倭小事件」は勿論であろうが、もう一つ、「川井訓導事件」が重なっていたことは想像できる。大正13年、「ダルトン案講習会」に2人が参加した4月から間を置かない5月、文部省は国定教科書以外の副教材の使用を禁止する通達を発し、同年9月、松本女子師範附属小学校でこの事件となる。弾劾する文部省臨時視学委員・樋口長市東京高師教授は、西牧と同じ梓村(丸田)出身の先輩であり、弾劾された川井清一郎訓導は、当地のキリスト教会の草分けともいふべき「聖書研究会」に、松岡校長とともに出席していたクリスチャンであつた²⁵。

1.2：南安曇郡下のピアノ

1.2.1：STEINWAY

西牧は続いて：

「君は情操教育にも力を入れた。当時、倭小学校にはピアノなど無く音楽教育など余り重要視されなだったので、楽器の備付けなどには村当局もそっぽを向けていた。そこで、村当局に勧め同村出身者にして所謂成功者を歴訪し十数人の賛成者を得て、三千余円の寄付金によりピアノ購入の目どがついた。残されたことは、どのピアノを備へ付けるかが問題であつた。当時、ピアノといえば独逸製のスタンウェイかブルツナーが権威ある一流のものだったが、君は断然スタンウェイを推賞しこのグランドを選定した。松本平では、松本女子師範学校と倭の二台だけだった」

(西牧節義、同前、p.17f)

「倭小事件」当時以降の大正期の倭村の財政事情は、近隣の、あるいは全国的な例にもれず、増大する児童数のための学校施設拡充と、大戦後の物価変動に苦しんでいた。「倭小事件」直前の大正7年度の

村会では、「倭小学校の生徒増加に伴う体操場拡張のための校地買収費用の議決、物価騰貴のため、役場吏員や学校職員などに臨時手当や補助費の支給の議決」等がなされ、村長・岩岡金次は、内務大臣・大蔵大臣あて「地方税制拡張許可稟請所（申請書）」において：

「欧州戦乱ノ開カレテ以来、総テノ物価ハ漸次騰貴シ平和ノ条約ハ締結セラリタリト雖モ、物価ハ益々奔騰シテ其際涯ヲ窺知スルニ難ク既ニ経費ハ膨大シテ前年度ニ比シ多額ノ賦課ヲ敢テセシノ時ニ際リ（…）」（「梓川村誌」歴史編、p.467f）

と、村内・富裕層への課税強化の許可を申請している。

当時の県下全体に於いても、家庭と地域の将来を託す教育関係費は、村総予算の5割前後²⁶を占めていた。倭村当局のピアノに対する「そっぽ」には、「戸倉小事件」「倭小事件」の要因の一つとされた「児童の家庭や市町村の慣習への批判による彼らからの敵視」以上に、村の財政逼迫が要因として考えられる。

大正13年：校舎増築（二階建8教室、外壁をコンクリートにする）

（「梓川村誌」歴史編、平成6年刊、p.707）

11月28日：「増築校舎落成式及祝賀会、四年以上参列」

（「学校日誌」）

したがって、後述する隣村の温明小学校のような村を挙げての協力は、「倭小事件」に顕在化した思想的風土はさておき、あまり期待できなかつたであろう。米久保自身は、スタンウェイ購入の経緯を以下のように回想している：

音楽のためにオルガンでなくピアノ²⁷を欲しいと思い父兄の方々や村役場の方々に相談し、倭出身の東亜キネマの社長に応援いただく為に私も東京の根岸まで出かけた。そこで多大な御寄附をいただき、ドイツ製のスタンウェイという有名なピアノでしかもグランドという大型を買うことができた。長野県には二つしかないという有名なピアノで音楽を教えることが出来た。

（米久保耕策：同前、p.14）

倭村から出て「東京の根岸」に「岩岡商会」（「東亜キネマ」）を設立していた岩岡巽²⁸は、日本映画のパイオニアとして知られた一人である。米久保が、まずこの近代産業における成功者からピアノ購入の協力を取り付けたことで、在村の篤志家たちからの協力²⁹も容易になったであろう。具体的に名を挙げられているのは彼一人であるが、他の大口寄付の12人については、同郷ともいえる隣村出身の校長・松岡弘の果たした役割も大きかったと推察される。

1.2.2：南安のピアノ・トライアングルと松本地域のピアノ

スタンウェイのグランドが選定されたのには、もう一つの理由があろう。隣接小学校のピアノである。校長・松岡の生家があり、彼が（校長宿舎を米久保に譲り）そこから通勤する隣村、その温明小学校³⁰（現・三郷小学校）にスタンウェイ（アップライト）が入ったのは、一年前の大正13年（1924）、「皇太子殿下御成婚記念」（同年1月）の記念事業としてであった。大正14年3月に刊行された「温明教育」³¹第14号は、その「附録」で、購入経緯を紹介している。即ち、記念事業として、村内外より寄付を募り、130名以上の協力者による寄付総額2155円50銭を得、1541円68銭にて購入した旨を、寄付者名簿と会計報告を添えて記す：

昨年（…）三月二十五日（…）松本市ミスズ商会から、スタインウエーの堅形ピアノを購入する契約をしました。四月十日に着荷し（…）、五月十八日にピアノ披露の小音楽会を開きました。

このピアノも、現在、幾度かの修復を経るなかで製造番号銘板等を失いながらも、小コンサートなどで使用されている。倭小学校のスタンウェイ購入と対照的なのは寄付者の数である。温明小学校は郡下一の大校であり、この地域を挙げてといえるほどに、後者の10倍以上の協力者を得て購入している。「関東大震災」で延期されていた「皇太子殿下御成婚記念」は、当時、震災復興への希望の象徴ともされ、全国的な祝賀であった³²。

また、倭小学校の西隣り、昭和48年に同校と統合する梓小学校³³には、近隣では最も早く、明治44年に個人の寄贈³⁴によるピアノ（山葉製）が入っていた。隣接する両校にピアノがある以上、村民一般が、地縁の薄い米久保には「そっぽを向いた」にせよ、村を代表する人々や村出身の成功者にとっては、限られた大口の寄付者名簿が示すように、その設置は熱望されていたものと思われる。

さらにスタンウェイは、大正15年(1926)、倭小学校から梓川を隔てた対岸、直線距離にして約6Km南の神林小学校（現・松本市菅野小学校）にも導入されたはずであるが、記録にとどまる：

「11月29日、寄附金にてスタンウェイピアノ購入。着荷す」（「神林学校史」、昭和46年刊、p.19）
神林小学校は南安曇郡ではなく、梓川の右岸、当時は東筑摩郡に属していた。スタンウェイは、少なくとも、大正13年から3年間、各年度に1台ずつ、近隣地域の三小学校にそれぞれ設置されたのである。

以下は、近隣の松本市と東筑摩郡を加えての小学校ピアノ導入リストである（太字は本稿関係分）。

（明治42年：安曇野市・豊科北小学校〔南穂高尋常小学校→同・尋常高等小学校³⁵〕）

明治44年：松本市・梓川小学校〔**梓尋常高等小学校**〕…山葉

明治45年：松本市・今井小学校〔**今井尋常高等小学校**〕…(山葉)

大正3年：松本市・開智小学校〔松本尋常高等小学校・田町部〕NISHIKAWA

大正7年：松本市・筑摩小学校〔松本尋常高等小学校・筑摩部〕

大正7年：塩尻市・塩尻東小学校〔**塩尻尋常高等小学校**〕MATSUMOTO

大正8年：安曇野市・穂高小学校〔**東穂高尋常高等小学校**〕

大正11年：〔松本市・松本尋常高等小学校・柳町部（女子部）→廃校〕

大正12年：松本市・源池小学校〔松本尋常高等小学校・源池部〕

大正12年：松本市・旭町小学校〔松本尋常高等小学校・旭町部〕

大正13年：松本市四賀・中川小学校〔中川尋常高等小学校〕

大正13年：安曇野市・三郷小学校〔**温明尋常高等小学校**〕STEINWAY

大正13年：松本市・開智小学校〔松本尋常高等小学校・田町部〕FEURICH

大正14年：安曇野市・豊科尋常高等小学校

大正14年：松本市・梓川小学校〔**倭尋常高等小学校**〕STEINWAY

大正15年：松本市・田川小学校〔松本尋常高等小学校・田川部〕STEINBERG

大正15年：松本市・菅野小学校〔**神林尋常高等小学校**〕STEINWAY

したがって、倭小学校のスタンウェイは、「倭小事件」となった「白樺教育」の中で設置されたというより、それへの理解を持ちながらも、論理的なシステム不在への反省に立った「新教育」を推進する思潮の中、米久保耕策が、校長松岡弘のサポートの中で行われたと見るほうがよいように思われる。

この県下有数のスタンウェイは、設置自体、倭村の誇りとなり、（記録を欠くものの）その演奏は近隣

の大きな関心を引いたことであろう。「後年、信大教育学部教授になった伏見三男人³⁶も、このピアノで血の滲むような勉強をされたことも話題の一つです」(西牧節義、同前、p.18)とある。子供たちには触れることのできなかつたであろう鍵盤から、放課後、教本に即し、単調ともいえる反復練習に没頭する先生の弾くピアノが、どのように響いたか。機械音・モーター音の乏しい当時の田園地帯である。聴覚を刺激するものは、時折の風音か用水のせせらぎの他には、小鳥や家畜の鳴き声、人の声に限られていた。自然界の音とは異なる明澄な音が、秩序あるリズムとメロディーを伴って響くとき、かつて倭小学校の白樺教員たちが、梓の川原や小倉の官林を教場として、身近な生活に即した自然の摂理に子供たちの学習意欲をかきたてたとすれば、村の中心・学校に設置されたスタンウェイの音は、システムに即し、技術的な習得に時間を要する反復練習の実例を、その成果を伴って、子供たちの耳に訴えたはずである。「白樺教育」を遠心的とすれば、後者は、求心的な教育効果を可能にしたといえないだろうか。白樺教育の「気分」を高揚させる「瞬間」に、ピアノは、「秩序」を刻む持続的「時間」を付加したともいえよう。いま、子供たちは、(かつて米久保・新任訓導がつまさきで歩いた砂混じりの廊下を)野外での泥や砂を払い終わって教室へと向かったはずである。

「白樺教育」との関係で、音楽面で補足しておかねばならないのは、今井久雄(1889~1976)の役割・貢献であろう。彼は教員ではなく、塩尻の工場主であった。大正4年に塩尻小学校に赴任した白樺教員の赤羽王郎と親交を結び³⁷、大正5年、手塚縫蔵・松岡弘らの松本での「聖書研究会」に第4回より出席している。大正7年、塩尻で初めてピアノ購入し、同年10月、友人に勧めて塩尻小学校(現・塩尻東小学校)にもピアノを寄贈させた。自社の女工に音楽を教え「唱歌集」編纂する。大正13年、素人の「諏訪ストリングソサイエティ」(現在の「諏訪交響楽団」)を創設、「請われるままにサキソフォン・バイオリン・チェロを手にして小学生の前にたつこともあった」³⁸。「白樺教育」の終焉後の大正13年、ピアノ購入資金募集中の倭小学校の「学校日誌」に、「4月16日：今井久雄氏来校」との記載があり、スタンウェイ購入について何らかの関わりも推察される。彼は、近隣小学校でのピアノ披露音楽会等々にも参画・演奏している³⁹。

- 1) 製造番号 212578、製造時期 1922年(大正11年)、New York 製造、Hamburg 組立。
- 2) 価格；2千6百余円、村関係者13名の寄付による。主導者；倭尋常高等小学校訓導・米久保耕策(同校校長・松岡弘)。「同型のSTEINWAYは、東京音楽学校、京都師範学校と同校の3台、現存は同校のみ」と公民館報には記されている。
- 3) 大正9年当時で児童数は尋常科(12クラス)・高等科(2クラス)合計549名、南安曇郡下15校中の8番目の中位校である。(「南安曇郡誌」第三巻下、昭和46年刊、p.62)
- 4) 今井信雄：所収『「白樺」の周辺——信州教育との交流について——』、信濃教育会出版部、昭和50年刊、p.120f
- 5) 松岡弘：「それから翌年、五年の三月、手塚先生(手塚縫蔵：引用者注)は玉川を出て、東筑和田の校長になられた。私は、自分の郡の隣村の倭へ転任(…)その五月、先生にお願いして聖書の研究を始めた」(松岡弘講述集『見ゆるものと見えざるもの』、松岡弘先生講述集刊行会編、昭和六十年刊、p.140f)
- 6) 年度途中の出入りもあり、今井信雄によれば、大正8年度末、以下8名の移動となる。
 転出：輪湖英一(校長)→南徳高小、牧田闊→会染小、坂井陸海→伊那小、若林武雄→西徳高小。
 退職：郷原三四五、神沢速水、赤羽ヨシユ。休職：中谷勲。(今井信雄：同前、p.136)
 大正9年度は、休職の中谷勲を別にして、教員18名中、高田金六校長を含む9名が着任、前年度よりの継続は8名で半数以下である。また、大正11年度の松岡新体制では、16名中、校長を含み6名が入れ替わる。
- 7) 僕は、大正五年三月、倭小学校へ首席として転任した。その翌年、小諸小学校から滝沢万治郎君をとってこれと言われて、滝沢君をとった(六年四月)。一年たったらさきに戸倉小学校長に復職していた宮坂亮が(…)滝沢万治郎君に目をつけて、僕に、ぜひゆずってほしいという。まだ滝沢君は一年しかたっていない

かった。なかなか熱心な男でよくやってくれていたが、本人も戸倉へ行く気になったので、一年だったが送った(七年四月)。(…)宮坂校長は理想主義の白樺派を入れて改革しようとしたということもあった。しかし、首席の滝沢君では統率が十分にはできず、むしろ、やりこめられてしまうというところがあった。八年三月、県によって、滝沢君は退職となり、(…)中谷君は倭小学校の僕がとった。」

(松岡弘：『師道——松岡弘講述集』(Ⅱ)、昭和59年刊、p.328f)

8) 松岡弘：『師道——松岡弘著述集』(Ⅱ)、同前、p.332

9) 松岡は、大正12年に母親を、14年に父親をそれぞれキリスト教式の葬式で送った。以下は村内の反応である。一方で「耶蘇退治」の風潮も盛んであった当時である。

「十二年、母が亡くなった(…)母は洗礼を受けてあるので葬式をキリスト教の式で行った。ところが僕の木戸仲間は明治から神葬祭であったので、みんなびっくりしてしまった(…)初め、びっくりしておった近所の人たちも、葬式がすんだあとで、これはよかったと感心してくれた。十四年父が亡くなった。父は洗礼を受けていなかったが、母が洗礼を受けてキリスト教の葬式を出したので、父の亡くなる直前に、キリスト教の葬式で行うことを問うたら、よいと首肯してくれたので、父の場合もキリスト教の葬式であった」

(同前、p.330f)

松岡は大正15年に穂高小学校に移る。倭小学校は松岡の後を長野師範同期の金井虎雄(明治45年師範卒、梓村出身)が引き継ぐ。

穂高にはクリスチャン・井口喜源治がいた。また、倭小学校の白樺教員と共通するエートスにも欠くことはなかった：「穂高には五年いた。(…)井口喜源治先生は研成義塾をやっておられた。水曜日の夜は祈祷会を先生のお宅で行い、それに参加させてもらった(…)また、創立何周年かの記念会を穂高の僕の学校でやった。内村鑑三先生のメッセージが来たりした。僕は倭小学校時代に研成義塾を参観したことがある。校長でなかった前ときは手塚先生とともに、また後の校長時代にも一度行った。(…)もう一つ、忘れられないものに礫山館がある。荻原礫山の兄は十重十という人であったが、僕の穂高時代には元気でおって、礫山館は礫山の生家の別棟としてあった」

(同前、p.336f)

「礫山館」は「白樺教育」教員の聖地と目され、事件となる前の、倭小学校の遠足目的地でもあった。なお、倭小学校では松岡校長の下、「木曜会」にて、遅くとも大正12年度から「旧約聖書」の読書研究会が英語研究(継続)とともに開催されている。米久保も出席していたものと推察される。

「学校日誌」：「大正12年6月22日：木曜会例会を本日開く。今後木曜会にて旧約聖書を研究することにて、英語研究会を開くことは今年の継続」

「職員会誌」：「大正13年5月8日：木曜会 協議。前年に引続き旧約聖書の研究をする。

9月18日：旧約アブラハム伝研究

10月23日：旧約研究

10) 「研究学級」は、「大正六年、長野師範学校附属小学校におかれた新教育の実験研究を目的とした学級。小学校の六か年間は転校しないこと、学校がどんな教育を行なっても容喙しないことを条件に、二〇名乃至二五、六名の児童を対象に開設された。研究の顧問には杉崎瑠、第一回目の学級担任には田中嘉忠が選ばれた。二〇年間に六学級を設け、大正一四年には成城学園において『研究学級の経営』と題して、杉崎瑠が研究発表を行なっている」(今井信雄：同前、p.281f)

田中嘉忠(1896~1981)

11) 今井信雄：同前、p.254

12) 『信濃教育』は、久保田俊彦(島木赤彦)が大正9年3月に編集主任を辞任し、大正11年7月に西尾実がその任に就くまでの間、杉崎瑠、西尾実、手塚縫蔵、土屋粥太郎のメンバー構成による編集委員会制をとっていた。

『信濃教育』：合本「雑誌信濃教育35」、国書刊行会、昭和57年刊

13) 「新教育」：「当時の教育界でとくに注目されるのは『新教育』運動の展開であった。(…)新教育思想は(…)大戦後の開放的な自由主義、民主主義の思想を背景とし、世界的な新教育の潮流にのってくりひろげられた。(…)教育の面では、教師中心の教育から児童中心の教育への主張であり、児童の個性を尊重し、自発的、創造的な活動を重視し、児童の生活を中心とする経験主義の教育を重んずるものであった。(…)新教育思潮は(…)実際の試みとしてはまず大正六年沢柳政太郎によって成城小学校が創立されたが、ここでは「個性尊重の教育」「自然としたしむ教育」「心情の教育」「科学的研究を基礎とする教育」の四つをモットーとして新教育の実践が試みられた」(「戸倉小学校沿革史」、昭和42年刊、p.44f)

14) 今井信雄：同前、p.124

15) 今井信雄：「赤彦(久保田俊彦：引用者注)は当時“信濃教育会”の唯一の言論機関であった雑誌『信濃教育』の編集主任を務めていた。文学の深奥所を極めるのは“鍛練道”に外ならないと確信していた赤彦には、

- 気分・情緒に感激している“シラカバ派”の態度は甘くて見ていられなかったに違いない。(…)赤彦は一心集中の厳格主義を信念とし、“シラカバ派”は直観・衝動・気分には拠っている。(…)『信濃教育』の編集主任は、赤彦から西尾実へ、そして土屋文明へと引き継がれた」(今井信雄：同前、p.114)
- 16) 松岡弘：「川井訓導事件があるのだが、(…)大正十一年五月、知事が替わって(…)異動なども一般の官吏と同じに考えた。(…)当時は信州教育の受難時代であった。教師を役人や警官と同じに転任させたりすることには反対の空気であった。教員給与の国庫補助に反対したのもこれにかかわっていた」(松岡弘：『師道』(Ⅱ)、同前、p.332f)
- 17) 「倭における白樺教育も大正八年度を最盛期として以後衰退に向かってしまった。県下の大勢もほぼ同様であった」(『梓川村誌』歴史編、平成6年刊、p.741)
- 18) ヘルバルト (Herbart, Johann Friedrich, 1776-1841) は、2つの概念(「専心」：Vertiefung と「致思」：Besinnung)をそれぞれ分け、教授の進め方として「明瞭・連合・系統・方法」という4段階説を主張したとされる。後継者ライン (Rein, Wilhelm, 1847-1929) の唱えた5段階の授業展開(「予備 Vorbereitung・提示 Darbietung・比較 Vergleichung・総括 Zusammenfassung・応用 Anwendung」)が、明治20年(1887)来日したドイツ人ハウスクネヒト (Hausknecht, Emil, 1853-1927) によって、日本の国情に即した形で紹介され、それまでの英米流の開発主義的教育に代わって、初等教育界の主流となった。
加藤美代子：『我国におけるヘルバルト主義導入の意味』、
日本大学教育学会紀要「教育学会」、教育学雑誌、第15号、1981、p.37-47
今野三郎：『明治20年代のヘルバルト主義教育思想』、同、第17号、1983、p.40-54
山本正身：『日本におけるヘルバルト派教育学の導入と展開』、
慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要「社会学心理学教育学」No.25、1985、p.67-74
- 19) 今井信雄：同前、p.18f
- 20) 大正8年「ピアノ購入(635円)」(穂高小学校「開校八十五周年記念誌」、昭和34年刊、p.2)
以下は、南安曇郡下の小学校へのピアノ導入の概略である：
唱歌にオルガンが使われるようになったのも明治二〇年初頭からで(…)ピアノが最初に入ったのは梓小学校で寄付によるものであった。その後大正(…)八年に穂高に入っており、一四年には豊科と倭に入っているの、郡下の大校の大部分の学校にこの頃入ったと思われる。昭和二年に有明に入っているが「郡下学校の最後である」と言っていることにより、それ以前に郡下全校に入っていることが知られる。(『南安曇郡誌』第三巻下、昭和46年刊、p.54f)
記述は必ずしも正確ではないものの、ピアノ設置自体は当時の南安曇郡では一般的であったことがわかる。
- 21) 「大正十三年(…)ドルトン案の創始者パーカスト女史が来日し、東京をはじめ全国各地で講演し、(…)女史の来日を機会に、その後ドルトンプランは全国的に流行した」(「戸倉小学校沿革史」、同前、p.44f)
- 22) 満年齢で当時：松岡 32 歳、西牧 29 歳、米久保 21 歳
- 23) 例えば「梓小学校/倭小学校沿革誌 No.2」(謄写版摺り、安曇野市教育会・所蔵)には、「規制されてゆく多くの心得(指導法)」の「倭尋常高等小学校 細則からひろってみると…」は以下の記述で始まる：「第一、教案ニ関スル件 一、教授スベキ材料ハ週案ト日案ヲ作成シ校長ト協定セル日検閲ヲ得ベシ。二、週案ハ翌週教授スベキ材料ヲ予定シ各日ニソノ題目ヲ配當記入スベシ。三、日案ハ教授上主要部ヲ畧左ノ形式ニ準拠シテ作成スベシ。(1) 讀方/題目/進度/[教法] 摘書/下調 質疑 素読 意義 大意 演述 約述/精査 形式上 内容上 修辞法 語法 文法 着想 構想/整理/練習/応用(…)
これに対して、前述の杉崎瑠の「研究学級」で最初のクラスを担当した白樺教員・田中嘉忠は、「小学一年から六年生まで、メーテルリンクの“青い鳥”一冊で、徹頭徹尾、全人教育を、全教科を、しかも生活しつつ、実験しつつ、労作しつつ、創作しつつ」(今井信雄：「『白樺』の周辺」、同前、p.255) 教えたとされる。「彼は寝食を忘れて、“研究学級”に打ち込み、“みかんの研究”などでは、生徒と共々紀州に出掛けて、花の頃から結実・収穫までの間、虫の駆除から始まる綿密な調査報告を残している」(今井信雄：同前、p.262)
- 24) 「信濃教育」第422号によれば、「ダルトン」は、この方案を最初に応用・実施したアメリカの市の名前 Dalton である。提唱者は Miss Helen Parkhurst (1887-1973) との説明があり、この点は西牧の記憶違いである。1920年(大正9年)5月、「ロンドンタイムズ」に発表された“The Laboratory Plan”を、翌年「信濃教育」が「ダルトン方案」として翻訳・掲載した。(『信濃教育』第422号、大正10年刊、p.29)
「方案」では、児童に対し、1) 予め年間の履修内容を予定表にて示し、それを細分化して、2) グループ分けした各グループにそれぞれの部分を請け負わせる(Contract)。3) 各グループは、請け負ったテーマを、時間的にも分担も自由かつ自発的に、協同作業を通じて理解・解決に至らしめる、という「自由」「協同」が骨子であり、4) 理解・解決の結果よりも、そこに至るのに、各自がそのグループの一員

として如何に働いたか(個別学習)のプロセスを重視するというもの、と理解できる。第一次大戦後の1910年代に、生産の効率化に於いて革命を起こしたとされるフォード・システムに通ずるものも伺える。

デモクラシー社会を大衆社会として見た場合の大量(廉価)生産・大量消費を可能にする生産現場における「分業」「分担」も、しかし、教育の基本理念「自由」「協同」と同根である以上、増大する多数の児童から成る教室での教育効率において、50人の児童を対象とする彼女の教育システムは耳目を集めたであろう。他方、20名ないし25、6名の児童からなる杉崎瑠の「研究学級」はこの点に於いて異なる。また、「ダルトン方案」は、全教員の共通理解のものと全学的な共同した取り組みが不可欠であるが、それが不可能の場合、次善の策として、米久保による6年間の一貫指導が、杉崎瑠の「研究学級」に倣い、(大正13年の「講習会」の成果ではなく)大正11年の着任当初から試みられたのであろう。

- 25) 「聖書研究会」は大正5年6月に始まり、大正7年5月設立の「日本基督松本伝導教会」に発展解消する。川井訓導事件の川井清一郎は、松岡とともにこの会員であり、また、松岡が戸倉小に割愛し、「戸倉小事件」で退職させられた滝沢万治郎も同じく会員であった(因みに、杉崎瑠は基督者であり、米久保耕策も『MYシステム』に、教え子の言「若い時クリスチャンであり」が載り、口絵にクリスマスの劇の写真が掲載されている)。

川井清一郎(1894~1930):長野師範、広島高師卒。

樋口長市(1871~1945):長野師範、東京高師卒。

もう一人の視学委員・長田新(1887~1961)は、諏訪郡豊平村(現・茅野市)出身、広島高師教授。

- 26) 地域経済は、国際相場の影響を直接受ける生糸偏重の経済構造に左右された。
「大正三年七月に欧州大戦が勃発して世界経済は麻痺し、わが国の生糸相場も八月には明治四〇年の半値の七八〇円となり(…)大正七年十一月ドイツの降伏によって大戦は終結したが、糸価は一六二〇円にもはね上がった(…)このため梓川村においては田圃にまで桑が植えられ(…)しかし、大正九年三月からその反動が現われ、糸価は(…)半年で四分の一に暴落してしまい、大正十年十二月ようやく二〇〇円に戻ったが(…)大正末期において桑園面積は最高を示している」

(「梓川村誌」歴史編、平成6年刊、p.499f)

また、倭村大正15年度の決算総額:48,509円、昭和2年度総予算49,484円と記され(同前、p.478)、大正14年のスタンウェイの購入費用(寄付金)の3,000円の大きさが見て取れる。

因みに、隣村の三郷村のデータでは、「費目別割合で(三か村とも)圧倒的に比率の高いのが、教育費と役場費である。教育費は小倉村45%、温村・明盛村が50%を上下し(…)」

(「三郷村誌」II、第三巻 歴史編下、平成18年刊、p.143)

大正7年3月には「市町村義務教育費国庫負担法」が制定され、第三期国定教科書となっていた。「大正末期から昭和初期に及ぶ経済恐慌期には、市町村財政は窮乏を極めた。この法律の制定により、小学校の正教員および準教員の俸給の一部を国庫負担にすることとし、また、大正十年、「一年現役小学校教員俸給費国庫負担法」の制定により、服務中の小学校正教員俸給費全学が国庫負担となった」

(「坂井小学校沿革誌」、昭和62年刊、p.171f)

松岡弘が、既引用部で、地方自治に依拠する教育権擁護の立場から、これに反対する県教育界の見解を付言している(注16)。財政面でも教育の中央集権化が進んでいたのである。

一方、「大正五年に松本・大町間に、大正十一年には松本・島々間に電車が開通し、梓川村からは松本まで馬車が走るなど交通機関が発達した」(「梓川村誌」歴史編)とあるように、村の社会・経済構造も急速に変化していた。米久保・新訓導はこの電車で赴任したことになる。

- 27) オルガンとピアノの比較を、音楽的な違いとして述べたものに以下がある:

「昭和三年十一月一日の西塩田時報に、学校から《ピアノが欲しい》と次のような訴えがなされた。『音楽が人の情操を高潮に達せしむることは今更喋々するの要はない。オルガンの流るゝ旋律は沈重であり、ピアノの発する快活であり明晴である。児童の世界は快晴其のものである。(…)時恰も本年は御大典奉祝の好機、鶴首してこの一隅を待った。在外者の好意によるも可、在村者の寄付に願うも又可(…)』このような記事で、オルガンに代るピアノを所望していた。これから八年有余、昭和十二年三月、篤志家の寄付により初めてピアノが備えつけられた。そして三月六日、地久節の良い日を定めて、上田からたち会をお呼びし、村内婦人団体の後援で音楽会を開催した。どんなにか嬉しかったことであろう」

(上田市「西塩田小学校百周年記念誌」、平成元年刊、p.258f)

- 28) 岩岡巽:「1905年(明治38年)2月に公開されている、日露戦争旅順攻囲戦のアナトーリー・ステッセリと乃木希典の「水師營の会見」(同年1月5日)に立ち会った。『日露戦争活動写真』は岩岡の撮影による(…)下谷区根岸(現在の台東区根岸)で「岩岡商会」を設立し、写真とドキュメンタリー映画のための「撮影所」ももっていた。同社では、1923(大正12年)9月1日の関東大震災のドキュメンタリー

映画を撮影しており、現存する震災のフィルムは岩岡率いる同社撮影のものがほとんどであるという」
(Wikipedia : ja.wikipedia.org/wiki/岩岡巽)

- 29) 13名による2600円余の寄付金額。STEINWAYの「寄付者芳名」銘盤には以下の名前が寄付金額の順に並び、米久保が唯一人特記した「岩岡巽」は中位である：小松傳次郎500円、加藤(岩岡)長重300円、中澤盛人300円、木村次郎250円、白澤道一200円、降旗謙一200円、岩岡巽(東京映画社)200円、塚田胤治150円、藤岡武成150円、小澤定雄150円、森清晃100円、森鐵男80円、上條徳市50円。合計2630円
- 30) 大正9年度の児童数は：南安曇郡下15校の内、温明小学校は1210名で第1位の大校であり、梓小学校は1021名(3位)、倭小学校は549名(8位)の規模である。(「南安曇郡誌」第三巻下、同前、p.62)
- 31) 「温明教育」：学校と家庭・地域を結ぶこの冊子は、明治44年(1911)2月に、前年度着任した伴野文太郎校長の主導で発刊され、以降ほぼ毎年、昭和5年(1930)第19号を最終号とするまで刊行された。(「三郷村誌II」第三巻、歴史編下、平成18年刊、p.206)

赤羽壽平治校長(当時)による本報告は、大正14年3月刊、第14号「附録」に掲載されている。

- 32) 例えば、同年、上伊那郡・飯島小学校でも：
「一月二十六日、時の皇太子(現在の天皇)殿下と久邇宮良子女王殿下の御成婚が取り行われた。村の有志の方々、此の御盛典奉祝記念事業としてピアノ寄附を相はかり、多額の寄附金により当時としては最高のドイツ製ホイリッヒピアノと山葉オルガン夫々購入し寄附された。学校では同年十二月二十六日ピアノ披露の音楽会を挙行政した」(「飯島町学校百年史」、昭和44年刊：p.176)とある。この年、「ご成婚記念」と明記されていないが、県内では、ほかに松本尋常高等小学校・田町部(FEURICH)、松代小学校(長野市)、乙夜間瀬尋常小学校(山ノ内町・山ノ内北小学校：BLÜTHNER)、中川尋常高等小学校(松本市)等に入っている。ドイツ製ピアノの多いことが特徴であろう。
- 33) 梓小学校には、大正12年、松岡弘・倭小学校校長が私淑する岡村千馬太が校長として赴任し、両校の交流は当時いよいよ密になったと考えられる。倭村と梓村は1955年に合併して梓川村となり、両校も1971年に統合された。2005年に松本市に編入する。
- 34) 寄贈者は降旗廣厚(1887~1918)、梓村上野の人。同氏は夫人の実家のある今井小学校にも、翌・明治45年にピアノを寄贈している。このピアノも、東筑摩郡下最初の学校ピアノとされる(明治45年：「梓村降幡氏よりピアノ寄贈を授ける。(郡下学校ピアノのはじめ)」、(今井学校開設九十周年記念「学校沿革誌」、昭和39年刊、p.45)。同家に梓小学校長よりの感謝状が模写され保管されている：「感謝状／一、アップライト山葉製第一号ピアノ一式／二、全上用椅子一脚／右価格計参百六拾円也／(中略)／明治四十四年一月二十日／梓尋常高等小学校長 太田伯一郎印／降旗廣厚殿」。(以上、降旗廣行氏より)

- 35) 南穂高小学校(現・豊科北小学校)
明治42年6月：「第一校舎完成す(…)村内特志者はこの日を永久に記念するため、教授上必要なピアノ、風琴その他の備品の購入を計り、寄附を申込まれるもの六十余名にのぼった」
(「閉校記念誌」、昭和46年刊、p.15)

実際に設置された日付等の具体的記述は見当たらないが、大正3年度：「ピアノ修繕五円也」(同前、p.20)とあり、この間にピアノ設置が行われたと思われる。

- 36) 伏見三男(1906~?)：著書『正しい旋律作曲法：和声法併行』、東邦学芸社、1954年刊
- 37) 今井は、赤羽王郎の主宰する雑誌『地上』(大正8年9月創刊、10年7月終刊)の発行人でもあった。
- 38) 今井信雄：「『白樺』の周辺」、前掲、p.38
- 39) 昭和9年 12月26日：松本市四賀・五常小学校

「午後二時よりピアノ披露演奏会を催す。／演奏者 テナー波田腰協氏／ヴィオリン今井仁氏／セロ今井久雄氏／ピアノ今井昭子氏(…)
(「五常小学校沿革誌」、昭和60年刊、p.39)

昭和11年：松本市四賀・会田小学校

「ピアノ：昭和六年五月にピアノ購入の話が始まり(…)昭和十一年三月二十三日證書受與式の式日を期して披露演奏会が催され、演奏者として上諏訪町今井久雄氏、今井仁氏、今井昭子氏、波田村波多腰協四氏を招待した。来賓として寄贈者三氏をお招きし(…)盛会裡に終わった」
(「会田小学校開校八十年誌」、昭和29年刊、p.24f)

II : 長野県下小学校のピアノ

2.1 : 長野県下小学校のドイツ製ピアノ

前表において、大正13年以降、ドイツ製ピアノの設置が際立って多いのが注意を引く。リサーチの範囲を期間・地域ともに広げて、以下、ドイツ製ピアノの設置状況を列挙する(既引用校は省略。括弧内は関係資料における記述)

- 大正12年: 駒ヶ根市・中沢小学校「ドイツ製ピアノ」
- 大正12年: 飯田市・伊賀良小学校「ドイツ製ピアノ」
- 大正13年: 山ノ内町・山ノ内北小学校、BLÜTHNER, grand
- 大正13年: 長野市・松代小学校、「独逸より」
- 大正13年: 飯島町・飯島小学校、FEURICH
- 大正14年: 飯田市・三穂小学校、「ゴールデンメタルピアノ」「ドイツ製」
- 大正14年: 東御市・和小学校、GROTRIAN=STEINWEG
- 昭和2年: 飯田市・竜丘小学校、「ドイツ製のグランドピアノ」
- 昭和3年: 伊那市・伊那小学校、STEINBERG
- 昭和3年: 松本市・鎌田小学校(松本尋常高等小学校井川部)、BLÜTHNER
- 昭和3年: 長野市・山王小学校、「ドイツ製」
- 昭和3年: 佐久市・岩村田小学校、BLÜTHNER「第五号型平台ピアノ」
- 昭和3年: 佐久市・青沼小学校、「ドイツ製」グランドピアノ
- 昭和3年: 佐久穂町・八千穂南小学校(穂積小学校)、STEINBERG, grand
- 昭和3年: 中野市・高丘小学校、STEINBERG、アップライト
- 昭和5年: 千曲市・更科小学校、CAROL-OTTO
- 昭和6年: 安曇野市・堀金小学校: STEINBERG、アップライト
- 昭和14年: 松本市・本郷小学校: IBACH グランドピアノ
- 昭和20年: 松本市・筑摩小学校: IBACH, WALDSTEIN

他の輸入ピアノとしては、昭和16年「米国製キンボール」を購入した温明小学校(「閉校記念誌」、昭和45年刊、p.34)、および、「舶来」とのみ記され製造国の記述のない昭和17年の川柳小学校(現・長野市篠ノ井西小学校、「川柳小学校誌」、昭和53年刊、p.267f)の2例にすぎない。製造国の記述の必要を認めなかった場合もあろうが、記述された限り殆どがドイツ製である。

ドイツ製ピアノの集中しているのは、大正12年から昭和3年にかけてである。大正13年の温明小学校のスタンウェイ同様、「御大典記念事業」として設置された。当時の国内状況は、第1次大戦後の「戦後不況」、生糸の相場が半値以下に暴落した大正9年(1920)の「戦後恐慌」に続く「慢性不況」下に、大正12年(1923)関東大震災が起きる。これらの混乱の世相から超然として、信州の学校のピアノ設置は続けられた。

大正12年(1923): 駒ヶ根市中沢小学校

- 9月1日: 「ピアノ到着 関東大震災」 「中澤学校百年誌」、昭和47年刊、年表 p.81
- 「大正十二年九月一日には、東京へ注文したドイツ製ピアノが到着している。そして後日全職員がピアノの講習を受けた」 (同前、p.331)

他方、ドイツの敗北で終了した第一次世界大戦の「その間、欧州各国は軍需品の増産に追われて、ピアノはほとんど生産されなかったため、大戦前と同様に、日本にはアメリカ製のピアノが輸入された。しかし、敗戦後二、三年もすると、それまで途絶えていたドイツのピアノが以前にも増して、いっせいに日本に流れ込んできた。(…)ドイツ政府はヴェルサイユ条約で天文学的な金額の賠償を要求され、しかも荒れ果てた国を復興するため、売れそうなものはなんでも輸出して大いに外貨を稼ごうとした。その結果、日本に輸入される外国製ピアノの八割をドイツ製が占めるまでになる。」¹

1920年代のドイツ製ピアノの輸出攻勢が、日本最長河川の源流域、長野県内の小学校にも及んだことになる。その後は、しかし、途絶えてしまった(「資料A」参照)理由を、上掲の著者は、輸入関税率の上昇と国産ピアノの品質向上、政府による国産品愛用の奨励に見ている²。

上表には採録していないが、県内の小学校における最初のドイツ製ピアノについては、「大正二年頃、岡谷の製糸家が岡谷小学校へドイツ製ピアノを寄付した。しかし当時ピアノのできる教師は二人か三人ぐらいしかいなかった」(「長野県教育史」第五巻・教育課程編二、第七章 音楽教育、p. 487f)の記述がある。ただ、岡谷小学校の保存資料には、このピアノを確認できる記述はなく、「昭和13年ヨリ」の「備品台帳」に「書籍：Beyer ピアノ教則本、コールユーブングエン」を見出すにとどまる。音楽教育でのピアノ演奏を目的としたものなのだろうか。

〔ドイツ製ピアノと国産ピアノ〕

以下の表(資料A抜粋)は、国産ピアノ(あるいは「ドイツ製」等の表記の無いドイツ製もありうる)を含めた、大正8年から昭和5年までのピアノ設置の小学校リストである。大正12年から昭和2年にかけてのドイツ製ピアノの設置が顕著である(表中の網かけ)。なお、「年」と「年度」にはズレのある場合がある。2月11日の当時の祝日「紀元節」を選んで設置された場合である。

大正8	安曇・東穂高	佐久・中込	佐久・野沢	小諸						
大正9	丸子中央	上田・浦里	三水第一	宮田	佐久・野沢					
大正10	東御・和	岡谷・小井川								
大正11	松本・柳町	青木	丸子・依田							
大正12	飯田・伊賀良	駒ヶ根・中沢	松本・源池	松本・旭町	佐久・臼田	伊那・高遠	伊那・東春近	岡谷・川岸		
大正13	飯島	安曇・温明	長野・松代	山ノ内北	松本・田町	松本・中川				
大正14	安曇・豊科	松川(北安)	飯田・竜江	飯田・松尾	松本・梓川	岡谷・小井川	飯田・三穂	東御・和	阿智第一	
大正15・昭和1	松本・田川	小諸・坂の上	松本・菅野	大町・平	平谷	長野・通明				
昭和2	飯田・竜丘	千曲・上山田	小海	長野・豊野西	中野・日野	上田・神川				
昭和3	佐久・青沼	佐久・岩村田	松本・鎌田	伊那	飯田・川路	千曲・八幡	安曇・中川手	佐久・大沢		
	佐久穂・穂積	小布施	長野・山王	中野・高丘	中野					
昭和4	長野・共和	飯田・坐光寺	安曇・七貴	長野・三輪	茅野・永明	伊那・富県				
昭和5	木曾福島	飯山・常盤	上田・豊殿	千曲・更科	安曇・西穂高					
昭和6	安曇・堀金	伊那・西春近北								

また、小学校以外では、明治32/33年に長野中学(現・長野高校)にフランス製プレイエル PLEYERが入った³のに続き、ピアノ自体は、明治37年(あるいはそれ以前)に諏訪中学(現・諏訪清陵高校)、長

野師範学校(現・信州大学)にも入っていたとの記録があるが(「長野県教育史」、同前)、製造国等の詳細は不明である。また、「(明治)三七年(1904)に松本高等女学校(現・松本蟻ヶ崎高校)にドイツ製、翌三八年に松本女子師範学校(現・信州大学)に米国製がそれぞれ購入された」(『東筑摩郡松本市塩尻市誌』第三巻下、昭和40年刊、p.709)とあり、前述の倭小学校関係者の回想から、前者が倭小学校と同型のスタンウェイであろうと推察できる。さらに範囲を広げると、大正14年(1925)に、野沢高等女学校(現・野沢南高校)に、創立15周年を記念して、ベヒシュタイン BECHSTEIN のグランドピアノが入っている⁴。

2.2 : 『長野県の学校』および各校沿革誌等のピアノ : 資料 B,C

1983年、信濃教育会から刊行された『長野県の学校』(信濃教育会出版部、編集代表:太田美明、昭和58年)は、当時の県下の学校の沿革総覧であり、県内全ての小・中・高校よりのアンケート回答をそのまま写真版で綴じた各校1ページからなる大部なものである。アンケート書式の項目に「沿革」「施設・事跡」欄があり、その限られた記入スペースに、特に「施設・事跡」欄に、特記事項の取捨選択の苦労もうかがわれる。

「沿革」の期間は明治期の創立からアンケート回答時点までである。開校・統廃合・戦後期の新設等をカバーし、「施設・事跡」もそれに即している。本稿では、学制が変わる昭和22年(1947)までをリサーチ対象とする。この間、小学校全413校の内、戦後の新設、及び統廃合の結果としてアンケートの「施設・事跡」欄を統廃合以降に限定してそれ以前を省略してある場合を除外すると、353校を数える⁵。

ただ、本稿の起点とした梓川小学校について、大正14年「倭尋常高等小学校にグランドピアノ寄贈される」(p.371)とあるだけで、「スタンウェイ」「ドイツ」等の表記はなく、また、三郷小学校についてはピアノ設置自体が記載されていない。そこで、リサーチの範囲を、各校の沿革誌・記念誌・市町村誌等に広げて、できるだけ詳細なピアノ設置に関する文書データを集めて整理した。これらの資料でも、特記事項とするか否かは、執筆者の判断によるものであり、この記載事項を総合したからと言っても、ピアノ設置についてのリサーチが完全になるわけではない。「資料B」は、『長野県の学校』の掲載順に、同書によるデータと沿革誌等の記載事項を総合して地域毎に整理した表であり、また、「資料C」は、ピアノ設置順に並べた年表である。

「資料A」より、ドイツ製ピアノが多く入った第一次大戦終了後から「御大典記念」事業の昭和2、3年にかけてが、県下小学校のピアノ設置の第一次ピークと見做すことができ、昭和9年から12年にかけてが第二次のピーク⁶といえる。昭和15年(1940)の「紀元二千六百年」記念事業もピークと見做せなくもないが、17年から終戦の昭和20年にかけても、殆ど同数に近い数のピアノが県内の小学校に入っている⁷。戦時下であり、戦局が悪化しつつある中、しかも、金属製品の戦時調達・供出が唱えられる中で、絃は勿論、フレームと呼ばれる鋳物鉄を大量に用いたピアノが、なお県内の小学校に設置されていたのが注目される。

以下では、『長野県の学校』の「事跡」として箇条書やワンセンテンスで記されている「ピアノ」設置記述を踏まえながら、各校の沿革史にリサーチ範囲を広げ、教育現場におけるピアノ受容から、戦時下の「音感教育」まで、ピアノの果たした役割を見てゆく。

2.2.0 : ピアノの受容 (1) …森鷗外『文づかひ』

ピアノを日本に最初に紹介したのは、森鷗外『文づかひ』の一節であろう。明治24年(1891)のこと

である。この描写により、近代日本において、限られたサークル（賛美歌の伴奏としての宗教界や1880年代の鹿鳴館等の社交界）内のツールとしてではなく、初めてその魅力が公にされた。ただ、広範な読書界においても、当時、音色も画像も伴わない言語による表現だけで、どれほどの読者が、見も知らないピアノをイメージできたかは分からない。ここで鷗外の感性を虜にしたピアノ独自の魅力を推察・整理してみよう：

(…) メエルハイムは「いつれの譜をかまみらすべき、」と楽器のかたはらなる小卓にあゆみ寄りらむとせしに、イイダ姫「否、譜なくても」とて、おもむろに下す指^{ゆび}尖^{さき}木^き端^{たん}に触れて起すや金石の響き。しらべ繁くなりまさるにつれて、あさ霞の如きいろ、姫が臉^{おほ}際^{さい}に顔^{かほ}来^きつ。ゆるらかに幾尺の水晶の念珠を引くときは、ムルデの河もしばし流れをとどむべく、忽ち迫りて刀槍^{とうそう}斉^{せい}く鳴るときは、むかし行旅^{こうりょ}を脅^{おびやか}ししこの城の遠祖も百年の夢を破られやせむ。あはれ、この少女のころは恒に狭き胸の内に閉ぢられて、こと葉となりてあらはるる便なければ、その繊々たる指頭よりほとぼしり出づるにやあらむ。唯覚ゆ、糸声の波はこのデウベン城をただよはせて、人もわれも浮きつ沈みつ流れゆくを。曲正に關になりて、この楽器のうちに^{ひそ}みしさまさまの^{いと}絃^{じゆん}の鬼、ひとりびとりに窮なき怨を訴へをはりて、いまや諸声たてて泣響むやうなるとき、訝^{いぶ}かしや、城外に笛の音起りて、たどたどしうも姫が「ピヤノ」にあはせむとす。

弾じほれたるイイダ姫は、暫く心附かでありしが、かの笛の音ふと耳に入りぬと覚しく遽にしらべを乱りて、楽器の筐も砕くるやうなる音をせさせ、座を起ちたるおもては、常より蒼かりき。

《1：ピアノ》まず耳を打つ個々の音である。鷗外は、音色を、金属的・硬質な「金石の響き」、「刀槍斉く鳴る」と表現し、明澄・透明な個々の音が連続してゆく調べを「幾尺の水晶の念珠」に喩える。この「水晶の念珠」は、「人もわれも」「糸声の波」に呑み込む。

秩序あるピアノのリズムが、聴く者のリズムを支配して自らに同調させた。また、古人が時の経過を川の流れに看たように、鷗外は、五線譜を「ムルデ河」に看たてたのであろうか、その間を上下する長短綾をなす音符はメロデー（念珠）となって、聴く者を「浮きつ沈みつ」漂わせる。

《2：奏者》イイダ姫は、演奏によって独り籠ることのできる独自の世界に入ってゆく。弾く曲目は語られない。暗譜（内面化；奏者と曲の一体化）による演奏であり、誰かの曲を弾くということよりも、ピアノ演奏それ自体による、言葉によらない自己表現が語られる：「この少女のころは恒に狭き胸の内に閉ぢられて、こと葉となりてあらはるる便なければ、その繊々たる指頭よりほとぼしり出づるにやあらむ」。「ピヤノ」は奏者の自己確認および自己表現の両方向のツールとして語られ、他の誰もこの中に入り込めない。自己完結を希求する彼女の性格を暗示するこの演奏により、ここに、物語の時間から隔離され、閉ざされた円環の時間が生まれた（彼女の世界に乱入し演奏を中断させたのは、城外から聞こえてくる羊飼いの吹く笛の音であった）。

《3：ピアノと奏者》鷗外は、この演奏を、奏者とピアノ自体（絃の鬼）の二者による合作とする。打つ（弾く）者と打たれる物（楽器）、作用と反作用の力学の生む魅力であり、「ピヤノ」は、打たれる事で生命（感情）を得、奏者と対等なレベルで自己主張をする：「この楽器のうちに^{ひそ}みしさまさまの^{いと}絃^{じゆん}の鬼、ひとりびとりに窮なき怨を訴へをはりて、いまや諸声たてて泣響む」。

「ピヤノ」は、ドイツ留学が軍医・森林太郎に詩人「鷗外」を加える間、欧内の彼に伴走し、のちに、長女の手^てにゆだねられる。本稿の管見に入る「森鷗外」は、しかし、前項の「川井訓導事件」で問題

とされた「修身」時間の教材『護持院原の敵討』(大正2年、1913)のみである。

2.2.1: ピアノの受容 (2) …小学校のピアノ

長野県の小学校のピアノ受容について、確認できる範囲で2番目(明治39年)に入った小諸小学校のピアノから見てゆこう:「小山久左衛門氏一族からピアノ一台の寄贈がある。価格四八〇円。ピアノ伴奏によって今までより一層諸儀式が厳粛に行われるようになった」(『小諸学校沿革誌』、昭和57年刊、p.139)。

学校としては、ピアノは楽器としてよりも、式典の儀式ツールと見做している。同・沿革誌は、また、ピアノへの児童の好奇心を採録している:

一年生に入学したのは明治四十年四月だったと思う。(…)二階の大講堂に据えられたピアノ、県下でも珍しいといわれたピアノ、其のピアノに触れて見たいと、専科の先生のいない折を見はからって三四人で二階へ上がり、恐る恐る一寸、たたいて見て、鳴った、鳴った。其の音に自分でたまげて、あやけて下へとび下りる。いたづら小僧のなつかしい思い出だ。

(小諸市芦原中学校十周年記念誌「梅花教育の歩み」、昭和44年刊、p.305)

好奇心を抑えられなかったのは「いたづら小僧」ばかりではない。時代が下って大正14年、ドイツ製ピアノについて:「新ピアノ購入(ドイツ製グロイテアン・シュタインベール)」「(…)二千六百五十円のドイツ製の立派なもの」(以上:東御市「和小学校百年誌」、昭和54年刊、p.226)について、沿革誌は教員の一人の稿(音色自体の持つ魅力であろう)を掲載する。

ひとたび眼を当時音楽教育唯一施設のピアノに転ぜんか、恐らく瞠目仰天せざる者なき逸々品。あの深刻世界不況農業恐慌下噂にもれ聞く時価参千円、ドイツ製世界一級品ピアノ『シュタンウェッヒ』(名称?)とか、当時小学校はおろか全国数える程の逸々品にてなきや。不肖このピアノの音に靈感衝撃の思い募り(…)折良く空室独身寮に入り、ピアノに狂気専念の事態を招く。

(「和小学校百年誌」、同前、p.435f)

ピアノは、教員といえども自由に触れることはできなかった。施錠されていたものも多く、教育機器以上の、神聖ともいえる備品であった。命名され人格を与えられたピアノもある。

昭和3年11月8日:伊那市伊那小学校

御大典記念事業の一つとして、ピアノを町内有志の篤志寄附により購入することになり(…)ドイツのスタインベルク社製グランドピアノを購入することになった。このピアノは当時の価格二千七百元。日本には数台しかなく、当時としては最高のものである。ピアノは「弥栄」と命名された。

(「伊那小学校百年史」、昭和46年刊、p.325f)

待望のピアノ設置の披露音楽会は、多くは「紀元節」が選ばれ、最高の“ハレの場”となった。

昭和十二年二月、当村稲田区出身の宮沢源十郎(長野市在住)から若槻小学校にスタンドピアノ一台が寄贈された。同月十一日、紀元節の式典につづいて、ピアノ披露音楽会が開催された。この披露には、長野県師範学校の音楽科教官山田辰男教諭が、弾き初めをおこなった。オルガンはひくものだがピアノは叩くものだという説明を聴いて、「叩いても壊れてしまわないものだろうかと思議でならなかった」と、その時の印象を述懐する卒業生がいる。このころ近隣には、ピアノが設備された小学校は極めて稀であった。

(長野市若槻小学校「百年史」、平成3年刊 p.180)

児童はもちろん、披露音楽会に正装して列席する村民にとっても、ピアノとその奏でる楽曲は、“ハレの場”の緊張をさらに強いたであろう。奏者の端正/華麗なステージ衣装も、和服で居並ぶ伝統社会に、異質であるゆえの憧れを生む場合もあったであろう。奏でられるピアノ曲は、天上との距離を窺わせた。

昭和十六年二月十一日午後二時、全校生徒や村人も参列してピアノ贈呈式が行われた。(…)披露演奏は長野高等女学校音楽教師の町田等教諭によって奏でられ、加茂小音楽担当のバイオリン独奏も賛助演奏された。曲目はメヌエットとかガボットといった専門曲で、参列者に馴染みがなかったが「桃太郎変奏曲」は生徒もほっとして聴いていた。

(長野市浅川小学校「百周年記念誌」、平成2年刊、p.151)

麻績小学校に寄贈されたピアノの披露唱歌会は、昭和十四年三月三日に実施された。(…)ピアノ披露会には、来賓四〇人、父兄五〇人が参加し、最後は招待員の指揮で《愛国行進曲》を斉唱した。

(「麻績小学校百年史」、昭和52年刊、p.378f)

学校のピアノが、「徳性ヲ涵養スルコトガ肝要デアル。音楽ニハ人心ヲ正シ、良俗ヲ助ケル」目的の「唱歌」授業⁸で弾かれるのは伴奏であり、「メヌエットとかガボット」のピアノ曲ではなかった。楽器・ピアノで奏でられる曲は「器」であり、そこに盛られた唱歌としての歌詞は、曲想により高揚されて児童の「徳性」を育み、節度を保つ伴奏付きの斉唱・合唱によって児童の情操を統一し、統一によって児童全体の「良俗」を育む。披露されたピアノは、明澄な音色と明確なリズムによって、整然とした秩序を作る格好の楽器となった。戦時体制に入り社会情勢が変わっても、ピアノに代表される楽器は、器としての機能と、概念(歌詞)を伴わない抽象性によって非難攻撃から免れた(後述)。

2.2.2: ピアノの受容 (3) …村のピアノ

ピアノの寄贈は、倭小学校のスタンウェイのように、村外に出た成功者の協力による場合が少なくなかった。奏者が容易に持ち運べる他の楽器の場合が奏者中心であるのに対して、逆に奏者を引き寄せる不動の中心であるピアノは、その質量によって、また彼らに対しても、郷里の中心、学校・講堂の壇上の中心からの張力のある求心力を形成する。

大正12年:「職員会で、音楽教育についての議論がなされ、教育の根本問題⁹にふれ、単なる知能の面だけに眼を向けることなく、情操を培う人間教育という点に力を注ぐべきであることが力説された。そこで、情操を培う中心的教科は、音楽であるから、オルガンによる授業からピアノによる授業と、レコードの音楽鑑賞にかえるべきであるとした。当時の学校長であった藤沢正三郎は、このような教育の考え方を受け入れ、強力におし進めた。学校長藤沢正三郎の名で、ピアノ・蓄音器寄付金募集のための趣意書をかき、高遠出身の在京者を中心に寄付をあおいだ(…)この趣意書によってなされた募金はたちまちに集まり、同年八月にはグランドピアノと蓄音機が購入された。」(伊那市高遠小学校「信州高遠百年史」、昭和47年、p.485f)

大正14年:「三穂小学校にはじめてのピアノが寄贈されたのは、大正十四年六月のことであった。当時、当村関坂の出身で、日清汽船会社の社長に出世していた森弁治郎氏から寄附されたものである。(…)たて型「ゴールデンメタルピアノ」ドイツ製という」

(飯田市三穂小学校「三穂村史」、昭和63年刊、p.466)

昭和2年:「中山晋平先生よりピアノ一台寄贈される」(中野市日野小学校、「長野県の学校」、p.460)

昭和3年:「中山晋平ピアノ寄贈」(中野市中野小学校、「中野市誌」歴史編・後篇、p.464)

昭和11年6月23日:「村外他出会員は《母校講堂新築記念》として、ピアノ寄贈をすすめていた。その趣旨を次のように述べている《この時にあたり、吾等他出会員打って一丸となり、慶賀の記念としてピアノ一台母校に贈り、情操教育に資し郷土の文化を高め、益々吾等の背

景を強力ならしめ、且後進の思い出を豊かならしめんとす》

(木島平村木島平南部小学校「南部小学校改築記念誌」、昭和63年刊、p.161)

昭和12年：「現在体育館にピアノが置かれている。古いけれども音は確かでも音楽会や集会の時に美しい音色を響かせている。このピアノは、昭和十二年体育館が落成した時に、県外在住の卒業生から寄贈していただいたものである。

《十二年の学校日誌》

五月二十八日 ピアノ寄附依頼状を出す

六月七日 篠ノ井発列車で丸田校長、宮沢助役と共に東京横浜方面へピアノ購入資金募集のため出張する。

三月七日 例年学芸会を行っていたが、本年はピアノ披露をかねて音楽会をなす。師範学校山田先生ピアノ演奏する」

(長野市「東福寺小学校閉校記念誌」、昭和51年刊、p.190)

昭和14年：「大村出身の竹村喜太郎氏(奉天銀行の頭取)の遺言により、遺族が昭和14年寄贈。

2月11日：ピアノ寄贈記念「イバツハ」(グランド)披露演奏会開催」

(本郷小学校「記念誌 百年の歩み」、平成20年刊、p.24)

昭和15年：「東京新宿中村屋主人相馬愛蔵氏よりピアノ寄贈さる」

(穂高小学校「開校八十五周年記念誌」、昭和34年刊、p.4)

昭和17年：「在東京木島会有志寄贈のピアノ披露式並記念音楽会」

(木島平村木島小学校「木島小学校沿革史」、昭和41年刊、p.18)

学校にとって寄贈ピアノは、音楽教育と並んで、「志を立てて郷関を出た」同窓生が「身を立て名を挙げ」ての、母校への感謝と後輩への激励の備品として格好の教材ともなったのである。

児童たちの勤労奉仕の収益金でピアノを購入することも、教育的配慮の結果であろう。

昭和16年12月1日：「ピアノ注文。一般より1,950円、学校より(この中には、児童の勤労奉仕謝礼、いなごとの金等が含まれる)1,713円をあてる」

(飯田市「山本小学校沿革史概要」、昭和39年刊、p.7)

昭和19年：「ピアノ購入 児童の勤労報酬に依る 5千円也」

(北安曇郡・南小谷小学校閉校記念誌「いま、百八年の想いを語る」、平成17年刊、p.138)

また、村にとっても、学校のピアノは、音楽教育としての必要以上のものであった。なぜなら、学校は、村予算の半ばを投資して村の(子供たちの)将来を委ねる唯一の場(教育機会)であるととともに、折にふれ式典等を挙げる村の最高の“ハレの場”であった。正装した村内外からの参列者が、最大数一堂に会することのできる広い施設は、多くの自治体では学校の講堂(体育館)の他にはなかった。ピアノは、そこで“ハレの場”を演出する。黙する単なる黒光りの調度品ではなく、壇上の校旗や国旗の飾られた“ハレの空間”に、校歌や国歌を前奏・伴奏することによって、“ハレの時間”を創出した。余裕のある学校が、教育用のピアノはアップライトを音楽室に据え、グランドピアノを講堂(の壇上)に据えたのは、音量と空間からの必然性からだけではない。自然と共に生活する伝統的農村の円環的時間の中心に、新しく、「水晶の念珠」による円環が、“ハレの場”の小さな同心円のように創られる。

2.2.3：戦時下のピアノ…「音感教育」とピアノの「疎開」

沿革誌は、戦局の悪化に伴い、学校・学童からの金属の供出に触れている。

昭和17年9月17日：「鉄回収が始まり、廊下の鞆掛・傘掛・外の鉄網・柵の鉄棒を取り外す」

(松本市開智小学校「史料開智学校」vol.21、平成10年刊、p.380)

昭和18年7月2日：「金ボタン回収について県指令あり、生徒の所持せる金ボタン数調査(桑原分校)」

(上伊那・中川東小学校「南向小学校百年誌」、昭和49年刊、p.62)

昭和19年3月13日：「元校長樋口(三村)壽八郎の胸像供出壮行式。金属の回収、徹底強化」

(松本市開智小学校「史料開智学校」vol.21、同前、p.384)

昭和19年度：「アルミニウム緊急動員、資材調査の県通牒」(航空機用)

(松本市開智小学校「史料開智学校」vol.16、平成5年刊、p.583)

昭和20年3月：「アルミ貨の弁当供出」

(川田小学校開校百周年記念誌「100年のあゆみ」、昭和46年刊、p.159)

昭和20年5月8日：「アルミ弁当壮行式」

(伊那市高遠小学校「藤沢学校の歩み」、昭和54年刊、p.282)

昭和20年5月：「アルミ貨引換、百四十二円七〇銭」(芝沢小学校「新村小学校百年誌」、昭和48年刊、p.97)

昭和20年6月：「アルミ貨第二回 回収総額一五三円四五銭」(「和田小学校百年史」、昭和48年刊、p.87)

ただ、出征兵士の壮行会や凱旋パレードを先導するブラスバンドの諸楽器は勿論、同様に金属を使用するハーモニカ、アコーディオン等も、戦意高揚のため前線に赴く慰問団に必要な楽器とされた。「楽器は兵器である」とされた所以である¹⁰。

昭和19年6月15日：「吹奏楽器を新たに購入」(松本市開智小学校「史料開智学校」vol.21、同前、p.384)

昭和20年3月20日：「ブラスバンド・ピアノ披露音楽会」

(松本市「中山小学校百年史」、平成元年刊、年表 p.386)

ピアノの設置も途絶えることはなかった(資料A,C)。その披露演奏会が、学童らが空襲に備える中でも開催されている。やがて飛来するであろう敵機の爆音を気にしながらのピアノ、束の間の“ハレの場”である。

昭和19年12月14日：「高一・初六・五、分担して防空壕を掘る。防空対策として学籍簿や学級日誌を竹行李に入れる」

12月17日：「今町石曾根玉三郎寄贈のピアノ披露演奏会実施」

(以上、松本市開智小学校「史料開智学校」vol.21、同前、p.386)

なぜなら、ピアノは、戦時下のこのころ、「君が代」斉唱等の伴奏に必要であったばかりでなく、音楽教育当初の目的「情操教育」・「徳育」の他に、新たに「音感教育」¹¹が加わっていたからである。

ピアノ購入に関して 昭和十七年十月 大桑国民学校(要望書)

楽器としてのピアノは其の音域の広いこと、音色の美しいこと、音量の豊富なこと、発想の自由な点等に於て、他の楽器の到底及ばない処であります、その上国民学校に於ては音感教育を極めて重要視して居りますが、これには是非ピアノが必要であります。今日に於て学校にピアノを備えることは児童等の情操を豊かにしてなごやかな気持を与える上からも又音感に鋭敏さを与える上からも絶対に必需品であり決してぜいたく品ではないと信じます。然も学校では授業日である限り毎日数時間づつ使用致さねばならないのであります(…)

(大桑村「大桑小学校百年史」、昭和47年刊、p.69)

(…)戦時中は音楽も敵機識別などということで音感教育も盛んに行われ、前々からピアノを

欲しいとは思っていたが戦争のため物資不足で、入手することが困難であった。一九年ころは本土決戦に備えて、大都市は強制疎開の真最中であった。仲介の労を取ってくれる人のいたおかげで、待望のピアノを一度に二台も買うことができた。ピアノを購入できたものの、このころの日本は次第に敗戦に追い込まれているときで、教室での学習は行われなくなっていた。しかし間もなく終戦、二台のピアノは半世紀使われてきた古いオルガンとともに、戦後の暗い世の中に明るい燈火をかきたててくれた。(茅野市金沢小学校「信州金沢学校百年史」、昭和49年刊、p.330)

学童の大都市から地方の小学校への強制疎開とともに、運搬の容易でないピアノも空襲を避けて地方へと脱出する。疎開先が代価を支払っての購入でもある。

昭和19年:「学校にピアノ寄贈される。(現在講堂にあるもの)ピアノ配給の割当があったのを機に、青森のぶ、池田きう、荻原あいの三氏から寄贈をうける。披露式には音楽学校より、酒井弘氏を招いて演奏を行う」

(佐久市中佐都小学校「中佐都小学校の歩み(開校八十周年記念誌)」、昭和45年刊、p.70)

昭和20年:「特筆すべきことは戦雲急を告げる昭和二十年の初め物資が極めて不足し食糧事情の最悪の時期に本校に二台もピアノが入ったことである。一台はイバツハ、他の一台はワルトシュタイン。スタンドピアノであった。(…)この二台のピアノは東京にあったものであるが戦災から守るため地方へ移すことになり、松本市の日章堂と竹田楽器店が引受けることとなり、その中の一台は西五町の小林清章氏が個人で寄贈され、他の一台は本校校医の赤羽先生外の方々によって購入寄贈された。当時は戦時下のため商工省の許可を得てようやく楽器店から入荷された」

(松本市筑摩小学校「筑摩学校六十年史」、昭和54年刊、p.122f)

さらに空襲が県内の都市にも及ぶようになると、県内小学校のピアノも、空襲の危険のより少ない場所に疎開する。

昭和20年6月22日:「ピアノ・ミシンを東筑摩郡広丘吉田光明寺へ疎開」

7月28日:「東筑摩郡中川村矢久沼田一方へピアノ・書類など疎開」

(以上、松本市開智小学校「史料開智学校」vol.21、同前、p.387)

昭和20年7月11日:「ピアノ、自動秤入山辺村大和合分教場へ。ミシン二台入山辺校へ各疎開す」

(松本市源池小学校「創立八十周年記念誌」、昭和59年刊、p.62)

昭和20年7月27日:「B29一機上田市上空を通過す。ピアノ、ミシン、児童教科書等の疎開をなす」

(上田市東小学校「七十年の歩み」、昭和61年刊、p.12)

昭和20年7月31日:「ピアノを分教場へ、オルガンを大御食、五十鈴両社へ疎開」

(駒ヶ根市赤穂小学校「赤穂小学校百年史」、昭和47年刊、p.902)

昭和20年8月8日:「ピアノ、入山辺国民学校へ疎開」

(松本市山辺小学校「里山辺小学校誌」、昭和47年刊、p.111)

昭和20年8月12日:「ピアノ長瀬村依田氏方へ疎開」

(上田市北小学校「北小学校五十年史」、昭和53年刊、p.65)

昭和20年:「ピアノ倭村青木忠文氏方へ疎開」、「ピアノ疎開地よりかえる」

(松本市田川小学校「創立六十周年記念誌」、昭和61年刊、p.238)

ピアノは、戦時下にあつて、軍需物資としての供出を免れただけでなく、人命あるいはそれ以上に尊重されたのである。

おわりに

戦後の小学校統廃合の結果、今は跡形もない地に、かつて小学校があり、そこに村の財政規模、教育予算とのバランスを欠くほど高価なグランドピアノ、スタンウェイが入った。当初は特異に思えた倭小学校のピアノ設置は、しかし、リサーチの過程で、当時の県内では広範囲に見られたこと、また、スタンウェイに限らずドイツ製ピアノが多かったことも明らかになった。それは第一次大戦の敗戦国の経済状況が、山国信州にまで及んだ事例でもある。

第一次大戦の終結は、また戦勝国・日本に「大正デモクラシー」をもたらした。倭小学校は、その一つとしての自由主義教育、信州に特有な「白樺教育」の一枚でもあった。伝統的地域社会に容れられず「倭小事件」となったあとの(同校の)スタンウェイ購入は、その反省から、理論とシステムの実例を伴った新しい教育運動が接木されるなかでのことであった。

ただこの時期、多くの村は、教育費の負担に財政が耐えきれず、国庫負担を要請し始めていた。これにより、教育界が中央集権体制に組み込まれてゆくのは必然でもある。国家主義教育が自由主義教育を窒息させ、「教権」の自律性・独立性も危うくなる。倭小学校のスタンウェイ設置の背景は、教育界のこの転換期の数年間の縮図でもあった。

その後、人が替っても、また戦時下にあつても、村の(学校の)ピアノは、新たな任務・音感教育を加えることで生きながらえた。疎開し、空襲を逃れたピアノも、しかし、戦後の産業構造の変化、都市化現象に伴う農山村の過疎化と少子化には抵抗できなかった。スクールバス等により通学区が拡大し、合理化による統廃合が促進される中で、場所を占め不動の中心であったピアノは、新たな講堂、音楽室にそれぞれ一つあれば、それ以上は邪魔物となる。特に調律や部品調達の伴う修理に、より費用がかかるドイツ製ピアノは真っ先に廃棄の対象になったと考えられる。

廃棄をまぬがれ、多大な費用を費やしての修復は、しかし、梓川小学校のスタンウェイに限らない。当時の村が今なお独立の自治体である場合か、町村の合併を前に、それまでの独立の自治体であった時代の誇るべき記念、文化遺産としての認識であろう。それは、現在に続く中央集権化が、特に教育行政において決定的となった時代の証でもある。近年になり、その修復が、転任を繰り返さざるを得ない教員より、地域の同窓会や教育委員会等が保存運動の中心となって実現したケースがそれを暗示する。現在、修復記念コンサートが定期的に継続・開催されているドイツ製ピアノ(いずれもグランドピアノ)としては、以下が管見に入っている。

BLÜTHNER 大正13年(1924) …山ノ内町・山ノ内北小学校〔旧・乙夜間瀬小学校〕、
STEINBERG 昭和3年(1928) …佐久穂町・八千穂小学校〔旧・穂積小学校〕、

- 1) 前間孝則・岩野裕一：『日本のピアノ100年』、草思社、2001年刊、p.123f
- 2) 「昭和一〇年代に入ると(…)この頃、政府はさまざまな機会をとらえて、「国産品を愛用すべし」との通達を出して啓蒙していた。昭和の初め頃には国内販売の半分近くまでに落ちていた国産ピアノが七割近くに盛り返していた。それでも、外国製ピアノの評価は相変わらず高く、スタインウェイ、ブリュートナーなどの高級品をはじめとして二、三〇種が輸入されていた。だが、関税率が高くなってくると、これが障害となり、部品で輸入して国内で加工、組み立てをするケースが増えてきた。部品で輸入した方が関税

が安いからである。」(前間孝則・岩野裕一:同前、p.176)

- 3) 「明治二〇年代のオルガンについて、三〇年代にはピアノが学校に入った。県下では県立長野学校が創立間もない三〇年代の初めにピアノを備付けている。同校初代校長三好愛吉は(…)ピアノの必要を痛感していたが予算が許さず県当局の理解を得ることが困難であったのであろう、一日職員生徒を集め、冬季の暖房を廃してその費用でピアノを購入しようと提言、一同決心を固めて賛成した。北信濃の寒気に耐えて、待望のピアノを購入した。(…)その後、同校の生徒はこれを「神聖なるピアノ」と語り継がれ、困苦に耐える訓育の材料にもされて、現在長野高等学校に保存されている」

(『長野県教育史第五巻教育課程編二』長野県教育史刊行会編、昭和49年、p.487f)

- 4) 2012年7月より修復(修復費用240万円)、2013年4月11日修復記念披露コンサート

(信濃毎日新聞、2013年4月12日付)

- 5) 戦後統合及び新設された小学校で、「施設・事跡」が該当期間を含まない学校を除く(昭和58年現在)。

南信：104校=114・10校 諏訪：27校(31-4校)、

上伊那・伊那市・駒ヶ根市：30校(36-6校)、

下伊那・飯田市：47校(戦後新設なし)

内、「ピアノ」設置記載の小学校…15校

中信：71校=91・20校

木曾：21校(22-1校)、

塩尻市・東筑摩：17校(21-4校)

南安曇：6校(11-5校)

北安曇・大町市：11校(15-4校)

松本市：16校(22-6校)

内、「ピアノ」設置記載の小学校…16校

東信：67校=79・12校

佐久・小諸：36校(46-10校)

小県・上田：31校(33-2校)

内、「ピアノ」設置記載の小学校…18校

北信：111校=129・18校

更級・埴科・更埴市：12校(13-1校)

上高井・須坂市：11校(13-2校)

下高井・中野市：18校(戦後新設なし)

上水内：19校(21-2校)

下水内・飯山市：10校(15-5校)

長野市：41校(49-8校)

内、「ピアノ」設置記載の小学校…16校

- 6) 昭和9年：10校、昭和10年：7校、昭和11年：20校、昭和12年：11校

- 7) 昭和15年：13校、16年：8校、17年：15校、18年：13校、19年：17校、20年：12校

- 8) 明治14年、高遠の出身である井沢修二(1851~1917:明治8~11年アメリカ留学)音楽取調掛長は、『小学唱歌集』初篇に以下の緒言を寄せている：

凡ソ教育ノ要ハ德育知育体育ノ三者ニアリ、而シテ小学校デハ最モヨク徳性ヲ涵養スルコトガ肝要デアル。音楽ニハ人心ヲ正シ、良俗ヲ助ケル効用ガアル。(…)先ニワガ政府ガ初メテ学制ヲ發布シタ時唱歌ヲ普通学科ノ中ニ入レ、必修ノ科目トシ、ソノ教則綱領ヲ定メテ小学校デハ必ズ学バナケレバナラナイト定メタ。(…)ワガ国固有ノ音律ニ基ヅキ、西洋音楽ノ長所ヲ取り、ワガ国ノ短所ヲ補イ学校ニ適シタモノヲ選定セシメタ。(…)ココニコレヲ編集シテ名付ケテ「小学唱歌集」トイウ。

(森下正夫『明治文化の至宝井沢修二』、伊那市教育委員会発行、平成21年、p.36f)

井沢はアメリカ留学からの帰国に際し、音楽の師であったメーソン(L. W. Mason: 1818~1896)を招聘し、メーソンはピアノ教本「バイエル」を手に来日した。以降「バイエル」は日本の代表的なピアノ教本となる。

- 9) 井沢修二(前注)と同様に、「德育知育体育」について、明治15年長野県師範学校初代専任校長として着任した能勢栄(1852~1895:明治3年渡米、明治9年オレゴン州パシフィック大学理学科を卒業、学習院教授からの来任)も：教育ヲ三種ニ分チ、智育ヲ以テ心ヲ養成シ、体育ヲ以テ身体ヲ養成シ、此心ト体トノ二ツヲ程能ク保護スル為ニ德育ヲ以テスルナリ」として、智育・体育・德育を説明し(『長野県教育史』第一巻、総説編一、昭和53年刊、p.806)、

(…)教育とは、德育・知育・体育の三者相まって初めて純乎たる完全の教育となるのであって、「長野県下ノ小学教員ニ告ル文」を発表している。(…)これによると(…)「德育ノ要ハ人ノ身ヲ修メ行ヲ正フセシムルモノナレバ、先哲ノ嘉言善行ヨリ道徳ノ理ヲ教フルハ勿論ナレドモ、人ノ心情ハ

聖賢ノ言ヲ誦シ心理ノ意ヲ悟リ、直チニ過ヲ改メ善ニ移ルモノニアラズ。人ノ過ヲ改メ行ヲ正フスルハ、直実其心中ニ感動シテ措クアタハザルヨリ之ヲ服膺^{ふくよう}実行スルニ至ルナリ。此心情ヲ感動スルノ目的ヲ達セントスルニハ、唱歌音楽ヲ舎キ他ニ求ムベキモノナシ」と説いて、唱歌・音楽に徳育の意味をみとめ、「今学校ニ於テ唱歌ノ科ヲ設ケ、幼児ノ知慮好悪未ダ定マラザル時ニ、其心情ノ外物ニ誘ハレテ發動スルヲ防ギ、至善至良ノ歌曲ヲ教ヘ以テ心裏ヲ薰陶シ徳性ヲ涵養シ、温良方正ノ風儀ヲ惹起スレバ、他日真正ノ良民トナリ各自ノ義務ヲ尽シ、社会ノ平和ヲ維持スル事ヲ得ルニ至ルベシ」として、師範学校においても自らバイオリンを奏して唱歌を教えたのである。

(『長野県教育史』、同前：p.802)

10) 楽器の生産について、「日本楽器」の東京支店長は：

(…) 関係官庁や軍部の関係者らに足繁く通って「音楽は軍需品なり」「楽器も兵器なり」「音感教育が飛行機の爆音の聞き分けや機種^{しゆ}の判別に役立つ」と説いた。さらには、前線の銃後における士気高揚を図るためとか、傷病兵の慰問などにおいても音楽は重要な役割を果たすとして、楽器生産の必要性を力説して回った。その結果、内閣情報局に楽器販売協議会を設置してもらえることになった。これにより、内務省や文部省、厚生省、鉄道省、逓信省、軍需省などの関係者らから、楽器の製造にともなって必要となる原材料の配給について便宜を図ってもらえるようにしたのだった。

(前間孝則・岩野裕一：同前、p.184)

11) 「上空に飛来する敵機の機種を、爆音で判断する必要がある上空監視隊や高射砲隊の隊員を教育するため、さらには、潜水艦の乗員が航行する敵艦の機種をスクリー音から識別するため、音感教育が海軍の水雷学校で行われたりした」

(前間孝則・岩野裕一：同前、p.186)

資料A:年度別ピアノ導入表

～明治43	諏訪・高島	小諸	安曇・南穂高	佐久・岩村田														
明治44	松本・梓川																	
明治45・大正1	松本・今井	箕輪中部																
大正2	佐久・岩村田																	
大正3	松本・開智																	
大正4	青木	上田・中塩田																
大正5	辰野西																	
大正6																		
大正7	松本・筑摩	塩尻																
大正8	安曇・東穂高	佐久・中込	佐久・野沢	小諸														
大正9	丸子中央	上田・浦里	三水第一	宮田	佐久・野沢													
大正10	東御・和	岡谷・小井川																
大正11	松本・柳町	青木	丸子・依田															
大正12	飯田・伊賀良	駒ヶ根・中沢	松本・源池	松本・旭町	佐久・臼田	伊那・高遠	伊那・東春近	岡谷・川岸										
大正13	飯島	安曇・温明	長野・松代	山ノ内北	松本・田町	松本・中川												
大正14	安曇・豊科	松川(北安)	飯田・竜江	飯田・松尾	松本・梓川	岡谷・小井川	飯田・三穂	東御・和	阿智第一	野沢高女								
大正15・昭和1	松本・田川	小諸・坂の上	松本・菅野	大町・平	平谷	長野・通明												
昭和2	飯田・竜丘	千曲・上山田	小海	長野・豊野西	中野・日野	上田・神川												
昭和3	佐久・青沼	佐久・岩村田	松本・鎌田	伊那	飯田・川路	千曲・八幡	安曇・中川手	佐久・大沢										
	佐久穂・穂積	小布施	長野・山王	中野・高丘	中野													
昭和4	長野・共和	飯田・坐光寺	安曇・七貴	長野・三輪	茅野・永明	伊那・富県												
昭和5	木曾福島	飯山・常盤	上田・豊殿	千曲・更科	安曇・西穂高													
昭和6	安曇・堀金	伊那・西春近北																
昭和7	上田・塩尻	山ノ内東	坂城	千曲・更科	坂城・村上	木曾・上松												
昭和8	白馬・神城	松本・開智	塩尻															
昭和9	白馬北	塩尻・広丘	塩尻・洗馬	長野・七二会	朝日	松本・五常	安曇・北穂高	駒ヶ根・赤穂	佐久・北牧	南安・高家								
昭和10	松本・芳川	上田・別所	塩尻・片丘	上田・北	長野・鍋屋田	岡谷・湊	中塩田											
昭和11	松代・東条	大町・平	松本・島内	松本・会田	中野・平野	木島平南	西箕輪	柏原	松本・波田	茅野・宮川	池田							
	松本・里山辺	松本・芝沢	塩尻・宗賀	木曾・日義	長野・真島	箕輪中部	長野・古里	木島平中部	佐久・伍賀									
昭和12	長野・若槻	西塩田	長野・西条	生坂南	千曲・戸倉	中川西	喬木第一	中野・豊井	篠ノ井東	大町・常盤	佐久・野沢							
昭和13	上田・武石	飯田・丸山	上田・東	飯山・東	小諸	千曲・埴生	山形		四賀・中川	丸山								
昭和14	松本・本郷	麻績	諏訪・城南	筑北・本城	佐久・西	諏訪・豊田	更埴・治田	佐久中央										
昭和15	入山辺	松本・島立	上田・川辺	安曇・明北	長野・柵	野沢温泉	佐久・田口	松本・錦刮	青木島	東穂高	牟礼・高岡							
	下条	長野・朝陽																
昭和16	長野・浅川	伊那・美和	上田・塩川	飯田・山本	安曇・三郷	長野・川田	中野・平岡	小諸・東										
昭和17	長野・川柳	茅野・泉野	飯島・七久保	長野・清野	小布施・都住	松本・岡田	川上第一	川上第二	長野・保科	長野・通明	飯山・木島							
	松本・中山	筑北・坂北	長和・和田	立科南														

昭和18 茅野・湖東 大桑 佐久・切原 長野・下氷飽 根羽 阿南・富草 佐久・三井 伊那・新L 飯田・下久堅 長野・豊野東 茅野・玉川
 富士見・落合 飯山・秋津

昭和19 長野・牧郷 南木曾・読書 塩尻・贄川 上田・浦里 松本・今井 諏訪・四賀 松本・開智 南小谷 筑北・坂井 須坂・小山 須坂・高甫
 木曾・三岳 伊那東 上田・本原 佐久・中佐都 佐久・大沢 長野・芋井

昭和20 松川東 茅野・北山 松本・筑摩 松本・中山 白馬・北 上田・川西 茅野・宮川 千曲・東 泰阜北 松川中部 生坂中央
 茅野・金沢

昭和21 坂城・南条

資料 B : 『長野県の学校』の「ピアノ」記載校
および
閲覧「沿革誌」等 (地域別)

- ① 記載順は「長野県の学校」に準拠、「松本市」分は差替
E : 東信、S : 南信、W : 中信、N : 北信
② 帰属の郡・市は、昭和 58 年当時
③ ○ : 「ピアノ」記載あり ● : 「ピアノ」記載なし ◎ : 外国製「ピアノ」記載

佐久・小諸

- E001) 川上第一小学校 (川上村)
○ 「川上教育百年」(南佐久郡)、昭和 49 年刊、p.782
昭和 17 年 9 月 19 日 : 「第一小ピアノ及び電蓄寄付披露音楽会を開催」
11 月 17 日 : 「第二小ピアノ披露音楽会を開催」
- E002) 川上第二小学校 (川上村)
○ 「長野県の学校」、p.5 : 昭和 17 年「ピアノ披露音楽会開催」
- E003) 南牧南小学校 / E004) 南牧北小学校
● 「南牧教育九十年誌」、昭和 40 年刊 : 記載なし
● 「わたしたちの郷土南牧」、昭和 50 年刊 : 記載なし
- E005) 北牧小学校
○ 「(北牧小学校) 閉校記念誌」、平成 24 年刊 : 昭和 11 年「ピアノ購入・披露式」(p.32)
「昭和 9 年にグランドピアノが置かれ、その年当時の小林校長先生と交流のあった文学歴史の研究者中村孝也先生に作詞を、作曲は長野師範学校の先生をしていた福井直秋先生にお願いをし校歌の誕生となった」(p.2)
- E006) 小海小学校
● 「(小海小学校閉校記念誌) トンネル」、平成 24 年刊 : 記載なし
- E007) 南相木小学校
● 「南相木教育百年誌」、昭和 48 年刊 : 記載なし
- E008) 北相木小学校 : 沿革資料未見
- E009) 八千穂小学校 [穂積小学校] (佐久穂町)
○ 「小海町志 (近現代編)」、平成 9 年刊、p.130 : 穂積小学校 : 「昭和二年 (…) ピアノを購入して音楽会」
◎ 信濃毎日新聞、2013 年 8 月 18 日付「斜面」 : 「ご大典記念」 : 2500 円余(現在の 400 万円)
○ 「(八千穂南小学校) 沿革史」(創立九十周年記念)、昭和 39 年刊、p.26
昭和 3 年 : 「ピアノ購入 (12・20)」
○ 「八千穂南小学校 (穂積小学校) 閉校記念誌」、昭和 55 年刊、p.68 : 昭和 3 年 : 「ピアノ購入 (12・20)」
○ 「小海町志 (近現代編)」、平成 9 年刊、p.130
昭和 2 年 : 穂積小学校「昭和二年 (…) ピアノを購入して音楽会」
● 「閉校記念誌——八千穂北小学校のあゆみ——」、昭和 55 年刊 : 記載なし
- E010) 佐久東小学校 (佐久市)
● 「佐久東 (大日向) 小学校沿革史」、昭和 53 年刊 : 記載なし
● 「佐久東小学校閉校記念誌」、平成 24 年刊 : 記載なし
- E011) 佐久中央小学校 (佐久市)
○ 「(海瀬学校) 八十年史」、昭和 56 年刊、p.200 : 昭和 14 年「ピアノ購入、一二月購入祝をする」
- E012) 佐久西小学校 (佐久市)
○ 「佐久西小のあゆみ」、昭和 53 年刊、p.164 : 昭和 14 年「ピアノ到着 (一千三百円)、(七、二八)」
- E013) 青沼小学校 (佐久市)
○ 「長野県の学校」、p.16 : 昭和 3 年「寄付金にてピアノ購入」
◎ 「学びの道をふみゆきて (創立百三十周年記念誌)」、平成 16 年刊
昭和 3 年 : 「ピアノ寄付金にて購入」(p.38)
「情操教育を高めるよう音楽学習に必要な、ピアノを購入して設置することになり、昭和三年九月に着手して、同年十月八日にドイツ製の立派なグランドピアノを購入した。費用は全部村内篤志家の寄付を集めて、東京の西川楽器店から購入した。購入費は当時、金二二〇〇円の巨額であった」(p.68)
○ 「青沼の自然と歴史」、昭和 40 年刊、p.247
「今上天皇御即位の大典の年の昭和三年に奉安殿の建設を計画し、四年六月十日に完成した (…)
なお特志寄付 (1829 円) によるピアノも設置された」
- E014) 田口小学校 (佐久市)
○ 「田口小学校百三十周年記念誌」、平成 15 年刊、p.147 : 昭和 15 年「ピアノ購入 (10 月 31 日)」
○ 「田口小学校百周年記念誌」、昭和 48 年刊、p.45

- E015) 切原小学校 (佐久市臼田)
 ○「切原小学校百二十五周年記念誌」、平成10年刊、p.33、贈呈式写真
 昭和18年2月「学校にピアノが届く。ピアノ寄付者黒沢権三氏と土屋代吉氏 金三六六〇円也」
- E016) 臼田小学校 (佐久市臼田)
 ○「長野県の学校」、p.19: 大正12年「ピアノ購入」
 ○「臼田小学校学校要覧」、昭和32年刊、p.12
 大正12年度「ピアノ購入。下小田切出身上田市在住土屋なお子氏寄贈による」
- E017) 野沢小学校 (佐久市)
 ○「長野県の学校」、p.20: 昭和12年「新講堂(中島亀吉氏寄贈)落成する。グランドピアノ寄贈される」
 ○「創立九十周年沿革史」、昭和40年刊
 大正8年「伴野四郎氏よりピアノ寄贈」 (p.31)
 昭和11年「伴野菊四郎氏よりピアノ一台贈られる」 (p.37)
 ○「野沢小学校百年史」、昭和51年刊
 大正9年「ピアノ寄贈される」 (p.436)
 昭和12年1月29日「グランドピアノ寄贈される」 (p.441)
- E018) 大沢小学校 (佐久市)
 ○「長野県の学校」、p.21: 昭和3年「体育館に奉安所を設置、ピアノ購入」
 ○「大沢小学校の歩み」、昭和49年刊
 昭和3年「ピアノ購入(12月15日)」 (p.56)
 昭和19年「ピアノ寄贈あり(寄付者市川潔、高畑藤一、鷹野千勝)」 (p.61)
 ○「大沢小学校閉校記念誌」、昭和58年刊
 昭和3年「ピアノ購入(12月15日)」 (p.13)
 昭和19年「ピアノ寄贈あり(寄贈者市川潔、高畑藤一、鷹野千勝)披露式、感謝状贈呈式を行う」
 (p.16)
- E019) 泉小学校〔前山小学校+桜井小学校〕(佐久市): 沿革資料未見
- E020) 岸野小学校 (佐久市)
 ●「岸野小学校九十年誌」、昭和54年刊: 記載なし
- E021) 中込小学校 (佐久市)
 ○「長野県の学校」、p.24: 大正8年「増築記念としてヤマハピアノ寄付」
 ○「中込小学校百年誌」、昭和55年刊、p.35
 大正8年9月30日「校舎増築記念としてヤマハピアノ五号(…)寄付される」
- E022) 佐久城山小学校〔平賀小学校・内山小学校〕(佐久市)
 ●「内山小学校開校百年誌」、昭和48年刊: 記載なし
- E023) 三井小学校 (佐久市)
 ○「三井小学校沿革史(創立七十周年記念)」、昭和38年刊: 昭和18年5月26日「ピアノ寄贈さる」
- E024) 志賀小学校〔+駒込分校〕(佐久市)
 ●「思い出の志賀小学校(閉校記念誌)」、平成2年刊: 記載なし
- E025) 平根小学校 (佐久市)
 ●「平根学校の歩み」、昭和48年刊: 記載なし
- E026) 岩村田小学校 (佐久市)
 ◎「岩村田小学校創立七十周年記念誌」、昭和34年刊
 明治43年: 「ピアノ調律を行うむねの記事あり(6月)」 (p.44)
 談「私のところにピアノが入りましたね。高等一年時分でしょうか、ピアノが入った時のことをよくおぼえていますよ。ちょうど八月二十二日の若宮のお祭りの時でした。その日に初めてピアノを見まして、えらいめずらしかったことをおぼえています。わたしは明治四十三年の卒業ですが」 (p.117)
 昭和3年「寄附金により独乙ブリュッナー会社製第五号型平台ピアノ購入(10月19日)」 (p.50)
 「御大典記念に寄附金を集めピアノ購入(7月)」、「ピアノの荷着く(10・19)」 (p.97)
 ◎「岩村田教育百年」(佐久市)、昭和53年刊
 昭和3年「御大典記念に寄附金を集めピアノ購入(7月)」「寄付金四千二百四〇円集まる。奉安殿の建造費にも充てる」(以上: p.125)
 「寄付金により独乙ブリュッナー会社製第五号型平台ピアノ購入(10月19日)」 (p.71)
- E027) 高瀬小学校 (佐久市)
 ●「高瀬小学校開校百周年記念誌」、昭和50年刊: 記載なし
- E028) 中佐都小学校 (佐久市)
 ○「中佐都小学校の歩み(開校八十周年記念誌)」、昭和45年刊、p.70
 昭和19年「学校にピアノ寄贈される。(現在講堂にあるもの)ピアノ配給の割当があったのを機に、青森のぶ、池田きう、荻原あいの三氏から寄贈をうける。披露式には音楽学校より、酒井弘氏を招いて演奏を行う」

- E029) 軽井沢東部小学校：沿革資料未見
 E030) 軽井沢中部小学校〔+軽井沢南小学校+発地小学校〕：沿革資料未見
 E031) 軽井沢西部小学校〔追分尋常高等小学校〕：沿革資料未見
 E032) 御代田南小学校（御代田町）
 ○「伍賀小学校のあゆみ」、昭和 52 年刊、p.239
 昭和 11 年「講堂新築記念として特志家によって、ピアノ購入する」
 E033) 御代田北小学校（御代田町）
 ●「小沼小学校閉校記念誌」、昭和 52 年刊：記載なし
 ●「御代田小学校のあゆみ」、昭和 52 年刊：記載なし
 E034) 東小学校〔北大井尋常高等小学校〕（小諸市）
 ○「改築記念誌」、昭和 45 年刊、p.25：昭和 16 年「山口慶蔵氏よりピアノ寄附二七〇〇円」
 E035) 美南が丘小学校〔南大井+三岡小学校〕（小諸市）：沿革資料未見（統合新設校）
 E036) 野岸小学校（小諸市）：沿革資料未見
 E037) 坂の上小学校〔小諸尋常高等小学校〕（小諸市）
 ○「坂の上小学校創立五十周年」記念誌、昭和 51 年刊、p.16：大正 15 年「ピアノ購入（5・7）」
 ○「梅花教育の歩み」（小諸市立芦原中学校十周年記念誌）、昭和 44 年刊
 明治 35 年：
 「小山久左衛門氏一族からピアノ一台の寄贈があり、「洋琴山葉商店ヨリ到着、価格 480 円」と記され、「ピアノ伴奏ニヨリ儀式厳肅ニ行ハル」と記録されている」（p.132）
 「一年生に入学したのは明治四十年四月だったと思う。（…）二階の大講堂に据えられたピアノ、県下でも珍しいといわれたピアノ、其のピアノに触れて見たいと、専科の先生のいない折を見はからって三四人で二階へ上がり、恐る恐る一寸、たたいて見て、鳴った、鳴った。其の音に自分でたまげて、あやけて下へとび下りる。いたづら小僧のなつかしい思い出だ」（p.305）
 明治 39 年 小諸尋常高等小学校（寄贈、価格 480 円）
 大正 8 年「（十一月）小諸出身の実業家、増田甚一郎氏、新型ピアノ一台寄贈」（p.152）
 昭和 13 年「4 月長谷川昌造氏よりピアノ一台寄附される。時価 1500 円（4 月 27 日）」（同年表）
 ●「小諸学校沿革史」、昭和 56 年刊：記載なし
 ○「小諸学校沿革誌（小諸学校跡建碑の会）」、昭和 57 年刊、p.139
 明治 39 年「小山久左衛門氏一族からピアノ一台の寄贈がある。価格四八〇円。
 ピアノ伴奏によって今までより一層諸儀式が厳肅に行われるようになった」
 E038) 水明小学校〔大里小学校〕（小諸市）：沿革資料未見（統合新設校）
 E039) 千曲小学校〔山浦+大久保尋常高等小学校→川辺小学校〕（小諸市）：沿革資料未見
 E040) 北御牧小学校（東御市）：沿革資料未見
 E041) 浅科小学校〔中津小学校+御牧小学校〕（佐久市浅科）：沿革資料未見
 E042) 布施小学校〔+雁打分校〕（佐久市望月）：沿革資料未見
 E043) 協和小学校（佐久市望月）：沿革資料未見
 E044) 春日小学校（佐久市）
 ●「（春日小学校）沿革誌」、昭和 39 年刊：記載なし
 ●「（春日小学校）開校百周年記念誌」、昭和 49 年刊：記載なし
 E045) 本牧小学校〔望月小学校〕（佐久市）
 ●「本牧教育百年誌」、昭和 48 年刊：記載なし
 ●「春日小学校九十周年沿革誌（望月小学校）」、昭和 39 年刊：記載なし
 ●「春日小学校開校百周年記念誌」、昭和 49 年刊：記載なし
 E046) 立科小学校〔立科東一、立科西一、芦田尋常高等小学校〕（立科町）
 ●「（立科東小学校）開校八十年の歩み」、昭和 47 年刊：記載なし
 ●「（立科西小学校開校八十周年記念）沿革のしおり」、昭和 47 年刊：記載なし
 ○「（立科南小学校開校八十周年記念）わが校の歩み」、昭和 48 年刊、p.14
 昭和 17 年「篤志家の寄付によりピアノ購入。披露音楽会を開く」

上田・小県

- E047) 田中小学校（東御市）
 ●（田中小学校）「七十年本校の歩み」、昭和 38 年刊：記載なし
 E048) 柵津小学校（東御市）
 ●「柵津小学校沿革誌（八十周年記念）」、昭和 47 年刊：記載なし
 E049) 和小学校（東御市）
 ○「長野県の学校」、p.72：大正 10 年「ピアノ購入、音楽教育を広める」

◎「和小学校百年誌」(東御市)、昭和54年刊

大正10年12月「ピアノ購入」(p.587)

大正14年「新ピアノ購入(ドイツ製グロイテアン・シュタインベール)」

「施設備品としては、大正十年、大正十四年と連続しピアノを購入しており、特に後者は、二千六百五十円のドイツ製の立派なものであった」(p.226)

当時の教員の一人は以下の稿をこの沿革誌に寄せている：

「ひとたび眼を当時音楽教育唯一施設のピアノに転ぜんか、恐らく瞠目仰天せざる者なき逸々品。あの深刻世界不況農業恐慌下噂にもれ聞く時価参千円、ドイツ製世界一級品ピアノ『シュタンウェッヒ』(名称?)とか、当時小学校はおろか全国数える程の逸々品にてなきや。不肖このピアノの音に靈感衝撃の思い募り(…)折良く空室独身寮に入り、ピアノに狂気専念の事態を招く」(p.435f)

E050) 滋野小学校(東御市)

- 滋野小学校「源泉混混」、昭和54年刊：記載なし

E051) 長小学校(上田市真田)

- 「長(村)小学校百年誌」、昭和50年刊：記載なし

E052) 傍陽小学校(上田市真田)

- 「傍陽小学校百年誌」、昭和48年刊：記載なし

E053) 本原小学校(上田市真田)

- 「本原小学校百年誌 育英」、平成元年刊、p.27：昭和19年「ピアノを購入する」

E054) 菅平小学校(上田市真田)：沿革資料未見

E055) 丸子中央小学校(上田市丸子)

- 「丸子中央小学校百年史」、昭和48年刊

大正9年「町の篤志者の寄付金により三号グランドピアノを購入(千六百元)し、初めてピアノが講堂に据付けられる。なおピアノ設置を記念して十一月二十一日に記念音楽会が開かれた」(p.372、他に p.385f、p.899)

E056) 西内小学校(上田市丸子)

- 「西内小学校の歩み(開校百周年記念)」、昭和50年刊：記載なし
- 「西内小学校の歩み(開校百二十周年記念)」、平成6年刊：記載なし

E057) 丸子北小学校〔長瀬小学校+依田小学校〕(上田市丸子)

- 「長瀬学校の歩み」、昭和49年刊：記載なし
- 依田小学校「移転開校七十周年記念沿革誌」、昭和45年刊、p.15：大正11年「立型ピアノ購入」

E058) 塩川小学校(上田市丸子)

- 「塩川学校百年誌」(丸子町)、昭和49年刊、p.94：昭和16年4月「ピアノの購入披露演奏会を行う」

E059) 長門小学校〔大門学校+長久保学校+古町部校〕(長和町)

- (大門小学校)「創立九十周年記念誌」、昭和40年刊：記載なし
- (長久保小学校創立九十周年記念誌)「星霜」、昭和40年刊：記載なし

E060) 武石小学校(上田市武石)

- 「百年の歩み」、昭和48年刊、p.44：昭和13年1月24日「宇田川大八郎氏、グランドピアノ寄贈」

E061) 和田小学校(長和町)

- 「長野県の学校」、p.84：昭和17年「長井清一郎氏よりピアノ寄贈される」
- 「和田小・中学校の歩み」、昭和61年刊：記載なし

E062) 青木小学校(青木村)

- 「長野県の学校」、p.85：大正4年「初めてピアノ購入」
- 「百年の歩み」、昭和48年刊、p.17

大正11年7月「柳田堅一郎氏寄附金によって、初めてピアノ一台購入することに村会決定」

E063) 浦里小学校(上田市)

- 「長野県の学校」、p.86：大正9年「ピアノをはじめて購入する」
- 「九十年濃の歩み」、昭和37年刊

大正9年「中校舎新築、ピアノ購入、御真影奉安殿新築」

「学校に始めてピアノ購入(9月)」 (p.13)

「三年生(大正八年)…学校にグランドピアノが、村内の特志寄附によって購入されました。川西地方で中塩田に次いで二番目であったと聞きました」(p.66)

昭和19年11月3日「ピアノ購入」(p.16)

「昭和十九年の八月…その当時としては誠に珍しい電気ピアノを買うことになり…確か七千円の金を持って上京し、まだ金を支払ってしまわないうちにB29の初襲撃に会い縁の下に逃げこみ、鼻の穴と耳の穴を指でおさえて息を殺していたことを今もって忘れないでいる。」(p.34)

E064) 室賀小学校(上田市)

○「百年のあゆみ」、昭和48年刊、p.83:昭和20年6月「ピアノ・拡声器がはいる(寄付金募集)」

E065) 小泉小学校(上田市)

●「閉校記念誌」、昭和63年刊:記載なし

E066) 城下小学校(上田市)

●「学校史『しろした』」、昭和58年刊:記載なし

E067) 川辺小学校(上田市)

○「川辺小学校百年誌」、昭和49年刊、p.134:昭和15年7月「ピアノ購入並びに道場炊事場落成祝」

E068) 中塩田小学校(上田市)

○「長野県の学校」、p.91:大正5年「ピアノ(400円)寄贈される」

○「盈進百年」、昭和49年刊、p.18

大正4年:「村内特志者よりピアノ(400円)を寄贈される」

○「盈進・百周年誌」、昭和59年刊

大正4年:「村内篤志者よりピアノ(四百円)が寄贈される」(p.17)

昭和10年:「グランドピアノ篤志寄付される」(p.20)

E069) 東塩田小学校(上田市)

●「東塩田小学校百周年記念誌」、平成2年刊:記載なし

E070) 西塩田小学校(上田市)

○「長野県の学校」、p.93:昭和12年「篤志家によりピアノ一台寄贈」

○「西塩田小学校百周年記念誌」、平成元年刊、p.258f

昭和12年:「学校にはまだピアノもなく、初めてピアノが入ったのは昭和十二年三月、篤志寄付によるもので、それ以前はオルガンを使っていた。(…)昭和三年十一月一日の西塩田時報に、学校から《ピアノが欲しい》と次のような訴えがなされた。

『音楽が人の情操を高潮に達せしむることは今更蝶々するの要はない。オルガンの流るゝ旋律は沈重であり、ピアノの発する快活であり明晴である。児童の世界は快晴其のものである。(…)時恰も本年は御大典奉祝の好機、鶴首してこの一隅を待った。在外者の好意によるも可、在村者の寄付に願うも又可(…)]

このような記事で、オルガンに代るピアノを所望していた。これから八年有余、昭和十二年三月、篤志家の寄付により初めてピアノが備えつけられた。そして三月六日、地久節の良い日を定めて、上田からたち会をお呼びし、村内婦人団体の後援で音楽会を開催した。どんなにか嬉しかったことであろう」

E071) 別所小学校(上田市)

○中塩田小学校「別所学校百年誌」、平成元年刊、p.84

「別所時報」:昭和10年3月25日付、児童の作文『ピアノ』の記事

E072) 西小学校(上田市)

●「西小学校の百年」、昭和49年刊:記載なし

E073) 清明小学校(上田市)

●「清明(30周年記念誌)」、昭和63年刊:記載なし

E074) 北小学校 (上田市)

- 北小学校「北小学校五十年史」、昭和 53 年刊、p.57
昭和 10 年 5 月 3 日「伊藤伝兵衛氏よりピアノ寄贈」

E075) 塩尻小学校 (上田市)

- 「しおじり (八十周年記念誌)」、平成元年刊、p.109
昭和 7 年 3 月 10 日「篤志寄付によるピアノ披露式と音楽会を行う」

E076) 東小学校〔上田尋常高等小学校・東部校〕(上田市)

- 「長野県の学校」、p.99：昭和 13 年「笠原善吉氏よりピアノ寄贈され披露演奏会」
- 「六十年の歩み」(上田市東小学校)、昭和 51 年刊、p.11
昭和 13 年 3 月 12 日「笠原善吉氏よりピアノ寄贈さる」
- 「七十年の歩み (上田市東小学校)」、昭和 61 年刊、p.10f
昭和 13 年 3・12「笠原善吉氏よりピアノ寄贈さる。披露演奏会をなす」
- 上田東小学校「90 年のあゆみ」、平成 19 年刊、p.15
昭和 12 年度：13 年 3・12「笠原善吉氏よりピアノ寄贈され披露演奏会を行う」

E077) 神科小学校 (上田市)

- 「七十年の歩み」、昭和 45 年刊：記載なし

E078) 豊殿小学校〔豊里殿城尋常高等小学校〕(上田市)

- 「長野県の学校」、p.101：昭和 5 年「ピアノ寄贈される」
- 「豊殿小学校百年の歩み」、昭和 48 年刊、p.113
昭和 5 年 10 月 13 日「上原徳一氏寄贈のピアノ一台到着」

E079) 神川小学校

- 「神川小百年」、平成 10 年刊、p.63
昭和 3 年 1 月 22 日「ピアノ一台寄付 (上青木出身尾崎庄兵衛氏が不幸東京に客死したので其の遺志により小学校へ寄贈された)」

諏訪地区

S001) 川岸小学校 (岡谷市)

- 「九十年沿革史」、昭和 39 年、p.81：大正 13 年 4 月 11 日「ピアノ調律 (伊藤辰雄氏)」
- 「川岸小学校百年史」(岡谷市)、昭和 49 年刊：記載なし

S002) 神明小学校 (岡谷市)

- 「神明小学校沿革史」、昭和 51 年刊：記載なし

S003) 岡谷小学校 (岡谷市)

- 「岡谷小学校百年史」、昭和 49 年刊：記載なし

S004) 小井川小学校〔平野尋常高等小学校・小井川部〕(岡谷市)

- 「長野県の学校」、p.123：大正 14 年「ラジオ・ピアノ設備整う」
- 「小井川小学校百年史」、昭和 48 年刊、p.236：大正 10 年 8 月 20 日「ピアノ到着 (山葉製七号の一号)」

S005) 田中小学校 (岡谷市)

- 「田中校五十年の歩み」、昭和 55 年刊：記載なし

S006) 湊小学校 (岡谷市)

- 「長野県の学校」、p.125：昭和 10 年「花岡和夫氏等 5 人兄弟よりグランドピアノ寄贈される」
- 「開校百二十年・移築二十周年記念誌」、平成 5 年刊、p.25
昭和 10 年：「花岡和夫氏兄弟 5 人、グランドピアノ寄贈」

S007) 長地小学校 (岡谷市)

- 「長地学校百年史」、昭和 53 年刊：記載なし

S008) 上の原小学校 (岡谷市)：沿革資料未見 (新設校)

S009) 下諏訪南小学校 / S010) 下諏訪北小学校 (下諏訪町)

- 「下諏訪学校教育百年史」、昭和 49 年刊：記載なし

S011) 高島小学校 (諏訪市)

- 「長野県の学校」、p.130 : 明治38年「郡下ではじめてピアノを東京公益社より購入」
- 「高島学校百年史」、昭和48年刊、p.172

明治38年「本校では明治三十八年四月に、東京の共益社よりピアノを購入した。鉄道が富士見までしか開通していなかったため、富士見まで鉄道で運び、後は、内国通運社が馬車で運んだ。そのピアノは現在も学校に残っているが、ところどころしか音が出ない」

S012) 城南小学校 (諏訪市)

- 「五十年のあゆみ」、平成元年刊、p.24

昭和14年7月10日「ピアノ披露音楽会 増沢・鶴飼両氏記念演奏」

S013) 城北小学校

- 城北小学校「PTAの歩み」、昭和48年刊 : 記載なし

S014) 四賀小学校 (諏訪市)

- 「四賀小学校百年史」、昭和49年刊、p.418 : 昭和19年「ピアノ披露音楽会を行う (12・1)」

S015) 豊田小学校 (諏訪市)

- 「豊田小学校百年の歩み」、昭和48年刊、p.248

昭和14年11月1日「ピアノ寄贈さる 岡谷市中島正氏、中島克躬氏、山葉グランド二号」

S016) 中洲小学校 (諏訪市)

- 「中洲小学校百年の歩み」、昭和50年刊 : 記載なし

S017) 湖南小学校 (諏訪市)

- 「湖南小学校百年のあゆみ」、昭和49年刊 : 記載なし

S018) 永明小学校 (茅野市)

- 「長野県の学校」、p.137 : 昭和4年「竹村兼太郎氏 (横内) ピアノ寄贈」
- 「永明小百年のあゆみ」、昭和50年刊

昭和4年「竹村兼太郎氏 (横内) ピアノ寄贈」 (p.137)
「竹村栄太氏ピアノ寄贈」 (p.168)

S019) 米沢小学校 (茅野市) : 沿革資料未見

S020) 北山小学校 (茅野市)

- 「北山小学校 (開校六十五周年)」、昭和40年刊、p.114

昭和20年3月5日「音楽会、檜崎博士寄贈ピアノ披露式を合わせて行う」

S021) 湖東小学校 (茅野市)

- 「湖東小学校七十年のあゆみ」、昭和58年刊、p.263

昭和18年2月8日「小林楽器店よりピアノ及び電気蓄音機を購入する」

S022) 豊平小学校 (茅野市)

- 「開校百周年記念誌」、昭和48年刊 : 記載なし

S023) 玉川小学校 (茅野市)

- 「玉川学校教育百年の歩み」、昭和48年刊、p.28 : 昭和18年「ピアノの寄付を受ける。(12・1)」

S024) 泉野小学校 (茅野市)

- 「(泉野学校) 創立百周年記念誌」、昭和49年刊、p.158 : 昭和17年3月21日「工作の実施・ピアノ購入」

S025) 金沢小学校 (茅野市)

- 「信州金沢学校百年史」、昭和49年刊、p.330f

昭和一七年(一九四二)の学校日誌一二月二八日の記事、「堅型四号(規格五号)コシカケ及覆を大井訓導が使いして三井理助氏へ注文書を発送」と書いてある。それがいつ購入されたか期待して一頁一頁めくったが、一七年にも一八年の日誌にはこの件については何も書かれていなかった。(…)

一九年一月二日 牛山久明氏よりピアノの件話あり 東京に頼みたる話 荏原氏心配

一月二四日 牛山久明氏ピアノ心配してくれる返事あり 有賀豊一氏よりの手紙によれば河合製八十五鍵新品同様なりしも価高しといふ

二〇年四月三〇日 ピアノ注文す 村長承知の上 清水氏に依頼す

六月一二日 ピアノ到着す 二台 午後四時雨の中を高等科生動員して駅まで運びに

行く 職員吉江帯川細野児童二十名 直ちに荷をとく

六月一三日 村長ピアノを見に来る

七月一日 ピアノ一台 初一教室へ移動する

七月二四日 ピアノ代金二台分 村長殿より支払済みとなる 三九〇〇円 (…)

戦時中は音楽も敵機識別などということで音感教育も盛んに行われ、前々からピアノを欲しいとは思っていたが戦争のため物資不足で、入手することが困難であった。一九年ころは本土決戦に備えて、大都市は強制疎開の真最中であった。仲介の労を取ってくれる人のいたおかげで、待望のピアノを一度に二台も買うことができた。ピアノを購入できたものの、このころの日本は次第に敗戦に追い込まれているときで、教室での学習は行われなくなっていた。しかし間もなく終戦、二台のピアノは半世紀使われてきた古いオルガンとともに、戦後の暗い世の中に明るい燈火をかきたててくれた。

S026) 宮川小学校 (茅野市)

○「宮川小学校の歩み」、昭和48年刊

昭和11年11月11日「音楽会ピアノを初めて音楽会に使用」(p.84)

昭和20年6月26日「ピアノ購入」(p.112)

S027) 原小学校 (原村)

●「原学校百年のあゆみ」、昭和47年刊：記載なし

S028) 本郷小学校 (富士見町)：沿革資料未見

S029) 境小学校 (富士見町)：沿革資料未見

S030) 落合小学校 (富士見町)

○「長野県の学校」、p.149：昭和18年「3000円の寄付金でピアノ・オルガン各一台購入」

●「落合学校百二十周年記念誌」、平成5年刊：記載なし

○「目で見る落合学校百三十年のあゆみ」(富士見町)、平成15年刊、p.30

昭和18年度「金三〇〇〇円の寄贈を受け、ピアノ平型一台購入」

S031) 富士見小学校 (富士見町)：沿革資料未見

上伊那地区

S032) 両小野小学校

●「両小野小学校沿革誌」(組合立三十周年記念沿革誌)、昭和58年刊：記載なし

S033) 川島小学校 (辰野町)

●「百年のあゆみ」、昭和48年刊：記載なし

S034) 辰野西小学校〔伊那富尋常高等小学校〕(辰野町)

○「長野県の学校」、p.170

大正5年「武井覚太郎氏ピアノ寄贈。上伊那郡下でピアノを持つ二校目。秋音楽会を開く。以後続けて開かれる」

○「辰野西小学校沿革誌」、平成元年刊、p.231f

「ピアノの寄贈 詳しい記録は残っていないが「校務日誌」にピアノの寄贈の経緯は次のように書かれている：

大正五年十二月二十一日 本日午後一時半より校長矢島盈、訓導長田善太郎、上田吉太郎三名同行、武井製糸向い行き主人に面接、洋琴一台価格四百七十円、貴校備付として寄附の件承諾を受けたり。依て直に上田訓導より注文することとなりたり。

文面から本校からの強い要望があったことが推察される。学校からの要請を受け快く寄付をしている武井覚太郎社長は、伊那富音楽会の成功を契機としてピアノ寄贈に至ったものであろう。十二月に発注されたピアノは、わずか一月後大正六年一月二十二日、製造元の東京松本楽器製造会社より本校に届けられた。翌日さっそく荷がとかれ、二十四日には調律が行われた。これには東京から東京松本楽器製造会社技術主任小平広平が、はるばる訪れてあたっていている。こうして伊那富小学校は、上伊那郡下で中箕輪小学校に続きピアノを持つ二校目の学校となった。当時新任教員の給料が一〇円から一五円であったことをみるにつけても、四百円余のピアノは学校の備品としていかに高価なものであったかが思われる。」

- S035) 辰野東小学校〔朝日小学校〕(辰野町)：沿革資料未見
- S036) 辰野南小学校〔伊那富南尋常小学校→羽北分校〕(辰野町)：沿革資料未見
- S037) 箕輪中部小学校(箕輪町)
- 「箕輪中部小学校百年誌」、昭和53年刊
 - 明治45年度「この年ピアノ一台寄付される」(p.42)
 - 昭和11年「河合楽器よりグランドピアノ一台購入」(p.272)
 - 昭和12年2月22日「グランドピアノ一台着」(p.274)
- S038) 箕輪北小学校(箕輪町)：沿革資料未見(統合新設校)
- S039) 箕輪西小学校〔中箕輪小学校西分校〕(箕輪町)：沿革資料未見
- S040) 箕輪南小学校(箕輪町)
- 「箕輪南小学校百年誌」、平成2年刊：記載なし
- S041) 箕輪東小学校〔東箕輪小学校〕(箕輪町)：沿革資料未見
- S042) 南箕輪小学校(南箕輪村)
- 「南箕輪小学校百年誌」、昭和58年刊：記載なし
- S043) 伊那小学校(伊那市)
- ◎「伊那小学校百年史」、昭和46年刊、p.325f
 - 昭和3年：
 - 「御大典記念事業の一つとして、ピアノを町内有志の篤志寄附により購入することになり(…)ドイツのスタインベルク社製グランドピアノを購入することになった。このピアノは当時の価格二千七百円。日本には数台しかなく、当時としては最高のものである。ピアノは「弥栄」と命名された。昭和三年十一月八日ピアノ到着、十一月十日御大礼奉祝式当日、寄贈者を招待し、披露。(…)記念演奏会は翌四年七月三十一日、鉄筋校舎の落成を待って行われ(…)」
- S044) 伊那東小学校(伊那市)
- 「長野県の学校」、p.180：昭和19年「ピアノ寄附される」
- S045) 伊那北小学校
- 「伊那北小学校の沿革」、昭和43年刊：記載なし
- S046) 伊那西小学校〔小沢分教場+横山分教場〕(伊那市)：沿革資料未見
- S047) 西箕輪小学校(伊那市)
- 「西箕輪学校百年史」、昭和61年刊、p.557
 - 昭和11年7月1日「伊藤礼之氏よりピアノが寄贈される」
- S048) 東春近小学校(伊那市)
- 「東春近小学校沿革誌」、昭和49年刊
 - 大正12年「青年会よりピアノ寄贈される」(p.383)
 - 大正13年1月15日「ピアノ学校到着(青年会寄贈)」(p.99)
- S049) 富巣小学校(伊那市)
- 「長野県の学校」、p.185：昭和4年「同窓会よりピアノ寄贈さる」
 - 「八十周年沿革誌」、昭和44年刊、p.9
 - 昭和4年「同窓会35周年記念事業 ピアノ寄付」
 - 昭和5年5月「ピアノ披露式」
- S050) 新山小学校(伊那市)
- 「新山学校百年史」、昭和51年刊
 - 昭和5年5月17日「西部校でピアノ購入 披露演奏会おこなわれ、全員で出かける」(p.237)
 - 昭和18年7月10日「ピアノ披露式を挙げる」(p.240)
- S051) 美篤小学校(伊那市)
- 「学校沿革誌」(美篤小学校開校70周年記念)、昭和46年刊：記載なし
- S052) 手良小学校(伊那市)：沿革資料未見
- S053) 西春近北小学校(伊那市)
- 「西春近北小学校百年誌」、昭和48年刊、p.288：昭和6年「ピアノ一台 黒河内栄治氏寄贈(11)」

S054) 西春近南小学校 (伊那市) : 沿革資料未見

S055) 宮田小学校 (宮田村)

○「宮田小学校百年史」、昭和 47 年刊

大正年間に宮田尋常高等小学校に寄附された教材あるいは寄附金は数多い(…)なかでも大正九年の信産館(製糸工場)よりのピアノ寄附は、それまでオルガンで唱歌をしていた宮田小学校にとって、初めてのピアノであった点特筆されるものである。

《寄附採用願》

一、第四号型ピアノ 壺台	右価格金七百九拾九円五拾錢也
一、同上用椅子	壺脚 右価格金拾八円也
一、ピアノ覆	壺個 右価格金貳拾五円六拾錢也 (…)
価格合計 金八百四拾參円拾錢也	

大正九年六月二十六日

合資会社信産館 代表社員 平沢源蔵 (…)

しかし、このピアノは惜しいことに十一年の火災で焼失してしまった。その後の中野氏寄附のピアノは宮田小学校の音楽教育に役立って、現在なお使用されている」(p.143f)

寄贈品 (…)

一、福島式ピアノ一基 此価格 金壺千円也
寄附者 東京市赤坂区氷川町 中野欽九郎
大正十二年三月三十一日提出 (p.185)

S056) 赤穂小学校 (駒ヶ根市)

○「赤穂小学校百年史」(駒ヶ根市)、昭和 47 年刊、p.563

昭和 9 年: 備品「第二唱歌室/第三唱歌室: 教授用ピアノ各一台」

S057) 赤穂東小学校 (駒ヶ根市)

●「赤穂東小学校の歩み」、昭和 53 年刊: 記載なし (新設校)

S058) 中沢小学校 (駒ヶ根市)

◎「中澤學校百年誌」、昭和 47 年刊

「大正十二年九月一日には、東京へ注文したドイツ製ピアノが到着している。そして後日全職員がピアノの講習を受けた」(p.331)

大正 12 年 9 月 1 日「ピアノ到着 関東大震災」(p.81)

S059) 東伊那小学校: 沿革資料未見

S060) 飯島小学校 (飯島町)

◎「飯島町誌」下巻、平成 5 年刊、p.196: 大正 13 年「当時最高のピアノ、ドイツ製ホイリッヒ購入」

◎「飯島町学校百年史」、昭和 44 年刊、p.176

大正 13 年「一月二十六日、時の皇太子(現在の天皇)殿下と久邇宮良子女王殿下の御成婚が取り行われた。村の有志の方々、此の御盛典奉祝記念事業としてピアノ寄附を相はかり、多額の寄附金により当時としては最高のドイツ製ホイリッヒピアノと山葉オルガン夫々購入し寄附された。学校では同年十二月二十六日ピアノ披露の音楽会を挙行了した」

S061) 七久保小学校 (伊那市)

○「学校沿革誌」、昭和 44 年刊、p.35: 昭和 17 年 4 月 19 日「ピアノ披露演奏会」

S062) 中川西小学校 (中川村)

○「桐友(中川西小学校開校百三十五周年記念誌)」、平成 21 年刊、p.254

「ピアノ一台価格一千二百円也、昭和十二年七月小川源兵衛様」

昭和 12 年 7 月「ピアノ披露演奏会が行われる」(p.128)

S063) 中川東小学校 (中川村)

●「南向小学校百年誌」(中川東小学校)、昭和 49 年刊: 記載なし

●「南向村誌」、昭和 41 年刊: 記載なし

S064) 河南小学校 (伊那市高遠) : 沿革資料未見

S065) 長谷小学校 [美和小学校+伊那里小学校] (伊那市長谷)

- 「美和小学校沿革誌」、昭和 51 年刊、p.49 : 昭和 16 年「待望のピアノ来る。(2・21)」

S066) 高遠北小学校 (伊那市高遠)

- 「藤沢学校の歩み」、昭和 54 年刊 : 記載なし

S067) 高遠小学校 (伊那市高遠)

- 「信州高遠百年史」、昭和 47 年刊、p.485f

大正 12 年「大正十二年の職員会で、音楽教育についての議論がなされ、教育の根本問題にふれ、単なる知能の面だけに眼を向けることなく、情操を培う人間教育という点に力を注ぐべきであることが力説された。そこで、情操を培う中心的教科は、音楽であるから、オルガンによる授業からピアノによる授業と、レコードの音楽鑑賞にかえるべきであるとした。当時の学校長であった藤沢正三郎は、このような教育の考え方を受け入れ、強力におし進めた。学校長藤沢正三郎の名で、ピアノ・蓄音器寄付金募集のための趣意書をかき、高遠出身の在京者を中心に寄付をあおいだ(…)この趣意書によってなされた募金はたちまちに集まり、同年八月にはグランドピアノと蓄音機が購入された。続いてピアノ披露の演奏会が、当校体育館で催された。この演奏会には、白樺同人の柳宗悦夫人でソプラノ歌手柳兼子を、その伴奏者には高遠出身の上沼房子を招いて行われた」

飯田・下伊那

S068) 松川北小学校 (松川町)

- 「(松川北小学校) 学校要覧」、昭和 40 年刊 : 記載なし
- 「松川町における学校教育の変遷」、昭和 48 年刊、p.34/35

松川北 : 記載なし

松川中部 : 昭和 20 年 8 月 31 日「ピアノ購入披露演奏会を開催」

松川東 : 昭和 19 年度 (昭和 20 年 2 月)「ピアノ披露式」

S069) 松川中央小学校 (松川町) : 同上

S070) 松川東小学校 (松川町) : 同上

- 「長野県の学校」、p.222 : 昭和 19 年「ピアノ披露式」

S071) 高森北小学校 (高森町)

- 「学校要覧」、昭和 41 年度 : 記載なし

S072) 高森南小学校 (高森町)

- 「高森南小学校沿革史」、昭和 60 年刊 : 記載なし

S073) 上郷小学校 (飯田市)

- 「上郷小学校沿革史」、昭和 37 年刊 : 記載なし
- 「百折不撓 (創立百周年記念誌)、平成 23 年刊 : 記載なし

S074) 鼎小学校 (創立百周年記念誌)

- 「鼎町誌」、昭和 44 年刊 : 記載なし

S075) 清内路小学校

- 「学校要覧」 : 記載なし

S076) 阿智第一小学校 (阿智村)

- 「会地小学校の百年」、昭和 47 年刊、別冊年表

大正 14 年「ピアノ寄贈される。金 1400 円余 (多数有志の人力による)」

S077) 阿智第二小学校 [伍和小学校] (阿智村)、

- 「伍和小学校開校百年の歩み」、昭和 47 年刊 : 記載なし

S078) 阿智第三小学校 [智里東小中学校] (阿智村)

- 「智里東小学校の百年」、昭和 48 年刊 : 記載なし
- 「智里西小学校百年のあゆみ」、昭和 49 年刊 : 記載なし
- 「阿智村誌」下巻、昭和 59 年刊 : 記載なし

- S079) 根羽小学校 (根羽村)
 ○「長野県の学校」、p.231：昭和18年「ピアノが購入されて披露音楽会」
 ○「根羽学校百年のあゆみ」、昭和48年刊、p.256：昭和18年3月25日「ピアノ購入到着」
- S080) 下條小学校 (下條村)
 ○「長野県の学校」、p.232：昭和15年「下條部校グランドピアノ」.
- S081) 富草小学校 (阿南町)
 ○「富草小学校創立100年沿革史」、p.9
 昭和18年「寄付金によるピアノの購入があり、4月9日到着。翌10日音楽室に備え付ける。(2,449円80銭)」
- S082) 大下条小学校 [大下小学校] / S083) 和合小学校 / S084) 新野小学校 (阿南町)
 ●「阿南町誌」下巻、昭和62年刊
 大下条小学校：記載なし
 和合小学校：記載なし
 新野小学校：記載なし
 ●「新野学校百年史」、昭和51年刊：記載なし
- S085) 向方小学校 (天竜村)：沿革資料未見
- S086) 福島小学校 (天竜村)
 ●「教育百年のあゆみ」、昭和50年刊：記載なし
- S087) 平岡小学校 (天龍村)：沿革資料未見
- S088) 泰阜北小学校 (泰阜村)
 ○「泰阜北学校史」、昭和55年刊、p.336/337
 昭和20年8月14日「牧島氏寄贈によるピアノ本日学校に到着する」
 8月18日「牧島哲氏寄贈ピアノ披露式をなす」
- S089) 泰阜南小学校 (泰阜村)
 ●「南山の郷土資料」、昭和43年刊：記載なし
 ●「学校要覧」、昭和53年度：記載なし
- S090) 喬木第一小学校 (喬木村)
 ○「喬木第一小学校沿革概要 (七十周年記念)」、昭和40年刊、p.108
 昭和12年7月31日「記念貯金にて、ピアノ一台、オルガン一台購入する」
- S091) 喬木第二小学校 (喬木村)
 ●「学校百年誌」、昭和49年刊：記載なし
 ●「喬木村誌」下巻、昭和54年刊：記載なし
- S092) 豊丘南小学校 (豊丘村)
 ●「豊丘南小学校沿革史 (創立90周年記念)」、昭和42年刊：記載なし
 ●「豊丘南小学校の百年」、昭和52年刊：記載なし
- S093) 豊丘北小学校 (豊丘村)
 ●「母校」(豊丘北小学校沿革誌)、昭和42年刊：記載なし
- S094) 大鹿小学校 [大河原小学校+鹿塩小学校] (大鹿村)
 ●「大河原小学校の百年」(大鹿村大鹿小学校)、昭和48年刊：記載なし
 ●「鹿塩小学校百年のあゆみ」、昭和48年刊：記載なし
- S095) 和田小学校 / S096) 木沢小学校 (飯田市南信濃)
 ●木沢小学校「学校要覧」、昭和49年刊：記載なし
- S097) 上村小学校 [程野分校] (飯田市上村)
 ●「程野分校のあゆみ」、昭和54年刊：記載なし
- S098) 追手町小学校 [飯田尋常高等小学校] (飯田市)：沿革資料未見
- S099) 浜井場小学校 [飯田尋常高等小学校浜井場部] (飯田市)：沿革資料未見
- S100) 丸山小学校 (飯田市)
 ○「丸山小学校沿革史」、昭和49年刊、p.29：昭和13年3月11日「ピアノ到着」

- S101) 座光寺小学校 (飯田市)
 ○「座光寺学校沿革史」、昭和40年刊、p.529
 昭和4年3月17日「御大典記念ピアノ披露音楽会を開催する」
- S102) 松尾小学校 (飯田市)
 ○「松尾学校沿革史」、昭和50年刊、p.467
 大正14年10月12日「ピアノ購入」／11月27日「ピアノ披露音楽会」
 ●「松尾村誌」、昭和57年刊：記載なし
 ●「片桐村誌」、昭和41年刊：記載なし
- S103) 下久堅小学校 (飯田市)
 ○「下久堅小学校の百年」、昭和48年刊、p.177
 昭和18年「宮井隆次氏ピアノ寄付になる披露式挙行 (10・15)」
- S104) 竜丘小学校 (飯田市)
 ○「長野県の学校」、p.256：昭和2年「御慶事記念ピアノを1700円で購入」
 ◎「竜丘村史」、昭和43年、p.1125f
 「昭和二年三月三十日、ドイツ製のグランドピアノと蓄音機を購入した。当時はピアノのある学校は他になかった。その経費は約三千円を要し、それには一般の寄付をもって充てる予定であったが、たまたま経済界の不景気に見舞われ(…)予定の金額が集まらなかったため、下平芳太郎校長はその欠損分を自費によって補てんした」
- S105) 伊賀良小学校 (飯田市)
 ○「長野県の学校」、p.257：大正12年「ピアノが入る」
 ◎「伊賀良小学校百年史」、昭和56年刊、p.247
 大正12年「天皇ご成婚記念としてピアノ購入の計画ができ、八月二十五日に購入が決定された。代金は千三百十三円であった」
 「九月：ご成婚記念としてドイツ製ピアノ購入」(、.534)
- S106) 山本小学校 (飯田市)
 ○「山本小学校沿革史概要」、昭和39年刊、p.7
 昭和16年12月1日「ピアノ注文。一般より1,950円、学校より(この中には、児童の勤労奉仕謝礼、いなごりの金等が含まれる)1,713円をあてる」
- S107) 川路小学校 (飯田市)
 ○「川路小学校の百年」、昭和48年刊、p.133：昭和3年11月13日「御大典記念ピアノ披露音楽会」
- S108) 竜江小学校 (飯田市龍江)
 ○「竜江小学校の百年史」、昭和49年刊、p.71
 大正14年5月14日「村内の篤志者六〇名にてピアノ寄贈さる代金 一、七八五円」
 ○「龍江村誌」、平成9年刊、p.510
 「大正十四年五月十日初めて楽器ピアノが購入され、はじめて見る児童等目を輝かせた。これは村内有志六〇名の寄付金によるものであった。寄付金総額一七八五円。七月十一日ピアノ披露の唱歌会が行われた」
- S0109) 三穂小学校〔三穂尋常高等小学校・立石分教場〕(飯田市)
 ○「長野県の学校」、p.261：大正14年「森弁次郎氏よりピアノが寄贈される」
 ◎「三穂村史」、昭和63年刊、p.466
 「三穂小学校にはじめてのピアノが寄贈されたのは、大正十四年六月のことであった。当時、当村関坂の出身で、日清汽船会社の社長に出世していた森弁治郎氏から寄附されたものである。(…)たて型「ゴールデンメタルピアノ」ドイツ製という。
- S110) 千代小学校：沿革資料未見
 S111) 千栄小学校：沿革資料未見
 S112) 上久堅小学校〔+平栗分教場〕
 ●「上久堅学校百年のあゆみ」、昭和50年刊：記載なし
 S113) 浪合小学校：沿革資料未見

S114) 平谷小学校 (平谷村)

- 「長野県の学校」、p.266 : 大正 15 年「郡下にさきがけてスタンドピアノを購入する」

S115) 売木小学校 (売木村)

- 「売木小中学校開校三十五周年記念誌」、昭和 58 年刊 : 記載なし

木曾地区

W001) 贅川小学校 (塩尻市)

- 「贅川小学校沿革誌」、昭和 48 年刊、p.22
昭和 19 年 6 月 23 日「ピアノ披露を行う」
11 月 2 日「ピアノ披露音楽会」

W002) 檜川小学校 (塩尻市)

- 「檜川小学校教育誌」、昭和 52 年刊 : 記載なし

W003) 木祖小学校〔+小木曾分校+菅分校〕(木祖村) : 沿革資料未見

W004) 日義小学校 (木曾町)

- 「日義学校百年誌」、昭和 62 年刊 : 記載なし

W005) 上田小学校 (木曾町)

- 「上田学校百年誌」、昭和 49 年刊、p.199 : 昭和 21 年 3 月 19 日「ピアノ披露演奏会」

W006) 黒川小学校 (木曾町)

- 「黒川学校百年誌」、昭和 48 年刊 : 記載なし

W007) 東小学校 (木曾町開田)

- (開田村立東小学校)「百年のあゆみ」、昭和 48 年刊 : 記載なし

W008) 西小学校 (木曾町開田)

- 「西野学校百年誌 (百周年記念西小学校沿革誌)」、昭和 49 年刊 : 記載なし

W009) 福島小学校 (木曾町)

- 「木曾福島町史 (第三巻)」、昭和 58 年刊、p.878 : 昭和 5 年 5 月 24 日「ピアノ購入披露音楽会」

W010) 三岳小学校 (木曾町三岳)

- 「三岳学校百年誌」、昭和 49 年刊、p.6 : 昭和 19 年「熊谷組寄贈のピアノ披露」

W011) 王滝小学校 (大滝村)

- 「王滝学校百年史」、昭和 48 年刊 : 記載なし

W012) 上松小学校

- 「上松町教育百年史」、昭和 50 年刊、p.323f
『ピアノの購入』

昭和 7 年「郡下でピアノを持っているのは福島校だけである。何んとかして駒ヶ根にも是非一台をと
念願していたが、高価でもあるし、ピアノ以外に緊急を要する経費問題がたくさんあるの
で心ならずも遠慮していた。それを購入しても満足な音楽室もなく置き場所に困る。今度
の新校舎には立派なステージまでついた音楽室が設計されている。そこで町長にお願いし、
相当難問ではあったがピアノ購入の予算が決議された。新校舎落成以前にピアノが到着し、
しばらく荷造りのまま廊下に置き、落成と共に職員総出で喜び勇んで音楽室へ運び込んだ。
職員の嬉しそうな顔が眼に浮ぶ。これは慳形であった」(金井三郎校長・当時)

W013) 荻原小学校 (上松町)

- 「《川荻》荻原小学校閉校記念誌」、平成 16 年刊、p.16
「明治四十年九月に《荻原学校基本財産蓄積条例》をつくり基本財産の寄付を始めている。(…)こ
の基本財産蓄積分は奉安殿関係、学有林権利購入費、ピアノ購入等にあてられている」

W014) 須原小学校 (大桑村) : 沿革資料未見

W015) 大桑小学校 (大桑村)

- 「大桑小学校百年史」、昭和 47 年刊、p.69

《昭和十八年二月十四日ピアノ購入披露音楽会》

「ピアノ購入に関して 昭和十七年十月 大桑国民学校

楽器としてのピアノは其の音域の広いこと、音色の美しいこと、音量の豊富なこと、発想の自由な点等に於て、他の楽器の到底及ばない処であります、その上国民学校に於ては音感教育を極めて重要視して居りますが、これには是非ピアノが必要であります。今日に於て学校にピアノを備えることは児童等の情操を豊かにしてなごやかな気持を与える上からも又音感に鋭敏さを与える上からも絶対に必需品であり決してぜいたく品ではないと信じます。然も学校では授業日である限り毎日数時間づつ使用致さねばならないのであります。(…)

今回調査の上左記ピアノを希望致しました、備付に要する予算は次の通りであります。

記

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 一、 堅型規格の一号木地塗、八十八鍵 象牙 | 二、 八八九円一一銭 |
| 一、 附属品荷作運賃据付料等 | 四一〇円 |
| | 合計 三、 二九九円一一銭 |

W016) 野尻小学校 (大桑村)

- 「野尻小学校開校百年沿革誌」、昭和 48 年刊：記載なし

W017) 読書小学校 (南木曾町)

- 「読書小学校沿革誌」、昭和 48 年刊、p.215：昭和 19 年 6 月 8 日「ピアノ 1 台入荷」
- 「読書小学校閉校記念誌」、平成 19 年刊：記載なし

W018) 妻籠小学校 (南木曾町)

- 「妻籠小学校閉校記念誌」、平成 9 年刊：記載なし

W019) 蘭小学校 (南木曾町)

- 「蘭小学校閉校記念誌」、平成 19 年刊：記載なし

W020) 田立小学校 (南木曾町)

- 「田立小学校閉校記念誌」、平成 19 年刊：記載なし

W021) 山口小学校 (現在・岐阜県中津川市)

- 「三十周年記念誌」(旧・木曾郡山口村)、昭和 53 年刊：記載なし

W022) 神坂小学校 (現在・岐阜県中津川市)：沿革資料未見

塩尻・東筑

W023) 塩尻東小学校〔塩尻尋常高等小学校〕(塩尻市)

- 「長野県の学校」、p.332
大正 7 年「吉江達郎氏ピアノ寄贈する」
昭和 8 年「堀内千香氏ピアノ寄贈」
- 「塩尻東・西小学校百年史」(塩尻市)、昭和 49 年刊、p.256：大正 7 年 10 月「吉江達郎氏ピアノ寄贈」

W024) 塩尻西小学校：同上、記載なし(新設校)

W025) 片丘小学校 (塩尻市)

- 「片丘学校沿革史」、昭和 61 年刊、p.268
昭和 10 年 4 月「ピアノ新調披露音楽会、午後一時、演奏長師山田教授」

W026) 宗賀小学校 (塩尻市)

- 「宗賀小学校百年史」、昭和 50 年刊、p.382
昭和 11 年「十一月五日の職員会でピアノ購入が決定した。三木楽器店から二号千五百円の品を買うことにしたのである。この日、ピアノ披露演奏会をどのようにしたらよいか各自考案するよう要望している」

W027) 広丘小学校 (塩尻市)

- 「広丘小学校開校八十周年記念誌」、昭和 44 年刊
昭和 9 年 6 月 6 日「ピアノ購入(代金二百五十円也)村内の寄付金によりピアノ一台を購入し、ピアノによる音楽教育を始む」(p.69)
「六月六日 塩尻小学校小平君の仲介により、諏訪金沢村、村井よりピアノ一台、午後四時に

トラックにて送付あり。代金二百五十円也。但し八円也の運賃を含む」(学校日誌 : p.93)

W028) 吉田小学校 (塩尻市) : 沿革資料未見 (新設校)

W029) 洗馬小学校 (塩尻市)

○「長野県の学校」、p.338 : 昭和9年「ピアノ入る」

○「洗馬小学校沿革誌」、昭和44年刊、p.148

昭和9年7月16日「ピアノ到着。7月22日ピアノ披露並びに演奏会」

W030) 朝日小学校 (朝日村)

○「朝日村教育沿革誌」、昭和46年刊、p.247 : 昭和9年12月9日「ピアノ披露式」

W031) 山形小学校 (山形村)

○「山形学校沿革誌」、昭和41年刊、p.97

「昭和十三年には、はじめてピアノが備え付けられ音楽教育の向上に資せられた。またこのころから職員の出召がはじまった」

●「山形学校史」、昭和62年刊 : 記載なし

W032) 波田小学校 (松本市波田)

○「波田小学校百年誌」、昭和63年刊、p.32

昭和11年11月「ピアノ着荷。唱歌室に備え付ける(4日)」

「校内ピアノ披露会が開かれる(13日)」

12月「ピアノ披露音楽会を開く(6日)」

W033) 明南小学校 (安曇野市明科)

○「学校沿革誌」、昭和45年刊

昭和3年度「ご大典記念ピアノ着荷(中川手小学校)(p.11)」

昭和4年度「ピアノ購入(浜口内閣緊縮方針のため延期)」(七貴小学校)、(p.23)

W034) 明北小学校 (安曇野市明科)

○「学校沿革誌」、昭和45年刊

昭和15年度「待望のピアノ着荷(二千六百年記念に滝沢論一氏寄贈)」(東川手小学校、p.29)

W035) 生坂小学校 (生坂村)

○「閉校記念誌(生坂村教育委員会)」、昭和54年刊

昭和12年度「中村の堀保麻呂氏より、ピアノ一台寄贈される」(生坂南小学校、p.27)

昭和20年度「ピアノ披露音楽会 寄付者平林嘉国氏」(生坂中央小学校、p.73)

W036) 錦部小学校 (松本市四賀)

○「錦部小学校沿革誌」、昭和45年刊、p.96

昭和15年12月5日「寄贈ピアノ本日到着す」

12月15日「寄贈ピアノ披露演奏会。松本音楽研究会員7名」

W037) 会田小学校 (松本市四賀)

○「長野県の学校」、p.346 : 昭和11年「ピアノ寄贈される」

○「会田小学校開校八十年誌」、昭和29年刊、p.24f

昭和10年

ピアノ : 昭和六年五月にピアノ購入の話が始まり、村長と懇談したところ了承を得たので村会へ提案した。ところが農村不況時代のため議決の運びとならなかった(…)昭和九年北校舎が新築され新しい音楽室が出来たのでいきおいピアノが必要となったのである。翌十年、ピアノ購入の話が再燃し村出身者にて他所で医師を開業しておられた長岩友栄氏、山本文子氏、松村信夫氏の三人の方をお願いをして篤志寄附を仰ぎ寄贈していただいたのである(…)昭和十一年三月二十三日證書受典式の式日を期して披露演奏会が催され、演奏者として上諏訪町今井久雄氏、今井仁氏、今昭子氏、波田村波多腰協四氏を招待した。来賓として寄贈者三氏をお招きし(…)盛会裡に終わった。

W038) 中川小学校 (松本市四賀)

○「長野県の学校」、p.347 : 大正13年「ピアノ披露式を行う」、「岩淵道衛氏よりピアノ寄贈される」

○「中川小学校百二十周年記念誌」、平成7年刊、p.352

大正13年3月10日「岩淵氏寄贈のピアノ披露演奏会を行う」

W039) 五常小学校 (松本市四賀)

- 「五常小学校沿革誌」、昭和60年刊、p.39

昭和9年12月26日「午後二時よりピアノ披露演奏会を催す。

演奏者 テナー 波田腰協氏
 ヴィオリン 今井仁氏
 セロ 今井久雄氏
 ピアノ 今井昭子氏

寄贈者 市川漸氏 (…)

W040) 本城小学校 (筑北村)

- 「本城小学校沿革誌」、昭和42年刊、p.57

昭和14年7月18日「山崎卓磨氏寄贈ピアノ山葉平台二号二千七百五十円の品、銀座支店にて受領す」
 「七月二十一日ピアノ学校到着」

W041) 坂北小学校 (筑北村)

- 「坂北学校百年史」、昭和49年刊、p.254：昭和17年「同窓会寄附のピアノ披露演奏会を行う」

W042) 麻績小学校 (麻績村)

- 「麻績小学校百年史」、昭和52年刊

昭和14年5月21日：「ピアノ到着」(p.916)

「麻績小学校に寄贈されたピアノの披露唱歌会は、昭和十四年三月三日に実施された。(…)
 ピアノ披露会には、来賓四〇人、父兄五〇人が参加し、最後は招待員の指揮で《愛国行進曲》を斉唱した」(p.378f)

W043) 坂井小学校 (筑北村)

- 「坂井小学校沿革誌」、昭和62年刊、p.184

昭和19年「昭和十四年には、ピアノ購入のための懇願を行っているが、結局、ピアノ購入は昭和十九年となる。以下、『信濃毎日新聞』(昭和14年7月7日付)における関連記事をおのせておく。

ピアノ筑北各小学校に備わる

東筑摩郡筑北地方各小学校には、今まで楽器ピアノの設備なく、各校とも毎年右購入方を村会に提出しているが、戦時体制下財政多端の折柄とて、その要求は押しつぶされていたが、今回麻績村、村会議員飯森英男氏が金二千円を投げ出し、同校のため、ピアノ一台を寄付されたのをキッカケとして、同様篤志寄附に依って希望を実現せしめんと、先ず坂井村会議員有志は同地の大地主、玉井彦永氏(現村長)にすがりつき、同様寄附を懇願した。玉井氏は、ピアノばかりで宜しいかと尚より以上、大寄附の用意ある旨を仄めかされて、村議有志もタジタジで辞去、また坂北は移転改築記念として、村内富豪より同様寄附を求めんとしており、本城村でも土木請負業者関川澄弥氏に、又日向村は飯森医院長医学博士飯森喜方氏に同様寄附を求めるべく呼びかけて、何れも実現性のある話で先頭に立った麻績村村議飯森英男氏の寄附が動機となって、各校ともぼつぼつピアノが備わる段取りとなった」

南安曇

W044) 穂高北小学校〔有明小学校+北穂高小学校〕(南安曇市)

- 「長野県の学校」、p.364：昭和9年「伊藤豊作氏所のピアノを篤志譲渡を受く」

W045) 穂高南小学校〔穂高小学校+西穂高小学校〕(南安曇市)

- 「開校八十五周年記念誌(穂高小学校)」、昭和34年刊

大正8年「ピアノ購入(635円)」(p.2)

昭和15年「東京新宿中村屋主人相馬愛蔵氏よりピアノ寄贈さる。ピアノ覆(三十余円)白金相馬利雄氏より寄贈」(p.4)

- 「西穂高教育の歩み」、昭和43年刊、p.37

昭和5年度「ピアノの使用法、職員のみとする。使用法を気を付ける」

W046) 豊科北小学校〔南徳高小学校+上川手小学校〕(安曇野市)

- 「閉校記念誌(南徳高小学校)」、昭和46年刊
 明治42年6月「第一校舎完成す(…)村内特志者はこの日を永久に記念するため、教授上必要なピアノ、風琴その他の備品の購入を計り、寄附を申込まれるもの六十余名にのぼった」(p.15)
 大正3年度「ピアノ修繕五円也」(p.20)

W047) 豊科南小学校〔豊科小学校〕(安曇野市)

- 「学校沿革誌一八十八周年記念(豊科小学校)」、昭和38年刊、p.34
 大正14年「ピアノの荷到着(二、九)」〔高家小学校〕
- 「南安曇郡誌」第三卷下、昭和46年刊、p.137
 昭和9年11月「寄付によりグランドピアノ、スタンドピアノ各一台を購入し、披露をかね大音楽を開催する」

W048) 豊科東小学校(安曇野市)：沿革資料未見(新設校)

W049) 堀金小学校(安曇野市)

- 「記念誌(堀金小学校創立七十五周年)」、昭和37年刊：昭和6年「ピアノ披露音楽会(11・15)」
- ◎「堀金小学校百年誌」、昭和60年刊、p.203
 昭和6年「大正十三年四月十日 三沢校長(三沢英一)山田訓導ト共ニピアノ寄附ノ交渉ニ穂高有明方面ニ出張ス」とあるように、ピアノ購入は大正の終わりからの懸案であったが、それが現実のこととなったのは、昭和六年である。
 昭和六年 四月二十九日
 一 天長節拝賀式 午前十時ヨリ
 二 予テ注文中ノピアノ本日到着ス
 五月四日 ピアノ調律師来リ新購入ノピアノノ調律ヲナス
 そしてピアノ披露の演奏会は、その年の十一月十五日に開催された
 (掲載写真キャプション：「昭和6年購入シュタインベルグピアノ」)

W050) 三郷小学校〔温明小学校+小倉小学校〕(安曇野市)

- ◎「温明教育」第14号
 「皇太子殿下御成婚記念」(大正13年1月)の記念事業として、村内外より寄附を募り、130名以上による総額2155円50銭から1541円68銭にて(記念事業総額は2862円50銭)購入した
 「昨年(…)三月二十五日(…)松本市ミスズ商会から、スタインウエーの堅形ピアノを購入する契約をしました。四月十日に着荷し、十二日大阪から河島調律師が見えて調律の上受取、五月十八日にピアノ披露の小音楽会を開きました」
- 「閉校記念誌(温明小学校)」、昭和45年刊、p.30
 大正13年4月「ピアノ着荷」、5月「ピアノ披露の音楽会」
 昭和16年「ピアノを購入する」(p.34)(米国製キンボール)
- 「閉校記念誌(小倉小学校)」、昭和45年刊：記載なし

W051) 梓川小学校〔梓小学校+倭小学校〕(松本市梓川)

- 「長野県の学校」、p.371：明治24年「梓小にピアノ寄贈される」
- 「梓川村誌」歴史編、平成6年刊、p.711
 明治44年：梓尋常高等小学校「1月20日に花見の降旗廣厚氏からアブライト型ピアノ一台が寄贈された。(最初のピアノ)」
- 「梓小学校倭小学校教育の歩み(閉校記念誌)」、昭和48年刊、p.44
 掲載写真キャプション「明治24(補足訂正済「43」)年寄贈のピアノ(現存・現在も使用している)」
 (補足：「梓川村花見降旗広正氏厳父」)
- 「長野県の学校」、p.371：大正14年「倭小にグランドピアノ寄贈される」
- 「倭小学校沿革誌(開校七十周年記念)」、昭和40年刊、p.62
 大正14年「グランドピアノ寄贈」

W052) 安曇小学校〔+稲核小学校〕(松本市安曇)：沿革資料未見

W053) 大野川小学校〔+沢度分校〕(松本市安曇)

- 「沢度分校誌(安曇村大野川小学校)」、昭和46年刊：記載なし

W054) 奈川小学校(松本市奈川)：沿革資料未見

大町・北安曇

W055) 池田小学校(池田町)

- 「池田小学校沿革史」昭和58年、p.726：昭和11年11月「大角屋よりピアノを運搬する。」

- 「閉校記念誌(池田町広津小学校)」、昭和47年刊：記載なし

W056) 会染小学校(池田町)

- 「会染教育の歩み」、平成9年刊：記載なし

W057) 松川小学校(松川村)

- 「長野県の学校」、p.386：大正14年「ピアノ購入、披露音楽会を開く」

- 「百年の歩み」、昭和56年刊、p.193：大正14年2月11日「ピアノ披露音楽会举行」

W058) 八坂第一小学校〔八坂小学校〕(大町市)：沿革資料未見

W059) 八坂第二小学校〔八坂小学校川手分校〕(大町市)：沿革資料未見

W060) 美麻小学校(大町市)

- 「開校百年記念誌(美麻北小・中学校)」、昭和48年刊：記載なし

- 「開校百年記念誌(美麻南学校)」、昭和48年刊：記載なし

- 「美麻南学校閉校記念誌」、昭和52年刊：記載なし

W061) 白馬南小学校〔神城小学校〕(白馬村)

- 「神城学校百年のあゆみ」、昭和49年刊、p.302：昭和8年2月12日「ピアノ到着す(六七五円)」

W062) 白馬北小学校(白馬村)

- 「白馬北小学校百年の歩み」、昭和49年刊

昭和9年5月22日「ピアノ一台寄贈される」

10年3月10日「学芸会 ピアノ披露を兼ねる」(以上、p.166f)

昭和20年3月11日「ピアノの荷到着」

3月17日「ピアノ披露演奏会」(以上、p.174)

W063) 南小谷小学校(小谷村)

- 「いま、百八年の想いを語る(閉校記念誌)」、平成17年刊、p.138

昭和19年「ピアノ購入 児童の勤労報酬に依る 5千円也」

W064) 北小谷小学校(小谷村)：沿革資料未見

W065) 中土小学校(小谷村)

- 「わが中土(閉校記念誌)」、平成17年刊：記載なし

W066) 大町(西)小学校(大町市)

- 「創立八十周年記念誌」、昭和28年刊、p.108

「西山千明先生回顧録」

(…)私が担任したのは一年生で(…)担任して困ったのは音楽の授業でした。それまでも低学年を担当しましたが、いつも専科の先生にお願いできたので、学校を出て以来、一度も楽器を手にしたことはありませんでした。大町に来たとたん(昭和13年)、三年までは、専科の先生に依頼できないという不文律がありました。音楽がないと一日も過ごすことのできない一年生の担任で、全く当惑した果に(…)毎日女の先生から初歩からのピアノの指導を受けました。できる限り音楽の授業を他の先生に、きこえないようにと思って努力しましたが、この教科だけに、それは全く不可能で、廊下を通る先生方に、半音高かったとか低かったとか言われるたびに冷や汗をかきました。

- 「開校百年記念誌(大町小学校)」、昭和46年刊：記載なし

W067) 大町北小学校〔平小学校〕(大町市)

- 「平小学校のあゆみ」、昭和52年刊、p.48

大正15年12月3日「ピアノ購入」

昭和11年「二月ピアノ一台が寄附される」

W068) 常盤小学校 (大町市)

- 「長野県の学校」、p.397: 昭和12年「村内有志によりグランドピアノ寄贈される」
- 「学校沿革誌 (常盤小学校創立八十周年記念)」、昭和45年刊、p.20
「昭和十二年、村内有志の寄附により、はじめてグランドピアノを購入する」

W069) 大町東小学校〔社小学校〕(大町市)

- 「社小学校閉校記念誌」、昭和56年刊: 記載なし

松本市

W070) 開智小学校〔+田町小学校〕、

- 「開智学校沿革史」、昭和40年刊
大正3年11月25日「ピアノ山葉堅台第二号一台二七五円到着」
大正4年3月24日「証書授与式。本年は(…)職員祝辞を略し、唱歌にはピアノおよびクラリオネット、尺八の合奏とした」(以上、p.304)
昭和8年2月23日「開智部ピアノ披露演奏会を開く」(p.309)
昭和19年12月17日「今町石曾根玉三郎氏より寄贈のピアノ披露演奏会を開く」(p.310)
- 「史料開智学校」vol.21、平成10年刊
大正3年「ピアノ一台備付く」(p.70)
大正3年11月25日「ピアノが寄付される(375円)」(p.333)
大正10年5月14日「ピアノ調律師来校、修繕(東京音楽学校講師 福島琢郎氏)」(p.342)
〔柳町部(女子部、後廃校)〕: 大正11年4月8日「ピアノを購入す」(p.24)
〔田町部〕: 大正13年4月29日「ピアノを購入す」(p.25)
〔井川部〕: 昭和3年11月22日「井川部ピアノを購入す」(p.26)
- ◎「史料開智学校」vol.3、平成2年刊、p.72
大正13年4月29日「東正堂訪問(田町ピアノの件) 同上人来校。ホヒリッヒマホガニー一定価1450円のもの、入札価1128円にて納入契約」
- ◎「田町小学校沿革史」、昭和40年刊、p.15
大正13年5月23日「ピアノ購入、独逸製アオイリッヒ会社製」

W071) 源池小学校

- 「長野県の学校」、p.603: 大正12年「ピアノを購入」
- 「創立八十周年記念誌」、昭和59年刊、p.37
大正12年「ピアノ購入、披露音楽会」
大正12年5月7日「ピアノ着。破損個所なし。女子師範学校の井出教諭が来校し指弾」
- 「源池小学校百年史」、平成16年刊、p.392: 大正12年「(5・7) ピアノ購入」

W072) 筑摩小学校

- 「長野県の学校」、p.604
大正7年「当時音楽教育はオルガンで行われていたが、本校は住民有志の寄付により、はじめからピアノを購入して授業」
- ◎「筑摩学校六十年史」、昭和54年刊、p.122f (二台の写真)
「**四台のピアノ** 本校は開校時の大正七年五月十一日に最初のピアノが購入された。当時はまだピアノでなくオルガンで音楽教育を主にやる方針であった時代に(…)最初からピアノによって音楽教育がすすめられた。(…)
次に特筆すべきことは戦雲急を告げる昭和二十年の初め物資が極めて不足し食糧事情の最悪の時期に本校に二台もピアノが入ったことである。一台はイバッハ、他の一台はワルトシュタイン。スタンドピアノであった。(…)この二台のピアノは東京にあったものであるが戦災から守るため地方へ移すことになり、松本市の日章堂と竹田楽器店が引受けることとなり、その中の一台は西五町の小林清章氏が個人で寄贈され、他の一台は本校校医の赤羽先生外の方々によって購入寄贈された。当時は戦時下のため商工省の許可を得てようやく楽器店から入荷された」

W073) 旭町小学校

- 「旭町小学校沿革誌（五十周年記念）」、昭和 48 年刊、p.44

大正 12 年 12 月 4 日「本日、午前二時限授業とし掃除、昼食をとり、十二時半より、唱歌会を催し来賓にさいて貰う。午後二時唱歌会終了」

W074) 田川小学校

- ◎「開校五十周年記念誌」、昭和 50 年刊、p.21：大正 15 年 4 月 3 日「ドイツ製ピアノ到着」

- ◎「創立六十周年記念誌」、昭和 61 年刊、p.229

大正 15 年「ピアノ（独逸製シュタインベルグ）竹田楽器店より購入到着」

W075) 鎌田小学校

- ◎「鎌田小学校創立二十五周年記念」、昭和 32 年刊、p.5

昭和 3 年「ピアノ購入到着ブリッチナー三号二千三百五十円大部分市費、不足分収容区域寄附 (11/6)」

W076) 開明小学校：沿革資料未見（新設校）

W077) 清水小学校

- 「開校四十周年沿革誌」、平成 2 年刊：記載なし

W078) 島内小学校

- 「島内小学校の沿革」、昭和 45 年刊、p.114：昭和 11 年 3 月 10 日「音楽会 河野道璋氏よりピアノ寄付」

W079) 中山小学校

- 「長野県の学校」、p.611：昭和 17 年「全村寄付によりグランドピアノ一台を購入する」

- 「沿革誌（開校七十周年記念）」、昭和 33 年刊、p.28

昭和 17 年度「全村寄附によりグランドピアノ一台購入」

- 「中山小学校百年史」、平成元年刊、p.386

昭和 18 年「学校後援会ピアノ購入資金を集金」

昭和 20 年 3 月 20 日「プラスバンド・ピアノ披露音楽会」

W080) 島立小学校

- 「島立小学校百年誌」、昭和 62 年刊、p.57：昭和 15 年 4 月「ピアノ披露音楽会を開催」

W081) 山辺小学校〔里山辺小学校+入山辺小学校〕

- 「里山辺小学校誌」、昭和 47 年刊、p.110：昭和 11 年 12 月 24 日「ピアノ着荷」

- 「入山辺小学校誌」、昭和 48 年刊、p.103

昭和 14 年度（15 年 2 月）「中村謙太郎氏寄贈のピアノ披露演奏会」

W082) 岡田小学校

- 「長野県の学校」、p.614：昭和 17 年「守田治平氏ピアノ寄贈」

- 「岡田小学校七十年誌」、昭和 36 年刊、p.41

昭和 17 年「グランドピアノ一台本村出身守田治平氏より寄贈され、披露音楽会を行った。この時からピアノによる音楽教育が始まった」

- 「岡田学校百年誌」、平成 2 年刊

昭和 17 年「8 月 14 日、ピアノ寄贈、守田治平氏（明治 28 年卒業、鋳物工場主）」 (p.194)

昭和 17 年 11 月「ピアノ披露式および音楽会（…）ピアノ寄贈者守田治平夫妻来校」 (p.561)

W083) 芝沢小学校〔和田小学校+新村小学校〕

- 「和田小学校百年史」、昭和 48 年刊、p.23：昭和 11 年「ピアノ寄贈される（横川類吉氏より）」

- 「新村小学校百年誌」、昭和 48 年刊：記載なし

W084) 芳川小学校

- 「芳川学校沿革誌（創立五十周年記念）」、昭和 34 年刊、p.29

昭和 10 年 2 月 4 日「小屋上条辰蔵氏よりピアノ寄贈」

- 「芳川小学校創立 100 周年記念誌」、平成 22 年刊：記載なし

W085) 寿小学校

- 「学校沿革誌（創立九十周年記念）」、昭和 42 年刊：記載なし

- 「明日を生む（寿小学校創立 130 周年記念誌）」、平成 15 年刊：記載なし

W086) 明善小学校：沿革資料未見（新設校）

W087) 今井小学校

- 「長野県の学校」、p.619
明治45年「梓川村降幡氏よりピアノ寄贈を受ける(郡下はじめてのピアノとなる)」
- 今井学校開設九十周年記念「学校沿革誌」、昭和39年刊
明治45年「梓川降幡氏よりピアノ寄贈を受ける。(郡下学校ピアノのはじめ)」 (p.45)
昭和19年11月23日「古池栄一氏ピアノ寄贈」 (p.67)

W088) 菅野小学校〔神林小学校+笹賀小学校〕

- ◎「神林学校史」、昭和46年刊、p.19
大正15年「寄附金にてスタンウェーピアノ購入。着荷す(11・29)」
- 「沿革誌(笹賀小学校創立七十周年記念)」、昭和37年刊：記載なし

W089) 二子小学校：沿革資料未見(新設校)

W090) 本郷小学校

- 「長野県の教育」、p.622：昭和13年度「大村、竹内氏寄付によるピアノ披露演奏会が行われる」
- ◎「記念誌 百年の歩み」、平成20年刊、p.24
昭和14年「大村出身の竹村喜太郎氏(奉天銀行の頭取)の遺言により、遺族が昭和14年寄贈。2月11日ピアノ寄贈記念「イパッハ」(グランド)披露演奏会開催」

W091) 信大付属松本小学校

- 「60年史」、昭和44年刊：記載なし

更埴地区

N001) 大岡小学校(長野市大岡)

- 「大岡小学校百年誌」、平成14年刊：記載なし

N002) 上山田小学校(千曲市)

- 「長野県の学校」、p.409：大正15年「ピアノ購入」
- 「上山田小学校百年誌」、昭和49年刊、p.408：昭和2年6月27日：「ピアノ八〇〇円で購入する」

N003) 南条小学校(坂城町)

- 「長野県の学校」、p.410：昭和21年「寄贈ピアノ(19年山崎与吉氏)の披露記念音楽会開かれる」
- 「南条小学校百年誌」、昭和52年刊：記載なし

N004) 村上小学校(坂城町)

- 「村上小学校百年誌」、昭和49年刊、p.28
昭和7年「近藤和作氏ピアノ寄贈披露大音楽会(800余円)(p.210)」

N005) 坂城小学校(坂城町)

- 「長野県の学校」、p.412：昭和7年「開校三十周年祝賀式挙行、ピアノ購入」
- 「坂城小学校百年誌」、昭和54年刊、p.35
昭和7年10月15日「開校三十周年祝賀会をあげた。ピアノ購入。披露式を行った」

N006) 戸倉小学校(千曲市)

- 「戸倉小学校沿革誌」、昭和42年刊、p.314：昭和12年5月9日「ピアノ披露式 音楽会」

N007) 更科小学校(千曲市)

- 「長野県の学校」、p.414：昭和7年「ピアノの寄付があった」
- ◎「更科小学校創立九十周年沿革誌」、昭和39年刊、p.16、および口絵写真
昭和5年11月13日「寄付によってピアノが購入された。ドイツ製カローラオットピアノ(定価六百元)」
6年2月7日「ピアノひろく音楽会を開いた」

N008) 五加小学校(千曲市)

- 「五加小学校百年史」、昭和51年刊：記載なし

N009) 埴生小学校(千曲市)

- 「埴生小学校百周年記念誌」、昭和48年刊、p.259
昭和13年5月2日「午後校長、柿崎先生、丸子へピアノ購入につき出張」

N010) 八幡小学校 (千曲市)

- 「八幡小学校沿革誌」、昭和47年刊、p.245：昭和3年11月23日「ピアノ備付披露会」

N011) 治田小学校〔稲荷山小学校+桑原小学校〕(千曲市)

- 「長野県の学校」、p.418：昭和14年「特殊資金と篤志家の寄付によりピアノ購入」
- 「桑原小学校沿革誌」(創立百周年記念)、昭和49年刊：記載なし
- 「稲荷山小学校開校七十周年記念誌」、昭和45年刊：記載なし

N012) 屋代小学校 (千曲市)

- 「沿革史屋代学校」、昭和38年刊、p.413
- 昭和18年7月28日「武蔵野音楽学校教授榊原先生のピアノ演奏会」

N013) 東小学校〔倉科学校〕(千曲市)

- 「更埴市立東小学校百年史」、昭和52年刊、p.689
- 昭和20年8月10日「ピアノ披露音楽会開催(倉科学校)」

須坂・上高井

N014) 栗ガ丘小学校〔都住小学校〕(小布施町)

- 「都住小学校学校沿革誌」、昭和42年刊、p.120：昭和17年「ピアノ寄贈披露演奏会(7・9)」
- 「小布施小学校沿革誌」、昭和48年刊、p.149
- 昭和3年12月28日「吉家捨蔵氏寄贈のピアノ到着」

N015) 高山小学校〔高井、山田、奥山田小：統合〕(高山村)

- 「高井小学校沿革誌」、昭和51年刊：記載なし
- 「山田小学校100周年記念誌」、昭和51年刊：記載なし
- 「奥山田小学校百年誌」、昭和50年刊：記載なし

N016) 須坂小学校 (須坂市)

- 「須坂小学校百年史」、昭和48年刊：記載なし

N017) 小山小学校 (須坂市)

- 「長野県の学校」、p.433：昭和19年「戦争一色の中、心の潤いをもとめピアノの購入」
- 「小山小学校百年史」、昭和49年刊、p.349：昭和19年「ピアノの購入と小山の音楽の基礎」

N018) 森上小学校 (須坂市)

- 「森上小学校開校四十周年記念沿革誌」、昭和49年刊：記載なし

N019) 日滝小学校 (須坂市)

- 「日滝小学校百年誌」昭和49年刊：記載なし

N020) 豊洲小学校 (須坂市)

- 「豊洲小学校百周年記念誌」、平成元年刊：記載なし

N021) 日野小学校 (須坂市)

- 「六十年の歩み」、昭和44年刊：記載なし

N022) 井上小学校 (須坂市)

- 「井上小学校百年史」、昭和50年刊：記載なし

N023) 高甫小学校 (須坂市)

- 「高甫学校開校百周年のあゆみ」、昭和51年刊、p.176、口絵写真：p.25
- 昭和19年「ピアノ寄贈(竹前邑治氏)」

N024) 旭ヶ丘小学校 (須坂市)：沿革資料未見(新設校)

N025) 仁礼小学校 (須坂市)

- 「仁礼小学校百年誌」、昭和50年刊：記載なし
- 仁礼・南部小学校「学校沿革誌」、昭和41年刊：記載なし

N026) 豊丘小学校 (須坂市)

- 「開校百周年記念誌」、昭和49年刊：記載なし

中野・下高井

N027) 山ノ内東小学校 (山ノ内町)

○「山ノ内町東小学校沿革誌」、昭和 59 年刊、p.669

昭和 7 年 6 月 2 日「田中氏寄贈のピアノ講堂に設置」

N028) 山ノ内西小学校 (山ノ内町)

●「山ノ内西小学校百年史」、昭和 49 年刊：記載なし

N029) 山ノ内南小学校 (山ノ内町)

●「蓋岳学校より南小学校へ」、昭和 56 年刊：記載なし

●「香りを永く伝えよや (南小学校写真集)」、平成元年刊：記載なし

N030) 山ノ内北小学校〔須賀川尋常高等小学校〕(山ノ内町)

○「長野県の学校」、p.453：大正 13 年「ピアノ設置 (オランダ公使館のもの、グランドピアノ)」

◎「ふるさと須賀川」(山ノ内北小学校百周年記念誌)、昭和 52 年刊、p.136f

大正 13 年「市川校長とピアノ」：

四月十八日：校長古田運送店ニピアノノ件ニツキ所用アリ出張 夕刻古田運送店へピアノ腰橋
到着二十二日ニ運送ニテ敬送ヲ依頼ス

四月二十一日：北沢学務委員氏ニピアノ明日到着ノ旨通知ス

四月二十二日：消防幹部六人後方付ケトシテ (前日消防祝賀会) 来校シタレバ依頼シテピアノ
運搬応援ヲ願フ 幹部諸氏ハ原山商店迄出張シ呉レタル処へ中野ヨリノ運送到着
ソレヨリ箱ノ上部ニツリ網ヲナシテ左右ニ分チ危険ヲ防ギツツ午前十一時無事運
搬ヲ了セリ 幹部諸氏ニ一盃差上グ 荷解キニ金井大工ノ小僧ヲ招キタ刻マデ消
防幹部ノ手伝ヒモアリテ組立マデヲ了セリ

四月二十三日：区長総代協議員村会議員父兄総代学務委員区会計氏等 二十余名来校 ピアノ
到着ノ披露ヲナシ後一盃差上グ

五月十六日：区ノ開祖ノ守護神タル宝ノ祭典日ニ当ルヲ以テ例年ノ通り休業トナシ 区内一般
ノ方々ニピアノ見物ヲ許シタリ 校長内藤両氏当直ヲナシ一般ニ説明ノ勞ヲトル

五月十七日：午後三時披露会開会

このピアノが「九十周年沿革史」に郡下随一のピアノとして紹介されている、由緒あるピアノである。ピアノ披露会の次第のなかに会計報告があり、区有山林の樹木売却と区費、教育基金よりの補助及び特別寄附で購入したもので、運搬費その他合計で六百貳拾三円四十五銭かかっている。オランダ公使館からの購入のグランドピアノで、この時代小学校にピアノが入ったのは、まさに画期的、先見的なことであった。

このことは何よりも須賀川区の人々の、学校への信頼の深さがいかばかりのものであったかを思わされるのである。大金持ちがポンと寄附して購入したピアノではない。大正中期の好景気で、若干は経済状態がよくなったとはいっても、なお何銭、何十銭という学校基金を募集していた時代であった。ピアノが何であるか、殆どの人々は知らない筈である。それに大金を投じたのであるから、ここに須賀川の人々の、いざという時の心のすえざまのゆるぎなきがみてとれるであろう。

音楽に堪能な市川浄校長の得意や思うべしであった。もうひとり内川訓導も極めて堪能であった。以来須賀川に高度な音楽環境が育ち、現在にひきつづいていることを思うと、市川校長を先頭にしたこのピアノ購入の価値は、六百余円の金銭と比較すべくもなく大きいといわねばならない。ちなみに現在も、最もすぐれた音感のピアノとして山ノ内北小学校の体育館で、現役生活を送っているのである。

日誌は以後陸続としてピアノ参観にくる他校の教師、遠足などの途次に立ち寄る他校生の状況が克明に綴られている」

大正 13 年 5 月 17 日「ピアノ披露式」 (p.194)

N031) 木島平南部小学校 (木島平村)

- 「南部小学校改築記念誌」、昭和63年刊

昭和11年6月23日「講堂落成記念としてピアノ寄贈される」(p.224)

「村外他出会員は《母校講堂新築記念》として、ピアノ寄贈をすすめていた。その趣旨を次のように述べている《(…)この時にあたり、吾等他出会員打って一丸となり、慶賀の記念としてピアノ一台母校に贈り、情操教育に資し郷土の文化を高め、益々吾等の背景を強力ならしめ、且後進の思い出を豊かならしめんとす》」(写真 p.161)

- N032) 木島平中部小学校〔往郷尋常高等小学校〕(木島平村)

○「長野県の学校」、p.455：昭和11年「ピアノ・ラジオ同窓会で寄附」

○「往郷・中部小学校沿革誌」、平成9年刊、p.720：昭和11年「ピアノ・ラジオ寄附(同窓会)」

- N033) 木島平北部小学校〔穂高小学校〕(木島平村)：沿革資料未見

- N034) 野沢温泉小学校(野沢温泉村)

○「長野県の学校」、p.457：昭和15年「ピアノ、映写機披露」

○「百周年記念誌野沢温泉小学校」、平成13年刊、p.47

昭和15年9月28日「寄贈ピアノと映写機の披露、音楽映画の夕べを催す」

- N035) 市川小学校(中野市)

●「市川っ子(市川小学校閉校記念誌)」、平成19年刊：記載なし

- N036) 中野小学校(中野市)

○「中野市誌」歴史編・後篇、p.464：昭和3年「中山晋平ピアノ寄贈」

○「信州中野小学校百年史」、昭和48年刊、p.571

昭和3年「中山晋平来校、寄付のピアノを児童に紹介する」

- N037) 日野小学校(中野市)

○「長野県の学校」、p.460：昭和2年「中山晋平先生よりピアノ一台寄贈される」

- N038) 延徳小学校(中野市)

●「延徳学校と地域の沿革」、昭和63年刊：記載なし

- N039) 高丘小学校(中野市)

◎「長野県の学校」、p.462

昭和3年「ご大典記念として篤志寄附によりドイツ製のピアノが購入された」

◎「高丘学校沿革誌」、昭和47年刊、p.53

「独逸製シュタインベルグ式アップライト。価格は附属品運搬費共一千五百四拾円、但しピアノ一台定価一千八百円也」、「東京京橋・外国ピアノ輸入商会」

- N040) 平野小学校(中野市)

○「平野小学校百年誌」、昭和50年刊、p.296

昭和11年「ピアノ購入(4.11)(飯山高女教諭宮本奥三氏所有)」

- N041) 長丘小学校(中野市)

●「長丘教育のあゆみ(統合十周年記念誌)」、昭和51年刊：記載なし

- N042) 平岡小学校(中野市)

○「長野県の学校」、p.465

昭和16年「グランドピアノ及びブラスバンド楽器、村内の有志によって寄贈される」

●「平岡小学校百周年記念誌」、平成22年刊：記載なし

- N043) 科野小学校(中野市)

●「科野小学校沿革誌(中野市)」、昭和49年刊：記載なし

- N044) 倭小学校〔科野尋常高等小学校+倭尋常小学校〕(中野市)：沿革資料未見

上水内地区

- N045) 豊野東小学校(長野市豊野)

○「立石が丘の百年」、平成元年刊、p.271

昭和18年11月3日「紀元二千六百年記念として、寄付金三,五一〇円を受けてピアノを購入する」

- N046) 豊野西小学校(長野市豊野)

- 「豊野西小学校史」(長野市)、平成元年刊、p.887
 昭和2年「この年ピアノ寄贈される(東伝之丞から)」
- N047) 牟礼西小学校〔高岡尋常高等小学校〕(飯縄町)
 ○「長野県の学校」、p.478：昭和15年「縦型ピアノが購入された」
- N048) 牟礼東小学校(飯縄町)
 ●「牟礼村学校誌」、平成9年刊：記載なし
- N049) 三水第一小学校(飯縄町)
 ○「三水第一小学校史」、平成元年刊、p.896：大正9年3月「ピアノ平台巻号購入、代金1200円」
 ○「三水郡誌」、昭和55年刊、p.1319
 大正9年3月17日「ピアノ購入一二、〇〇〇円」
 5月7日「新築講堂の落成式挙行」
 「記念音楽会を催し音楽家片山健、近藤義次の二氏によるピアノの弾き初めを行い、職員一同「讃岐の院」(足立鉄太郎作詞)を合唱した」
- N050) 三水第二小学校〔赤塩学校〕(飯縄町)
 ●「赤塩学校百年誌」、昭和49年刊：記載なし
- N051) 野尻湖小学校(信濃町)
 ●「百周年記念誌」、昭和50年刊：記載なし
- N052) 古海小学校(信濃町)
 ●「古海小学校百年誌」、昭和50年刊：記載なし
- N053) 柏原小学校(信濃町)
 ○「柏原学校百年史」、昭和50年刊、p.469
 「昭和九年、皇太子殿下御誕生記念事業として小学校へピアノ一台を寄附することになった(…)昭和一一年では、ピアノ寄附の件が再び話し合われ、二台購入することに決定された。一台は平型(千二百円)、一台は立型(八百円級のもの)で、前者は唱歌室、後者は講堂に置くこととした。一一年の一〇月にピアノが到着、一一月にピアノの披露音楽会が催された」
- N054) 古間小学校(信濃町)
 ●「ありがとう古間小学校」(閉校記念誌)、平成24年刊：記載なし
- N055) 富士里小学校(信濃町)
 ●「百周年記念誌」、昭和52年刊：記載なし
- N056) 戸隠小学校(長野市戸隠)
 ●「戸隠小学校記念誌」、平成20年刊：記載なし
- N057) 柵小学校(長野市)
 ○「わが学び舎永遠に(柵小学校閉校記念誌)」、平成18年刊、p.18
 昭和15年8月「御真影奉安殿、忠霊殿が建設された。待望していたピアノが初めて購入された。また二宮尊徳の像が寄贈された」
- N058) 鬼無里小学校(長野市鬼無里)
 ●「統合二十周年記念誌」、平成13年刊：記載なし
- N059) 小川小学校(小川村)
 ●「小川小学校史」(開校十周年)、昭和59年刊：記載なし
 ●(小川村小根山分校開校百周年記念誌)「もりきっ子」、昭和50年刊：記載なし
- N060) 中条小学校(長野市中条)
 ●「中条小学校沿革葉」、昭和49年刊：記載なし
 ●「日下野学校史」(中条村日下野小学校閉校記念誌)、昭和52年刊：記載なし
 ●「御山里学校創立九十五周年記念誌」(中条村)、昭和44年刊：記載なし
 ●「(御山里学校)閉校記念誌」、昭和53年刊：記載なし
- N061) 津和小学校(長野市信州新町)
 ●「津和小学校百年誌」、平成元年刊：記載なし
- N062) 信州新町中央小学校(長野市信州新町)

- 「新町小学校百年のあゆみ」、昭和57年刊：記載なし

N063) 牧郷小学校 (長野市信州新町)

- 「長野県の学校」、p.494：昭和20年「青木憲方氏よりピアノ寄贈される」

- 「牧郷小学校閉校記念誌」、昭和57年刊

昭和19年1月8日「青木方憲氏ピアノ寄附金持参、前回と併せて金参千円也、これにて吉原寿男氏より購入す」(p.82)

昭和20年「青木方憲氏よりピアノ寄贈さる」(p.32)

N064) 水内小学校 (長野市信州新町)

- 「水内小学校閉校記念誌」、昭和59年刊：記載なし

N065) 犀明小学校 [日原小学校+信級小学校] (長野市信州新町)

- 「信級学校沿革誌」、昭和26年刊：記載なし

- 「なつかしの日原小学校」(閉校記念誌)、平成13年刊：記載なし

- 「犀明小学校二十周年記念誌」、平成8年刊：記載なし

飯山・下水内

N066) 豊井小学校 (中野市豊田)

- 「長野県の学校」、p.506：昭和12年「校歌・ピアノ披露式及び演奏会が行われる」

- 「豊井小学校沿革誌」、昭和49年刊：記載なし

N067) 永田小学校 [+西分校] (中野市豊田)：沿革資料未見

N068) 北信小学校 [堺小学校+豊栄小学校+水内小学校] (栄村)

- 「堺小学校のあゆみ」、昭和53年刊：記載なし

N069) 東部小学校 [堺小学校+長瀬、志久美、北野分教場] (栄村)

- 栄小学校「堺小学校のあゆみ」、昭和53年刊：記載なし

N070) 秋山小学校 (栄村)

- 「秋山小学校のあゆみ」、昭和54年刊：記載なし

N071) 秋津小学校 (飯山市)

- 「秋津学校百歳誌」、昭和49年刊、p.15：昭和18年「ピアノ寄付 田中森之助ほか二名」

N072) 飯山小学校 (飯山市)

- 「飯山小学校百年誌」、昭和48年刊：記載なし

N073) [柳原小学校] 泉台小学校 (飯山市)

- 「柳原小学校百年誌」、昭和49年刊：記載なし

- 「閉校記念誌 柳原校史」、昭和62年刊、p.251：昭和19年「ピアノ購入 (峰岸義衛氏寄贈)」

N074) 富倉小学校 (飯山市)

- 「富倉小学校百年誌」、昭和50年刊：記載なし

N075) 外様小学校 (飯山市)：沿革資料未見

N076) 常盤小学校 (飯山市)

- 「飯山市立常盤小学校創立百周年記念誌」、平成元年刊、p.335

昭和5年10月7日「横浜ピアノ商会よりピアノ購入 (代金四百八十円)」

- 「(常盤小学校) 照里分校閉校記念誌」、昭和53年刊：記載なし

N077) 戸狩小学校 (飯山市)

- 「閉校記念誌太田学校」、昭和53年刊：記載なし

N078) 岡山小学校 [市川小学校+桑名川国民学校] (飯山市照岡)

- 「市川っ子 (中野市・市川小学校閉校記念誌)」、平成19年刊：記載なし

N079) 東小学校 [瑞穂小学校+犬飼小学校+柏尾小学校] (飯山市)

- 「閉校記念誌 瑞穂」、昭和55年刊、p.61

昭和13年「四月六日には、学校ではじめてのピアノが到着し、十四日午後五時より村会議員等の参会のもと披露兼懇親会が開催された」

- 「(瑞穂小学校分校・犬飼小学校) 求信の一世紀」、昭和55年刊：記載なし

N080) 木島小学校 (飯山市)

- 「木島小学校沿革史」、昭和41年刊、p.18
昭和17年「在東京木島会有志寄贈のピアノ披露式並記念音楽会」

長野市

N081) 城山小学校 (長野市)

- 「長野城山学校百年史」、昭和48年刊、p.371
「渡辺敏は、明治八年十一月（三十歳の時）大町仁科小学校へバイオリンをもって赴任し、曲にあわせて体操を指導した。明治十五年七月、能勢栄が、三十一歳で、長野師範学校校長として着任し、翌年東筑摩中学校長を兼任したとき、バイオリンで唱歌を教えている。したがって、信州の教育界へ、西洋楽器をもちこんだ初めの人、渡辺敏といえよう。明治二十九年、長野高等女学校が、長野高等小学校を仮用して設けられ、三十五年三月に独立して新校舎へ移転した。初代校長となった渡辺敏は、高等小学校の仮用時代に、ピアノを購入して音楽教育を行った」

N082) 後町小学校 (長野市)

- 「後町教育九十年」、昭和40年刊：記載なし
- 「後町教育百年」、昭和50年刊：記載なし
- 「後町教育百三十七年」、平成24年刊：記載なし

N083) 鍋屋田小学校 (長野市)

- 「長野県の学校」、p.530
昭和10年「岩崎国松氏よりピアノ一台寄贈される。披露演奏会に草川信氏来演」
- 「鍋屋田小学校創立九十周年記念誌」、平成7年刊、p.197
昭和10年12月14日「ピアノ披露演奏会 草川信先生、内村靖子女史来校演奏さる」

N084) 加茂小学校 (長野市)

- 「六十年のあゆみ」、昭和49年刊：記載なし

N085) 山王小学校 (長野市)

- ◎「山王の歩み」(長野市)、昭和50年刊、p.25
昭和3年「昭和三年の御大典記念として、保護者の有志よりピアノ一台が寄贈された。この頃のピアノはたいへん珍しかった。《音楽の先生が東京まで出かけて選んだとのことで、先生はたいへん喜んで話された》と当時の卒業生は語っている(…)このピアノは当時としては貴重なドイツ製で、その後長く使用された」

N086) 芹田小学校 (長野市)

- 「創立百周年記念誌」、昭和48年刊：記載なし

N087) 古牧小学校 (長野市)

- 「創立八十周年記念小誌」、昭和43年刊：記載なし
- 「古牧小学校創立百周年記念誌」、昭和63年刊：記載なし

N088) 三輪小学校 (長野市)

- 「三輪小学校開校百周年記念誌」、昭和48年刊、p.129
昭和4年9月5日「ピアノの寄贈をうける」
昭和5年2月11日「寄贈ピアノ披露音楽会」

N089) 吉田小学校 (長野市)

- 「吉田小学校百年史」、昭和50年刊：記載なし

N090) 裾花小学校 [芹田尋常高等小学校中御所分教場] (長野市)：沿革資料未見 (新設校)

N091) 城東小学校 (長野市)：沿革資料未見 (新設校)

N092) 湯谷小学校 [三輪尋常高等小学校] (長野市)：沿革資料未見 (新設校)

N093) 南部小学校 (長野市)：沿革資料未見 (新設校)

N094) 大豆島小学校 (長野市)

- 「長野市立大豆島小学校創立120周年記念誌」、平成22年刊：記載なし

N095) 朝陽小学校 (長野市)

- 「朝陽小学校百年のあゆみ」、平成2年刊、p.185

「昭和十五年には《紀元二千六百年祭》が、政府主催の祭典行事として全国民総動員で開かれ、朝陽小学校でも記念事業の一つとして、祝賀音楽会ならびにピアノ披露式が催された。それは《国民精神総動員》を意図するもので、翌年の太平洋戦争突入へと向けられていったが、北尾張部の河原田新治氏から寄贈されたピアノは、児童の情操教育のため多に活用された」

N096) 柳原小学校 (長野市)

- 「柳原小学校百年誌」、昭和49年刊：記載なし

N097) 長沼小学校 (長野市)：沿革資料未見

N098) 古里小学校 (長野市)

- 「長野県の学校」、p.545：昭和11年「校歌制定、ピアノ入る」
○「古里小学校百年誌」、平成2年刊、p.230

昭和11年

「1936年、三才、浄専寺若槻仏導氏次男、道隆氏が箱型ピアノ一台を寄贈された。時あたかも二番目の校歌が作詞・作曲された時であり、両披露をするに十分であった。以後、古里の学校からもピアノの音が流れ、音楽教育のために十分活用された」

N099) 若槻小学校 (長野市)

- 「若槻小学校百年史」、平成3年刊、p.180

昭和12年「二月、当村稲田区出身の宮沢源十郎(長野市在住)から若槻小学校にスタンドピアノ一台が寄贈された。同月十一日、紀元節の式典につづいて、ピアノ披露音楽会が開催された。この披露には、長野県師範学校の音楽科教官山田辰男教諭が、弾き初めをおこなった。オルガンはひくものだがピアノは叩くものだという説明を聴いて、《叩いても壊れてしまわないものだろうかと思議でならなかった》と、その時の印象を述懐する卒業生がいる。このころ近隣には、ピアノが設備された小学校は極めて稀であった」

N100) 徳間小学校〔若槻小学校+古里小学校〕(長野市)：沿革資料未見(統合新設校)

N101) 浅川小学校 (長野市)

- 「浅川小学校百周年記念誌」、平成2年刊、p.522、
昭和17年「ピアノ贈呈式」

「村では災害続きでピアノ購入の予算が組めません。校長の海野先生は村と種々相談し寄附してもらふこととし、中曽根出身で植木屋をしておられた酒井治平氏にお願いする事にしました。十五年春に話が出て、学務委員をしておられた兄の宮沢藤八氏が仲介の労を取られ実現することになりましたが、戦争の為物不足が始まり、制作会社との交渉も苦勞でした。秋には待望のヤマハのグランドピアノが届き先生方は喜びに湧きました。価格は詳しく知りませんが、届けて下さった方の記憶では二千三百円との事でした。当時、今の高校卒で月三十円の給料は最高でしたので大変な額です」

「昭和十六年二月十一日午後二時、全校生徒や村人も参列してピアノ贈呈式が行われた。村長から酒井氏に感謝状が贈られた後、披露演奏は長野高等女学校音楽教師の町田等教諭によって奏でられ、加茂小音楽担当のバイオリン独奏も賛助演奏された。曲目はメヌエットとかガボットといった専門曲で、参列者に馴染みがなかったが「桃太郎変奏曲」は生徒もほっとして聴いていた」(同：p.151)

N102) 芋井小学校 (長野市)

- 「芋井学校の百年」、昭和51年刊、p.414
昭和19年「りんご組合よりグランドピアノ寄贈」
昭和20年「第一分校ピアノ寄贈さる(根岸勝信)」

N103) 小田切小学校 (長野市)

- 「小田切学校百周年記念誌」、昭和50年刊：記載なし

N104) 安茂里小学校 (長野市)

- 「安茂里小学校百周年記念誌」、平成元年刊：記載なし

N105) 松ヶ丘小学校〔安茂里小学校小市分校〕(長野市)

- 安茂里小学校小市分校「閉校記念誌」、昭和47年刊：記載なし

N106) 通明小学校 (長野市篠ノ井)

- 「通明小学校百年史」、昭和49年刊

大正15年「ピアノ修理披露唱歌会」(p.495)

昭和17年「ピアノ披露音楽会、玉木葦子先生来演」(同：p.498)

N107) 篠ノ井東小学校 (長野市篠ノ井)

- 「東福寺小学校閉校記念誌」、昭和51年刊、p.190

昭和12年

「現在体育館にピアノが置かれている。古いけれども音は確かで今でも音楽会や集会の時に美しい音色を響かせている。このピアノは、昭和十二年体育館が落成した時に、県外在住の卒業生から寄贈していただいたものである。

《十二年の学校日誌》

五月二十八日 ピアノ寄附依頼状を出す

六月七日 篠ノ井発列車で丸田校長、宮沢助役と共に東京横浜方面へピアノ購入資金募集のため出張する。

三月七日 例年学芸会を行っていたが、本年はピアノ披露をかねて音楽会をなす。
師範学校山田先生ピアノ演奏する」

N108) 篠ノ井西小学校〔川柳小学校〕(長野市篠ノ井)

- ◎ 「川柳小学校誌」、昭和53年刊、p.267f (演奏会写真あり)

昭和17年

「ピアノの新調 川柳国民学校は小校の悲しさ、これまで郡下の大校にはあったピアノがなかった。乙組音楽会などの晴れの舞台では、ピアノの伴奏で歌わなければならなかったので、ふだんオルガンで音楽の勉強をしている川柳の児童は、勝手が違って上がってしまい、十分実力を発揮することが出来ず、学校にピアノがほしいという声の切なるものがあった。

こうした希望に応じて、昭和十七年、村長山本久我治は村内より寄附金を募ってピアノを購入し、同年三月二十一日、大谷冽子・澄子姉妹を招き、その披露式と演奏会が川柳国民学校体育館ではなばなく行われた。ピアノはグランドピアノで代金は六枚四万一千円であったという。

小野ピアノ店より到着したピアノは舶来の上級品であり、大谷冽子といえば当時聞えた名ソプラノ歌手であったので、児童も披露演奏会に集まった村民も、すばらしいピアノの音色と、田舎では初めて聞くソプラノの美声にただ驚くばかり、念願かなってピアノで音楽の勉強が出来る幸せをかみしめた」

N109) 共和小学校 (長野市篠ノ井)

- 「共和小学校百年史」、昭和49年刊、p.429

昭和4年2月11日「紀元節式後 御大礼記念ピアノ購入披露音楽会举行」

N110) 信里小学校 (長野市篠ノ井)

- 「村山分校閉校記念誌」、平成8年刊：記載なし

N111) 塩崎小学校 (長野市稲荷山)

- 「稲荷山小学校開校七十周年記念誌」、昭和45年刊：記載なし

N112) 松代小学校 (長野市松代)

- ◎ 「松代学校沿革史」、昭和28年刊、p.154

大正13年

「大正八年(…)近時、我が国の音楽会は著しく進歩をし、学校に於ける日常の唱歌教授は勿論、音楽演奏会などには必ずピアノの設備を要求するようになった。偶々独逸より頗る廉価に購入する便宜を得たので、松代音楽研究会が率先し、有力者各位の賛成を仰ぎ、ピアノ(現在中学校で使用)を購入した。賛助金額は拾円以上で百二十名の方が参与している。

所要費額概算 一金 八百円也

内訳	一金 四百五十七円也	ピアノ一台
	一金 百三十円也	輸入税
	一金 五十円也	椅子及覆い
	一金 三十円也	内地運価
	一金 百円也	披露費
	一金 三十三円也	予備費

大正十三年四月十二日 ピアノ到着

大正十三年四月二十日 披露音楽会。バイオリン 水口幸麿、声楽 関鑑子、ピアノ井上武士氏を招いて行った」

○「文武学校・松代小学校 150 周年の歩み」、平成 18 年刊、p.34

大正 13 年「寄付金によるピアノ披露音楽会」

N113) 清野小学校 (長野市松代)

○「清野小学校開校百年誌」、昭和 61 年刊、p.156

昭和 17 年 6 月 20 日「ピアノ寄附 岩野区整骨医安藤利公・幸公両氏」

N114) 西条小学校 (長野市松代)

○「西条小学校創立百十周年記念誌」、昭和 61 年刊、p.169

昭和 12 年 3 月 22 日

《ピアノ披露式演奏会》

「春日麗朗として陽光流し清澄和楽講堂に満ち、山葉ピアノ平台三十号の美装之に和して壯観なり
(…) 演奏の方々として本村出身草川信先生、増野夏子嬢、松田トシ子嬢、海沼実氏 (松代出身)、
長野高女校町田等先生、松代校倉島通先生、清野校松本久登先生等の来奏あり盛会なりき」

N115) 豊栄小学校 [栄小学校] (長野市松代)

●「豊栄小学校のあゆみ」、昭和 53 年刊：記載なし

N116) 東条小学校 (長野市松代)

○「東条の歩み—ふるさととふるさとの学校—」(長野市松代)、昭和 60 年刊、p.429

昭和 11 年

「(…) 当校の音楽教育にはみるべきものがあつた。しかし残念なことにこの音楽教育で最も大きな意味をもっているピアノがなく、まさに画竜点睛を欠く思いがあつた。このため同窓会が奔走してピアノ購入資金を募金し、一二四〇円九〇銭を集めることに成功し、昭和十一年一月二十八日、母校に八八鍵の山葉堅型ピアノを寄贈した」

N117) 寺尾小学校 (長野市松代)

●「ふるさと寺尾 (創立八十周年記念誌)」、平成 17 年刊：記載なし

N118) 綿内小学校 (長野市若穂)

●「九十年のあゆみ」、昭和 40 年刊：記載なし

●「創立百二十周年記念誌」、平成 7 年刊：記載なし

N119) 川田小学校 (長野市若穂)

○「100 年のあゆみ (開校百周年記念誌)」、昭和 46 年刊、p.157

昭和 16 年「ピアノ寄贈 (東山善司 昭和 16 年)」(写真 p.30)

N120) 保科小学校 (長野市若穂)

○「保科の教育百年 (開校百周年記念誌)」、昭和 48 年刊、p.82

昭和 17 年「ピアノ・電蓄寄贈される」

N121) 昭和小学校 (長野市)

●「昭和小学校百年誌」(長野市)、昭和 52 年刊、p.514

大正 4 年 9 月 30 日「音楽会 (ピアノは借用)」

N122) 川中島小学校 (長野市)

●「川中島小学校百年史」、昭和 44 年刊：記載なし

●「川中島小学校百二十年史」、平成元年刊：記載なし

N123) 青木島小学校 (長野市)

- 「長野県の学校」、p.570：昭和15年「ピアノ購入、披露式・演奏会が行われる」
- 「青木島小学校百二十年誌」、平成7年刊、p.174
昭和15年12月23日「ピアノを購入し、披露式を挙げる」

N124) 下氷鉋小学校 (長野市)

- 創立九十周年「学校沿革誌」、昭和38年刊：記載なし
- 「下氷鉋小学校百年史」、昭和51年刊、p.428
昭和18年3月5日「新調ピアノ講堂へ運ぶ」、
3月14日「ピアノ披露音楽会」

N125) 真島小学校 (長野市)

- 「真島小学校百年誌」、昭和48年刊、p.96
昭和11年度「雨天体操場兼講堂新築記念に備品としてピアノが寄附された。プリマトンピアノ1台
(堅型22号)行を招いて盛大に挙げる」
「これは本村出身竹内仁一郎より寄附されたもので、当時としてはピアノは珍しく、近隣
には無かった。児童の喜びは大変でまた教育面での効果も大きかった」
昭和12年2月11日「ピアノ披露音楽会、長野高女教諭町田等、東京都音楽家北村英雄(本村出身)、
篠ノ井町井上てい(琴師範)」

N126) 七二会小学校 (長野市)

- 「目でみる七二会小学校のあゆみ」、平成元年刊、p.80f
昭和9年10月24日「瀬脇よりピアノ学校へ運搬す」
「ピアノ本校到着 運搬のため午後本校へ行く[岩草分]
「午後ピアノ持上げの為職員は本校へ赴く[五十平分]
11月3日「明治節拝賀式 同窓会より村へピアノの贈呈式を行う」

N127) 信田小学校 (長野市)

- 「信田小学校高野分校統合記念誌」、平成14年刊：記載なし

N128) 更府小学校 (長野市)

- 「更府小学校百年のあゆみ」、昭和55年刊(長野市)：記載なし

N129) 信大付属長野小学校 (長野市)：沿革資料未見

資料C: 年表・ピアノ導入

(◎: ドイツ製ピアノ)

- 明治38年(1905) ○諏訪市・高島小学校
 「郡下ではじめてピアノを東京公益社より購入」 (「長野県の学校」、p.130)
 「本校では明治三十八年四月に、東京の共益社よりピアノを購入した。鉄道が富士見までしか開通していなかったの、富士見まで鉄道で運び、後は、内国通運社が馬車で運んだ。そのピアノは現在も学校に残っているが、ところどころしか音が出ない」 (「高島学校百年史」、昭和48年刊、p.172)
- 明治39年(1906) ○小諸市・小諸小学校
 「小山久左衛門氏一族からピアノ一台の寄贈がある。価格四八〇円。ピアノ伴奏によって今までより一層諸儀式が厳粛に行われるようになった」 (「小諸学校沿革誌」、昭和57年刊、p.139)
 「一年生に入学したのは明治四十年四月だったと思う。(…)二階の大講堂に据えられたピアノ、県下でも珍しいといわれたピアノ、其のピアノに触れて見たいと、専科の先生のいない折を見はからって三四人で二階へ上がり、恐る恐る一寸、たたいて見て、鳴った、鳴った。其の音に自分でたまげて、あやけて下へとび下りる。いたづら小僧のなつかしい思い出」
 (小諸市立芦原中学校十周年記念誌「梅花教育の歩み」、昭和44年刊、p.305)
- ? 明治35年「小山久左衛門氏一族からピアノ一台の寄贈があり、《洋琴山葉商店ヨリ到着、価格480円》と記され、《ピアノ伴奏ニヨリ儀式厳粛ニ行ハル》と記録されている」 (「梅花教育の歩み」、同前、p.132)
- 明治42年(1909) ○安曇野市・豊科北小学校〔南徳高小学校〕
 6月「第一校舎完成す(…)村内特志者はこの日を永久に記念するため、教授上必要なピアノ、風琴その他の備品の購入を計り、寄附を申込まれるもの六十余名にのぼった」
 (南徳高小学校「閉校記念誌」、昭和46年刊、p.15)
- 大正3年度「ピアノ修繕五円也」(同前、p.20)
- 明治43年(1910) ○佐久市・岩村田小学校
 6月「ピアノ調律を行うむねの記事あり」 (「岩村田小学校創立七十周年記念誌」、昭和34年刊、p.44)
 談「私のころにピアノが入りましたね。高等一年時分でしょうか、ピアノが入った時のことをよくおぼえていますよ。ちょうど八月二十二日の若宮のお祭りの時でした。その日に初めてピアノを見まして、えらいめずらしかったことをおぼえています。わたしは明治四十三年の卒業ですが」 (同前、p.117)
- 明治44年(1911) ○松本市・梓川小学校〔梓尋常高等小学校〕
 「1月20日に花見の降旗廣厚氏からアプライト型ピアノ一台が寄贈された。(最初のピアノ)」
 (「梓川村誌」歴史編、平成6年刊、p.711)
- ? 明治24年「梓小にピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.371)
 「明治24年(「43」年に訂正)寄贈のピアノ(現存・現在も使用している)」(補足:「梓川村花見降旗広正氏厳父」)
 (「梓小学校倭小学校教育の歩み」、写真キャプション、昭和48年刊、p.44)
- 明治45年(1912) ○松本市・今井小学校
 「梓川村降幡氏よりピアノ寄贈を受ける(郡下ではじめてのピアノとなる)」(「長野県の学校」、p.619)
 「梓村降幡氏よりピアノ寄贈を受ける。(郡下学校ピアノのはじめ)」
 (今井学校開設九十周年記念「学校沿革誌」、昭和39年刊、p.45)
- 明治45年(1912) ○箕輪町・箕輪中部小学校
 「この年ピアノ一台寄付される」 (「箕輪中部小学校百年誌」、昭和53年刊、p.42)
- 大正2年(1913) ○佐久市・岩村田小学校
 「戦勝記念寄付 千五百円を得て運動具、ピアノ備付」 (「岩村田教育百年」、昭和53年刊、p.113)
- 大正3年(1914) ○松本市・開智小学校〔田町小学校〕
 「ピアノ一台備付く」 (「史料開智学校」vol.21、平成10年刊、p.70)
 11月25日「ピアノが寄付される(375円)」(同前、p.333)
 大正10年5月14日「ピアノ調律師来校、修繕。(東京音楽学校講師 福島琢郎氏)」(同前、p.342)
- 大正3年11月25日「ピアノ山葉堅台第二号一台二七五円到着」
 4年3月24日「証書授与式。本年は(…)職員祝辞を略し、唱歌にはピアノおよびクラリオネット、尺八の合奏とした」 (以上「開智学校沿革史」、昭和40年刊、p.304)
- 大正4年(1915) ○青木村・青木小学校
 「初めてピアノ購入」 (「長野県の学校」、p.85)
- 大正4年(1915) ○上田市・中塩田小学校
 大正4年「村内特志者よりピアノ(400円)を寄贈される」 (「盈進百年」、昭和49年刊、p.18)
 大正5年「ピアノ(400円)寄贈される」 (「長野県の学校」、p.91)
- 大正5年(1916) ○辰野町・辰野西小学校〔伊那尋常高等小学校〕
 「武井寛太郎氏ピアノ寄贈。上伊那郡下でピアノを持つ二校目。秋音楽会を開く。以後続けて開かれる」
 (「長野県の学校」、p.170)
 「ピアノの寄贈 詳しい記録は残っていないが《校務日誌》にピアノの寄贈の経緯は次のように書かれている。

大正五年十二月二十一日 本日午後一時半より校長矢島盈、訓導長田善太郎、上田吉太郎三名同行、武井製糸向い行き主人に面接、洋琴一台価格四百七十円、貴校備付として寄附の件承諾を受けたり。依て直に上田訓導より注文することとなりたり。

文面から本校からの強い要望があったことが推察される。学校からの要請を受け快く寄付をしている武井寛太郎社長は、伊那富音楽会の成功を契機としてピアノ寄贈に至ったものであろう。十二月に発注されたピアノは、わずか一か月後大正六年一月二十二日、製造元の東京松本楽器製造会社より本校に届けられた。翌日さっそく荷がとかれ、二十四日には調律が行われた。これには東京から東京松本楽器製造会社技術主任小平広平が、はるばる訪れてあたっている。こうして伊那富小学校は、上伊那郡下で中箕輪小学校に続きピアノを持つ二校目の学校となった。当時新任教員の給料が一〇円から一五円であったことをみるにつけても、四百円余のピアノは学校の備品としていかに高価なものであったかが思われる。

(「辰野西小学校沿革誌」、平成元年刊、p.231f)

大正7年(1918) ○松本市・筑摩小学校〔松本尋常高等小学校・筑摩部〕

5月11日「ピアノを購入する」(「史料開智学校」vol.21、同前、p.25)

「当時音楽教育はオルガンで行われていたが、本校は住民有志の寄付により、はじめからピアノを購入して授業」(「長野県の学校」、p.604)

大正7年(1918) ○塩尻市・塩尻東小学校〔塩尻尋常高等小学校〕

「吉江達郎氏ピアノ寄贈する」(「長野県の学校」、p.332)

10月「吉江達郎氏ピアノ寄贈」(「塩尻東・西小学校百年史」、昭和49年刊、p.256)

大正8年(1919) ○安曇野市・穂高小学校〔東穂高尋常高等小学校〕

「ピアノ購入(635円)」(「開校八十五周年記念誌」昭和34年刊、p.2)

大正8年(1919) ○佐久市・中込小学校「増築記念としてヤマハピアノ寄付」(「長野県の学校」、p.24)

9月30日「校舎増築記念としてヤマハピアノ五号(…)寄付される」(「中込小学校百年誌」、昭和55年刊、p.35)

大正8年(1919) ○佐久市・野沢小学校

7月28日「伴野四郎氏よりピアノ寄贈」(「創立九十周年沿革史」、昭和40年刊、p.31)

大正8年(1919) ○小諸市・小諸小学校

11月「小諸町出身の実業家増田甚一郎氏、新型ピアノ一台寄贈」(「小諸学校沿革誌」、昭和57年刊、p.175)

「小諸出身の実業家、増田甚一郎氏、新型ピアノ一台寄贈」(「梅花教育の歩み」、昭和44年刊、p.152)

大正9年(1920) ○上田市・丸子中央小学校

「町の篤志者の寄付金により三号グランドピアノを購入(千六百元)し、初めてピアノが講堂に据付けられる。なおピアノ設置を記念して十一月二十一日に記念音楽会が開かれた」

(「丸子中央小学校百年史」、昭和48年刊、p.372)

大正9年(1920) ○上田市・浦里小学校

「ピアノをはじめて購入する」(「長野県の学校」、p.86)

「中校舎新築、ピアノ購入、御真影奉安殿新築」

「学校に始めてピアノ購入(9月)」(「九十年濃の歩み」、昭和37年刊、p.13)

「学校にグランドピアノが、村内の特志寄附によって購入されました。川西地方で中塩田に次いで二番目であったと聞きました」(同前、p.66)

大正9年(1920) ○飯縄町・三水第一小学校

3月17日「ピアノ平台壱号購入代金一二〇〇円」(「三水第一小学校史」、平成元年刊、p.896)

5月7日「新築講堂の落成式挙行 記念音楽会を催し音楽家片山健、近藤義次の二氏によるピアノの弾き初めを行い、職員一同「讃岐の院」(足立鉄太郎作詞)を合唱した」(「三水郡誌」、昭和55年刊、p.1319)

大正9年(1920) ○宮田村・宮田小学校

「大正年間に宮田尋常高等小学校に寄附された教材あるいは寄附金は数多い(…)なかでも大正九年の信産館(製糸工場)よりのピアノ寄附は、それまでオルガンで唱歌をしていた宮田小学校にとって、初めてのピアノであった点特筆されるものである。

《寄附採用願》

一、第四号型ピアノ	壱台	右価格金七百九拾九円五拾銭也
一、同上用椅子	壱脚	右価格金拾八円也
一、ピアノ覆	壱個	右価格金貳拾五円六拾銭也 (…)

価格合計 金八百四拾参円拾銭也

大正九年六月二十六日

合資会社信産館 代表社員 平沢源蔵(…)

しかし、このピアノは惜しいことに十一年の火災で焼失してしまった。その後の中野氏寄附のピアノは宮田小学校の音楽教育に役立って、現在なお使用されている」(「宮田小学校百年史」、昭和47年刊、p.143f)

《寄贈品》

(…)

「福島式ピアノ一基 此価格 金壱千円也 寄附者 東京市赤坂区氷川町 中野欽九郎

大正十二年三月三十一日提出」(同前、p.185)

大正9年(1920) ○佐久市・野沢小学校

- 「ピアノ寄贈される」 (「野沢小学校百年史」、昭和51年刊、p.436)
- 大正10年(1921)○岡谷市・小井川小学校(平野尋常高等小学校・小井川部)
8月20日「ピアノ到着(山葉製七号の一号)」 (「小井川小学校百年史」、昭和48年刊、p.236)
- 大正10年(1921)○東御市・和小学校
「ピアノ購入、音楽教育を広める」 (「長野県の学校」、p.72)
12月「ピアノ購入」 (「和小学校百年誌」、昭和54年刊、p.587)
- 大正11年(1922)○〔松本市・松本尋常高等小学校柳町部(女子部)〕→後、廃校
4月「ピアノ購入」 (「史料開智学校」vol.21、同前、p.24)
- 大正11年(1922)○青木村・青木小学校
7月「柳田堅一郎氏寄附金によって、初めてピアノ一台購入することに村会決定」
(「百年の歩み」、昭和48年刊、p.17)
- 大正11年(1922)○上田市・丸子北小学校〔依田小学校〕
「立型ピアノ購入」 (「移転開校七十周年記念 沿革誌」、昭和45年刊、p.15)
- 大正12年(1923)○松本市・源池小学校〔松本尋常高等小学校・源池部〕
「ピアノを購入」 (「長野県の学校」、p.603)
5月7日「ピアノ着。破損個所なし。女子師範学校の井出教諭が来校し指弾」
(「創立八十周年記念誌」、昭和59年刊、p.37)
- 大正12年(1923)◎駒ヶ根市・中沢小学校
9月1日「ピアノ到着 関東大震災」 (「中澤学校百年誌」、昭和47年刊、p.81)
「大正十二年九月一日には、東京へ注文した、ドイツ製ピアノが到着している。そして後日全職員がピアノの講習を受けた」 (同前、p.331)
- 大正12年(1923)◎飯田市・伊賀良小学校
「ピアノが入る」 (「長野県の学校」、p.257)
「七月に天皇ご成婚記念としてピアノ購入の計画ができ、八月二十五日に購入が決定された。代金は千三百十三円であった」 (「伊賀良小学校百年史」、昭和56年刊、p.247)
9月「ご成婚記念としてドイツ製ピアノ購入」 (同前、p.534)
- 大正12年(1923)○松本市・旭町小学校
12月4日「ピアノ披露会」 (「旭町小学校沿革史」、昭和48年刊、p.82)
「本日、午前二時限授業とし掃除、昼食をとり、十二時半より、唱歌会を催し来賓にきいて貰う。
午後二時唱歌会終了」 (同前、p.44)
- 大正12年(1923)○佐久市・白田小学校
「ピアノ購入」 (「長野県の学校」、p.19)
「ピアノ購入。下小田切出身上田市在住土屋なお子氏寄贈による」
(「白田小学校学校要覧」、昭和32年刊、p.12)
- 大正12年(1923)○伊那市・高遠小学校
「大正十二年の職員会で、音楽教育についての議論がなされ、教育の根本問題にふれ、単なる知能の面だけに眼を向けることなく、情操を培う人間教育という点に力を注ぐべきであることが力説された。そこで、情操を培う中心的教科は、音楽であるから、オルガンによる授業からピアノによる授業と、レコードの音楽鑑賞にかえるべきであるとした。当時の学校長であった藤沢正三郎は、このような教育の考え方を受け入れ、強力におし進めた。学校長藤沢正三郎の名で、ピアノ・蓄音機寄付金募集のための趣意書をかき、高遠出身の在京者を中心に寄付をあおいだ(…)この趣意書によってなされた募金はたちまちに集まり、同年八月にはグランドピアノと蓄音機が購入された。続いてピアノ披露の演奏会が、当校体育館で催された。この演奏会には、白樺同人の柳宗悦夫人でソプラノ歌手柳兼子を、その伴奏者には高遠出身の上沼房子を招いて行われた。」
(「信州高遠百年史」、昭和47年刊、p.485f)
- 大正12年(1923)○伊那市・東春近小学校
「青年会よりピアノ寄贈される」 (「東春近小学校沿革誌」、昭和49年刊、p.383)
大正13年1月15日「ピアノ学校到着(青年会寄贈)」 (同前、p.99)
- 大正13年以前 ○岡谷市・川岸小学校
大正13年4月11日「ピアノ調律(伊藤辰雄氏)」 (「九十年沿革史」、昭和39年刊、p.81)
- 大正13年(1924)◎飯島町・飯島小学校
1月26日「時の皇太子(現在の天皇)殿下と久邇宮良子女王殿下の御成婚が取り行われた。村の有志の方々、此の御盛典奉祝記念事業としてピアノ寄附を相ばかり、多額の寄附金により当時としては最高のドイツ製ホイリッヒピアノと山葉オルガン夫々購入し寄附された。学校では同年十二月二十六日ピアノ披露の音楽会を挙行了した」 (「飯島町学校教育百年史」、昭和44年刊、p.176)
- 大正13年(1924)○松本市・中川小学校
「ピアノ披露式を行う」、「岩瀨道衛氏よりピアノ寄贈される」 (「長野県の学校」、p.347)
3月10日「岩瀨氏寄贈のピアノ披露演奏会を行う」 (「中川小学校百二十周年記念誌」、平成7年刊、p.352)
- 大正13年(1924)◎安曇野市・三郷小学校〔温明尋常高等小学校〕

4月「ピアノ着荷」、5月「ピアノ披露の音楽会」 (「温明小学校閉校記念誌」、昭和45年刊、p.30)
 「皇太子殿下御成婚記念」(大正13年1月)の記念事業として、村内外より寄付を募り、130名以上による総額2155円50銭から1541円68銭にて(記念事業総額は2862円50銭)購入した
 「昨年(…)三月二十五日(…)松本市ミスズ商会から、スタインウエーの堅形ピアノを購入する契約をしました。四月十日に着荷し、十二日大阪から河島調律師が見えて調律の上受取、五月十八日にピアノ披露の小音楽会を開きました」 (「温明教育」第14号、大正14年刊、附録)

大正13年(1924)◎松本市・開智小学校〔松本尋常高等小学校・田町部〕

4月29日「東正堂訪問(田町ピアノの件)同上人来校。ホヒリッヒマホガニー定価1450円のもの、入札価1128円にて納入契約」 (「史料開智学校」vol.3、平成2年刊、p.72)

4月29日「ピアノを購入す(田町部)」 (「史料開智学校」vol.21、平成10年刊、p.25)

5月23日「ピアノ購入、独逸製アオイリッヒ会社製」 (「田町小学校沿革史」、昭和40年刊、p.15)

大正13年(1924)◎長野市・松代小学校

「寄付金によるピアノ披露音楽会」

(「文武学校・松代小学校150周年の歩み」、平成18年刊、p.34)

「大正八年(…)近時、我が国の音楽会は著しく進歩をし、学校に於ける日常の唱歌教授は勿論、音楽演奏会などには必ずピアノの設備を要求するようになった。偶々独逸より頗る廉価に購入する便宜を得たので、松代音楽研究会が率先し、有力者各位の賛成を仰ぎ、ピアノ(現在中学校で使用)を購入した。賛助金額は拾円以上で百二十名の方が参与している。

所要費額概算	一金	八百円也	
内訳	一金	四百五十七円也	ピアノ一台
	一金	百三十円也	輸入税
	一金	五十円也	椅子及覆い
	一金	三十円也	内地運価
	一金	百円也	披露費
	一金	三十三円也	予備費

大正十三年四月十二日 ピアノ到着

大正十三年四月二十日 披露音楽界。バイオリン 水口幸麿、声楽 関鑑子、ピアノ 井上武士氏を招いて行った」 (「松代学校沿革史」、昭和28年刊、p.154)

大正13年(1924)◎山ノ内町・山ノ内北小学校〔乙夜間瀬尋常小学校〕

「ピアノ設置(オランダ公使館のもの、グランドピアノ)」 (「長野県の学校」、p.453)

5月17日「ピアノ披露式」 (山ノ内北小学校百周年記念誌「ふるさと須賀川」、昭和52年刊、p.194)

「市川校長とピアノ

四月十八日：校長古田運送店ニピアノノ件ニツキ所用アリ出張 夕刻古田運送店ヘピアノ腰橋到着二十二日ニ運送ニテ敬送ヲ依頼ス

四月二十一日：北沢学務委員氏ニピアノ明日到着ノ旨通知ス

四月二十二日：消防幹部六人後方付ケトシテ(前日消防祝賀会)来校シタレバ依頼シテピアノ運搬応援ヲ願フ 幹部諸氏ハ原山商店迄出張シ呉レタル処ヘ 中野ヨリノ運送到着 ソレヨリ箱ノ上部ニツリ綱ヲナシテ左右ニ分チ危険ヲ防ギツツ午前十一時無事運搬ヲ了セリ 幹部諸氏ニ一盃差上グ 荷解キニ金井大工ノ小僧ヲ招キ夕刻マデ消防幹部ノ手伝ヒモアリテ組立マデヲ了セリ

四月二十三日：区長総代協議員村会議員父兄総代学務委員区会計氏等二十余名来校ピアノ到着ノ披露ヲナシ後一盃差上グ

五月十六日：区ノ開祖ノ守護神タル宝ノ祭典日ニ当ルヲ以テ 例年ノ通り休業トナシ 区内一般ノ方々ニピアノ見物ヲ許シタリ 校長内藤両氏当直ヲナシ 一般ニ説明ノ勞ヲトル

五月十七日：午後三時披露会開会

このピアノが「九十周年沿革史」に郡下随一のピアノとして紹介されている、由緒あるピアノである。ピアノ披露会の次第のなかに会計報告があり、区有山林の樹木売却と区費、教育基金よりの補助及び特別寄附で購入したもので、運搬費その他合計で六百弍拾三円四十五銭かかっている。オランダ公使館からの購入のグランドピアノで、この時代小学校にピアノが入ったのは、まさに画期的、先見的なことであった。

このことは何よりも須賀川区の人々の、学校への信頼の深さがいかばかりのものであったかを思わされるのである。大金持ちがボンと寄附して購入したピアノではない。大正中期の好景気で、若干は経済状態がよくなったとはいっても、なお何銭、何十銭という学校基金を募集していた時代であった。ピアノが何であるか、殆どの人々は知らない筈である。それに大金を投じたのであるから、ここに須賀川の人々の、いざという時の心のすえさまのゆるぎなきがみとれるであろう。

音楽に堪能な市川浄校長の得意や思うべしであった。もうひとり内川訓導も極めて堪能であった。以来須賀川に高度な音楽環境が育ち、現在にひきつづいていることを思うと、市川校長を先頭にしたこのピアノ購入の価値は、六百余円の金銭と比較すべくもなく大きいといわねばならない。ちなみに

現在も、最もすぐれた音感のピアノとして山ノ内北小学校の体育館で、現役生活を送っているのである。

日誌は以後陸続としてピアノ参観にくる他校の教師、遠足などの途次に立ち寄る他校生の状況が克明に綴られている」(同前、p.136f)

大正14年(1925)○安曇野市・豊科小学校

2月9日「ピアノの荷到着」(「学校沿革誌—八十八周年記念」、昭和38年刊、p.34)

大正14年(1925)○松川村・松川小学校「ピアノ購入、披露音楽会を開く」(「長野県の学校」、p.386)

2月11日「ピアノ披露音楽会挙」(「百年の歩み」、昭和56年刊、p.193)

大正14年(1925)○飯田市・竜江小学校

5月14日「村内の篤志者六〇名にてピアノ寄贈さる。代金一、七八五円」

(「竜江小学校の百年史」、昭和49年刊、p.71)

「大正十四年五月十日初めて楽器ピアノが購入され、はじめて見る児童等目を輝かせた。これは村内有志六〇名の寄付金によるものであった。寄付金総額一七八五円。七月十一日ピアノ披露の唱歌会が行われた」(「龍江村誌」、平成9年刊、p.510)

大正14年(1925)○飯田市・松尾小学校

10月12日「ピアノ購入」/11月27日「ピアノ披露音楽」(「松尾学校沿革史」、昭和50年刊、p.467)

大正14年(1925)◎松本市・梓川小学校〔梓尋常高等小学校+倭尋常高等小学校〕

「倭尋常高等小学校にグランドピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.371)

「グランドピアノ寄贈」(開校七十周年記念「倭小学校沿革誌」、昭和40年刊、p.62)

大正14年(1925)○岡谷市・小井川小学校(平野尋常高等小学校・小井川部)

「ラジオ・ピアノ設備整う」(「長野県の学校」、p.123)

大正14年(1925)◎飯田市・三穂小学校〔三穂尋常高等小学校・立石分教場〕

「森弁次郎氏よりピアノが寄贈される」(「長野県の学校」、p.261)

「三穂小学校にはじめてのピアノが寄贈されたのは、大正十四年六月のことであった。当時、当村関坂の出身で、日清汽船会社の社長に出世していた森弁治郎氏から寄附されたものである。(…)たて型「ゴールデンメタルピアノ」ドイツ製という」(「三穂村史」、昭和63年刊、p.466)

大正14年(1925)◎東御市・和小学校

「新ピアノ購入(ドイツ製グロイテアン・シュタインバー)」

「施設備品としては、大正十年、大正十四年と連続しピアノを購入しており、特に後者は、二千六百五十円のドイツ製の立派なものであった」(「和小学校百年誌」、昭和54年刊、p.226)

当時の教員の一人は以下の稿をこの沿革誌に寄せている：

「ひとたび眼を当時音楽教育唯一施設のピアノに転ぜんか、恐らく瞠目仰天せざる者なき逸々品。あの深刻世界不況農業恐慌下噂にもれ聞く時価参千円、ドイツ製世界一級品ピアノ『シュタンウェッヒ』(名称?)とか、当時小学校はおろか全国数える程の逸々品にてなきや。不肖このピアノの音に靈感衝撃の思い募り(…)折良く空室独身寮に入り、ピアノに狂気専念の事態を招く」(同前、p.435f)

大正14年(1925)○阿智村・阿智第一小学校〔会地小学校〕

「ピアノ寄贈される。金1400円余(多数有志の人力による)」

(「会地小学校の百年」、昭和47年刊、別冊年表)

大正15年(1926)◎松本市・田川小学校〔松本尋常高等小学校田川部〕

4月3日「ドイツ製ピアノ到着」(「開校五十周年記念誌」、昭和50年刊、p.21)

「ピアノ(独逸製シュタインベルグ)竹田楽器店より購入到着」

(「創立六十周年記念誌」、昭和61年刊、p.229)

大正15年(1926)○小諸市・坂の上小学校

5月7日「ピアノ購入」(「坂の上小学校創立五十周年記念誌」、昭和51年刊、p.16)

大正15年(1926)◎松本市・菅野小学校〔神林小学校+笹賀小学校〕

11月29日「寄附金にてスタンウェーピアノ購入。着荷す」(「神林学校史」、昭和46年刊、p.19)

大正15年(1926)○大町市・平小学校

12月3日「ピアノ購入」(「平小学校のあゆみ」、昭和52年刊、p.48)

大正15年(1926)○平谷村・平谷小学校

「郡下にさきがけてスタンドピアノを購入する」(「長野県の学校」、p.266)

大正15年(1926)○長野市・通明小学校

「ピアノ修理披露唱歌会」(「通明小学校百年史、昭和49年刊、p.495)

昭和2年(1927)◎飯田市・竜丘小学校

「御慶事記念ピアノを1700円で購入」(「長野県の学校」、p.256)

「昭和二年三月三十日、ドイツ製のグランドピアノと蓄音機を購入した。当時はピアノのある学校は他になかった。その経費は約三千円を要し、それには一般の寄付をもって充てる予定であったが、たまたま経済界の不景気に見舞われ(…)予定の金額が集まらなかったため、下平芳太郎校長はその欠損分を自費によって補てんした」(「竜丘村史」、昭和43年、p.1125f)

- 昭和2年(1927)○千曲市・上山田小学校
 6月27日「ピアノ八〇〇円で購入する」(「上山田小学校百年誌」、昭和49年刊、p.408)
 大正15年「ピアノ購入」(「長野県の学校」、p.409)
- 昭和2年(1927)○小海町・小海小学校
 「ピアノを購入して音楽会」(「小海町志」近現代編、平成9年刊、p.130)
- 昭和2年(1927)○長野市・豊野西小学校、
 「この年ピアノ寄贈される(東伝之丞から)」(「豊野西小学校史」、平成元年刊、p.887)
- 昭和2年(1927)○中野市・日野小学校
 「中山晋平先生よりピアノ一台寄贈される」(「長野県の学校」、p.460)
- 昭和3年以前 ○清水小学校〔松本尋常高等小学校清水部〕
 開校時備品台帳(昭和3年度):「ピアノ山葉製(1)、ピアノ椅子(2)、ピアノカツギ台(1)、
 ピアノカツギ麻縄(2)、ピアノ担棒(2)」(「史料開智学校」、vol.4、平成7年刊、p.253)
- 昭和3年(1928)○上田市・神川小学校
 1月22日「ピアノ一台寄付(上青木出身尾崎庄兵衛氏が不幸東京に客死したので其の遺志により小学校へ寄贈された)」(「神川小百年」、平成10年刊、p.63)
- 昭和3年(1928)◎佐久市・青沼小学校
 「寄付金にてピアノ購入」(「長野県の学校」、p.16)
 10月8日「情操教育を高めるよう音楽学習に必要な、ピアノを購入して設置することになり、昭和三年九月に着手して、同年十月八日にドイツ製の立派なグランドピアノを購入した。費用は全部村内篤志家の寄附を集めて、東京の西川楽器店から購入した。購入費は当時、金二二〇〇円の巨額であった」
 (「青沼小学校創立百三十周年記念誌「学びの道をふみゆきて」、平成16年刊、p.68)
 「ピアノ寄付金にて購入」(同前、p.38)
 「今上天皇即位の大典の年の昭和三年に奉安殿の建設を計画し、四年六月十日に完成した(…)なお特志寄付(1829円)によるピアノも設置された」(「青沼の自然と歴史」、昭和40年刊、p.247)
- 昭和3年(1928)◎佐久市・岩村田小学校
 10月19日「寄付金により独乙ブリュッナー会社製第五号型平台ピアノ購入」
 (「岩村田小学校創立七十周年記念誌」、昭和34年刊、p.50)
 「御大典記念に寄附金を集めピアノ購入(7月)」、「ピアノの荷着く(10・19)」(同前、p.97)
 「御大典記念に寄附金を集めピアノ購入(7月)」「寄付金四千二百四〇円集まる。奉安殿の建造費にも充てる」(「岩村田教育百年」、昭和53年刊、p.125)
 「寄付金により独乙ブリュッナー会社製第五号型平台ピアノ購入(10月19日)」(同前、p.71)
- 昭和3年(1928)◎松本市・鎌田小学校〔松本尋常高等小学校井川部〕
 11月6日「ピアノ購入到着ブリッナー三号二千三百五十円大部分市費、不足分収容区域寄附」
 (「鎌田小学校創立二十五周年記念」、昭和32年刊、p.5)
 11月「井川部ピアノを購入す」(「史料開智学校」vol.21、平成10年刊、p.26)
- 昭和3年(1928)◎伊那市・伊那小学校
 11月8日「御大典記念事業の一つとして、ピアノを町内有志の篤志寄附により購入することになり(…)ドイツのスタインベルク社製グランドピアノを購入することになった。このピアノは当時の価格二千七百円。日本には数台しかなく、当時としては最高のものである。ピアノは「弥栄」と命名された。昭和三年十一月八日ピアノ到着、十一月十日御大礼奉祝式当日、寄贈者を招待し、披露。(…)記念演奏会は翌四年七月三十一日、鉄筋校舎の落成を待って行われ」
 (「伊那小学校百年史」、昭和46年刊、p.325f)
- 昭和3年(1928)○飯田市・川路小学校
 11月13日「御大典記念ピアノ披露音楽会」(「川路小学校の百年」、昭和48年刊、p.133)
- 昭和3年(1928)○千曲市・八幡小学校
 11月23日「ピアノ備付披露会」(「八幡小学校沿革誌」、昭和47年刊、p.245)
- 昭和3年(1928)○安曇野市・明南小学校〔中川手小学校〕
 12月5日「ご大典記念ピアノ着荷」(「学校沿革誌」中川手小学校、昭和45年刊、p.11)
- 昭和3年(1928)○佐久市・大沢小学校「体育館に奉安所を設置、ピアノ購入」(「長野県の学校」、p.21)
 12月15日「ピアノ購入」(「大沢小学校の歩み」、昭和49年刊、p.56)
 同・記事(「大沢小学校閉校記念誌」、昭和58年刊、p.13)
- 昭和3年(1928)◎佐久穂町・八千穂南小学校〔穂積小学校〕
 12月20日「ピアノ購入」(八千穂南小学校創立九十周年記念「沿革史」、昭和39年刊、p.26)
 「ピアノ購入(12・20)」(「閉校記念誌」、昭和55年刊、p.68)
 「ご大典記念」2500円余(現在の400万円)(「信濃毎日新聞」、2013年8月18日付「斜面」)
- 昭和3年(1928)○小布施町・小布施小学校
 12月28日「吉家捨蔵氏寄贈のピアノ到着」(「小布施小学校沿革誌」、昭和48年刊、p.149)

- 昭和3年(1928)◎長野市・山王小学校
 「昭和三年の御大典記念として、保護者の有志よりピアノ一台が寄贈された。この頃のピアノはたいへん珍しかった。《音楽の先生が東京まで出かけて選んだとのことで、先生はたいへん喜んで話された》と当時の卒業生は語っている(…)このピアノは当時としては貴重なドイツ製で、その後長く使用された」(創立五十周年校舎改築落成記念誌「山王の歩み」、昭和50年刊、p.25)
- 昭和3年(1928)◎中野市・高丘小学校
 「ご大典記念として篤志寄附によりドイツ製のピアノが購入された」(「長野県の学校」、p.462)
 「独逸製シュタインベルグ式アップライト。価格は附属品運搬費共一千五百四拾円、但しピアノ一台定価一千八百円也」、「東京京橋・外国ピアノ輸入商会」(「高丘学校沿革誌」、昭和47年刊、p.53)
- 昭和3年(1928)◎中野市・中野小学校「中山晋平ピアノ寄贈」(「中野市誌」歴史編・後篇、p.464)
 「中山晋平来校、寄付のピアノを児童に紹介する」(「信州中野小学校百年史」、昭和48年刊、p.571)
- 昭和4年(1929)◎長野市・共和小学校
 2月11日「紀元節式後 御大礼記念ピアノ購入披露音楽会举行」(「共和小学校百年史」、昭和49年刊、p.429)
- 昭和4年(1929)◎飯田市・座光寺小学校
 3月17日「御大典記念ピアノ披露音楽会を開催する」(「座光寺学校沿革史」、昭和40年刊、p.529)
- 昭和4年(1929)◎安曇野市・明南小学校〔七貴小学校〕
 3月31日「ピアノ購入(浜口内閣緊縮方針のため延期)」(「沿革誌」七貴小学校、昭和45年刊、p.23)
- 昭和4年(1929)◎長野市・三輪小学校
 9月5日「ピアノの寄贈をうける」
 昭和5年2月11日「寄贈ピアノ披露音楽会」(以上「開校百周年記念誌」、昭和48年刊、p.129)
- 昭和4年(1929)◎茅野市・永明小学校
 「竹村兼太郎氏(横内)ピアノ寄贈」(「長野県の学校」、p.137)
 「竹村栄太氏ピアノ寄贈」(「永明小百年のあゆみ」、昭和50年刊、p.168)
- 昭和4年(1929)◎伊那市・富県小学校
 「本館増築を記念、同窓会よりピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.185)
 「同窓会35周年記念事業 ピアノ寄付」
 昭和5年5月「ピアノ披露式」(以上「八十周年沿革誌」、昭和44年刊、p.9)
- 昭和5年(1930)◎木曾町・木曾福島小学校
 5月24日「ピアノ購入披露音楽会」(「木曾福島町史」第三巻、昭和58年刊、p.878)
- 昭和5年(1930)◎飯山市・常盤小学校
 10月7日「横浜ピアノ商会よりピアノ購入(代金四百八十円)」
 (「飯山市立常盤小学校創立百周年記念誌」、平成元年刊、p.335)
- 昭和5年(1930)◎上田市・豊殿小学校〔豊里殿城尋常高等小学校〕
 「ピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.101)
 10月13日「上原徳一氏寄贈の『ピアノ』一台到着」(「豊殿学校九十年誌」、昭和38年刊、p.27)
- 昭和5年(1930)◎千曲市・更科小学校
 11月13日「寄付によってピアノが購入された。ドイツ製カロールオットピアノ(定価六百元)」
 (「更科小学校創立九十周年沿革誌」、昭和39年刊、p.16、口絵写真)
- 昭和5年(1930)◎安曇野市・穂高南小学校〔西穂高小学校〕
 「ピアノの使用法、職員のみとする。使用法を気を付ける」(「西穂高教育の歩み」、昭和43年刊、p.37)
- 昭和6年(1931)◎安曇野市・堀金小学校
 4月29日「『大正十三年四月十日三沢校長(三沢英一)山田訓導ト共ニピアノ寄附ノ交渉ニ穂高有明方面ニ出張ス』とあるように、ピアノ購入は大正の終わりからの懸案であったが、それが現実のこととなったのは、昭和六年である。
 昭和六年 四月二十九日
 一 天長節拝賀式 午前十時ヨリ
 二 予て注文中ノピアノ本日到着ス
 五月四日 ピアノ調律師来り新購入ノピアノノ調律ヲナス
 そしてピアノ披露の演奏会は、その年の十一月十五日に開催された」
 (掲載写真キャプション「昭和6年購入シュタインベルグピアノ」)
 (「堀金小学校百年誌」、昭和60年刊、p.203、写真)
- 昭和6年(1931)◎伊那市・西春近北小学校
 11月「ピアノ一台 黒河内栄治氏寄贈」(「西春近北小学校百年誌」、昭和48年刊、p.288)
- 昭和7年(1932)◎上田市・塩尻小学校
 3月10日「篤志寄付によるピアノ披露式と音楽会を行う」
 (八十周年記念誌「しおじり」、平成元年刊、p.109)
- 昭和7年(1932)◎山ノ内町・東小学校
 6月2日「田中氏寄贈のピアノ講堂に設置」(「山ノ内町東小学校沿革誌」、昭和59年刊、p.669)

- 昭和7年(1932)○坂城町・坂城小学校
「開校三十周年祝賀式挙行、ピアノ購入」(「長野県の学校」、p.412)
10月15日「開校三十周年祝賀会をあげた。ピアノ購入。披露式を行った」
(「坂城小学校百年誌」、昭和54年刊、p.35)
- 昭和7年(1932)○千曲市・更科小学校
「ピアノの寄付があった」(「長野県の学校」、p.414)
- 昭和7年(1932)○坂城町・村上小学校
「近藤和作氏ピアノ寄贈披露大音楽会」(「村上小学校百年誌」、昭和49年刊、p.28)
(「800余円」)(同前、p.210)
- 昭和7年(1932)○上松町・上松小学校
『ピアノの購入』
「郡下でピアノを持っているのは福島校だけである。何とかして駒ヶ根にも是非一台をと念願していたが、高価でもあるし、ピアノ以外に緊急を要する経費問題がたくさんあるので心ならずも遠慮していた。それを購入しても満足な音楽室もなく置き場所に困る。今度の新校舎には立派なステージまでついた音楽室が設計されている。そこで町長にお願いし、相当難問ではあったがピアノ購入の予算が決議された。新校舎落成以前にピアノが到着し、しばらく荷造りのまま廊下に置き、落成と共に職員総出で喜び勇んで音楽室へ運び込んだ。職員の嬉しそうな顔が眼に浮ぶ。これは堅形であった」(校長金井三郎・当時)(「上松町教育百年史」、昭和50年刊、p.323f)
- 昭和8年(1933)○白馬村・白馬南小学校〔神城小学校〕
2月12日「ピアノ到着す(六七五円)」(「神城学校百年のあゆみ」昭和49年刊、p.302)
- 昭和8年(1933)○松本市・開智小学校
2月23日「開智部ピアノ披露演奏会を開く」(「開智学校沿革史」、昭和40年刊、p.309)
- 昭和8年(1933)○塩尻市・塩尻東小学校〔塩尻尋常高等小学校〕
「堀内千香氏ピアノ寄贈」(「長野県の学校」、p.332)
- 昭和9年(1934)○白馬村・白馬北小学校
5月22日「ピアノ一台寄贈される」
10年3月10日「学芸会 ピアノ披露を兼ねる」(以上「白馬北小学校百年の歩み」、昭和49年刊、p.166/7)
- 昭和9年(1934)○塩尻市・広丘小学校
6月6日「ピアノ購入(代金二百五十円也)村内の寄付金によりピアノ一台を購入し、ピアノによる音楽教育を始む」(「広丘小学校開校八十周年記念誌」、昭和44年刊、p.69)
「塩尻小学校小平君の仲介により、諏訪金沢村、村井よりピアノ一台、午後四時にトラックにて送付あり。代金二百五十円也。但し八円也の運賃を含む」(「学校日誌」、p.93)
- 昭和9年(1934)○塩尻市・洗馬小学校
「ピアノ入る」(「長野県の学校」、p.338)
7月16日「ピアノ到着。7月22日ピアノ披露並びに演奏会」(「洗馬小学校沿革誌」、昭和44年刊、p.148)
- 昭和9年(1934)○長野市・七二会小学校
10月24日「瀬脇よりピアノ学校へ運搬す」
「ピアノ本校到着 運搬のため午後本校へ行く[岩草分]
「午後ピアノ持上げの為職員は本校へ赴く[五十平分]
11月3日「明治節拜賀式 同窓会より村へピアノの贈呈式を行う」
(「目でみる七二会小学校のあゆみ」、平成元年刊、p.80f)
- 昭和9年(1934)○安曇野市・豊科小学校〔高家小学校〕
11月「寄付によりグランドピアノ、スタンドピアノ各一台を購入し、披露をかね大音楽会を開催する」
(『南安曇郡誌』第三巻下、昭和46年刊、p.137)
- 昭和9年(1934)○朝日村・朝日小学校
12月9日「ピアノ披露式」(「朝日村教育沿革誌」、昭和46年刊、p.247)
- 昭和9年(1934)○松本市・五常小学校
12月26日「午後二時よりピアノ披露演奏会を催す。
演奏者 テナー 波田腰協氏
ヴィオリン 今井仁氏
セロ 今井久雄氏
ピアノ 今井昭子氏
寄贈者 市川漸氏」(「五常小学校沿革誌」、昭和60年刊、p.39)
- 昭和9年(1934)○安曇野市・穂高北小学校〔北穂高尋常高等小学校〕
「伊藤豊作氏所のピアノを篤志譲渡を受く」(「長野県の学校」、p.364)
- 昭和9年(1934)○駒ヶ根市・赤穂小学校
備品「第二唱歌室/第三唱歌室:教授用ピアノ各一台」(「赤穂小学校百年史」、昭和47年刊、p.563)
- 昭和9年(1934)○佐久市・北牧小学校
「昭和9年にグランドピアノが置かれ(…)」(「開校記念誌」、平成24年刊、p.2)

- 昭和10年(1935) ○松本市・芳川小学校
2月4日「小屋上条辰蔵氏よりピアノ寄贈」(「創立五十周年記念芳川学校沿革誌」、昭和34年刊、p.29)
- 昭和10年(1935) ○上田市・中塩田小学校〔別所学校〕
3月「別所時報」、昭和10年3月25日付、児童の創作文『ピアノ』記事(「別所学校百年誌」、平成元年刊、p.84)
- 昭和10年(1935) ○塩尻市・片丘小学校
4月6日「ピアノ新調披露音楽会、午後一時、演奏長師山田教授」(「片丘学校沿革史」、昭和61年刊、p.268)
- 昭和10年(1935) ○上田市・北小学校
5月3日「伊藤伝兵衛氏よりピアノ寄贈」(北小学校「北小学校五十年史」、昭和53年刊、p.57)
- 昭和10年(1935) ○長野市・鍋屋田小学校
「岩崎国松氏よりピアノ一台寄贈される。披露演奏会に草川信氏来演」(「長野県の学校」、p.530)
12月14日「ピアノ披露演奏会 草川信先生、内村靖子女史来校演奏さる」
(「鍋屋田小学校創立九十周年記念誌」、平成7年刊、p.197)
- 昭和10年(1935) ○岡谷市・湊小学校
「花岡和夫氏等5人兄弟よりグランドピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.125)
「花岡和夫氏兄弟5人、グランドピアノ寄贈」(「開校百二十年…記念誌」、平成5年刊、p.25)
- 昭和10年(1935) ○中塩田小学校
「グランドピアノ篤志寄付される」(「盈進・百十周年誌」、昭和59年刊、p.20)
- 昭和11年(1936) ○長野市・東条小学校
1月28日「(…) 当校の音楽教育にはみるべきものがあった。しかし、残念なことにこの音楽教育で最も大きな意味をもっているピアノがなく、まさに画竜点睛を欠く思いがあった。このため同窓会が奔走してピアノ購入資金を募金し、一二四〇円九〇銭を集めることに成功し、昭和十一年一月二十八日、母校に八八鍵の山葉堅型ピアノを寄贈した」
(「東条の歩み—ふるさととふるさとの学校—」、昭和60年刊、p.429)
- 昭和11年(1936) ○大町市・平小学校
2月「ピアノ一台が寄附される」(「平小学校のあゆみ」、昭和52年刊、p.48)
- 昭和11年(1936) ○松本市・島内小学校
3月10日「音楽会 河野道璋氏よりピアノ寄附」(「島内小学校の沿革」昭和45年刊、p.114)
- 昭和11年(1936) ○松本市・会田小学校 「ピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.346)
3月23日「ピアノ：昭和六年五月にピアノ購入の話が始まり、村長と懇談したところ了承を得たので村会へ提案した。ところが農村不況時代のため議決の運びとならなかった(…) 昭和九年北校舎が新築され新しい音楽室が出来たのでいきおいピアノが必要となったのである。翌十年、ピアノ購入の話が再燃し村出身者にて他所で医師を開業しておられた長岩友栄氏、山本文子氏、松村信夫氏の三人の方をお願いをして篤志寄附を仰ぎ寄贈していただいたのである(…) 昭和十一年三月二十三日證書受典式の式日を期して披露演奏会が催され、演奏者として上諏訪町今井久雄氏、今井仁氏、今昭子氏、波田村波多腰協四氏を招待した。来賓として寄贈者三氏をお招きし(…) 盛会裡に終わった」
(「会田小学校開校八十年誌」、昭和29年刊、p.24f)
- 昭和11年(1936) ○中野市・平野小学校
4月11日「ピアノ購入(飯山高女教諭宮本奥三氏所有)」(「平野小学校百年誌」、昭和50年刊、p.296)
- 昭和11年(1936) ○木島平村・南部小学校
6月23日「講堂落成記念としてピアノ寄贈される」(「南部小学校改築記念誌」、昭和63年刊、p.224)
「村外他出会員は《母校講堂新築記念》として、ピアノ寄贈をすすめていた。その趣旨を次のように述べている《この時にあたり、吾等他出会員打って丸となり、慶賀の記念としてピアノ一台母校に贈り、情操教育に資し郷土の文化を高め、益々吾等の背景を強力ならしめ、且後進の思い出を豊かならしめんとす》」(同前：p.161、写真)
- 昭和11年(1936) ○伊那市・西箕輪小学校
7月1日「伊藤礼之氏よりピアノが寄贈される」(「西箕輪学校百年史」、昭和61年刊、p.557)
- 昭和11年(1936) ○信濃町・柏原小学校
10月「昭和九年、皇太子殿下御誕生記念事業として小学校へピアノ一台を寄附することになった(…) 昭和一年では、ピアノ寄附の件が再び話し合われ、二台購入することに決定された。一台は平型(千二百円)、一台は立型(八百円級のもの)で、前者は唱歌室、後者は講堂に置くこととした。一年の一〇月にピアノが到着、一月にピアノの披露音楽会が催された」(「柏原学校百年史」、昭和50年刊、p.469)
- 昭和11年(1936) ○松本市・波田小学校
11月4日「ピアノ着荷。唱歌室に備え付ける」
13日「校内ピアノ披露会が開かれる」
12月6日「ピアノ披露音楽会を開く」(以上「波田小学校百年誌」、昭和63年刊、p.32)
- 昭和11年(1936) ○茅野市・宮川小学校
11月11日「音楽会、ピアノを初めて音楽会に使用」(「宮川小学校の歩み」、昭和48年刊、p.84)
- 昭和11年(1936) ○池田町・池田小学校
11月「大角屋よりピアノを運搬する」(「池田小学校沿革史」、昭和58年刊、p.726)

- 昭和11年(1936)○松本市・里山辺小学校
12月24日「ピアノ着荷」(「里山辺小学校誌」、昭和47年刊、p.110)
- 昭和11年(1936)○松本市・芝沢小学校〔和田小学校+新村小学校〕
「ピアノ寄贈される(横川類吉氏より)」(「和田小学校百年史」、昭和48年刊、p.23)
- 昭和11年(1936)○塩尻市・宗賀小学校
「十一月五日の職員会でピアノ購入が決定した。三木楽器店から二号千五百円の品を買うことにしたのである。この日、ピアノ披露演奏会をどのようにしたらよいか各自考案するよう要望している」(「宗賀小学校百年史」、昭和50年刊、p.382)
- 昭和11年(1936)○木曾町・日義小学校
秋:「振返って見ますと、昭和十一年に五十周年の式が行われた時には、当時この地方としては珍しいといわれたピアノが同窓会の方々より寄贈されたのであります。今回(七十周年)もまた全村の皆様方のご尽力によりピアノが購入され(…)」(日義村教育委員会委員長)
「思えば、昭和十一年秋、五十周年記念式典が挙げられまして、その記念事業に小学校同窓会が村内寄附を募って、当時本郡下には珍しいグランドピアノを寄贈いたしました。爾来二十年間(…)」(PTA会長)(以上「日義学校七十年のあゆみ」、昭和32年刊、巻頭)
- 昭和11年(1936)○佐久市・野沢小学校
「伴野菊四郎氏よりピアノ一台贈られる」(「創立九十周年沿革史」、昭和40年刊、p.37)
昭和12年1月29日「グランドピアノ寄贈される」(「野沢小学校百年史」、昭和51年刊、p.441)
昭和12年「新講堂(中島亀吉氏寄贈)落成する。グランドピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.20)
- 昭和11年度○長野市・真島小学校
「雨天体操場兼講堂新築記念に備品としてピアノが寄附された。プリマドンピアノ1台(堅型22号)これは本村出身竹内仁一郎より寄附されたもので、当時としてはピアノは珍しく、近隣には無かった。児童の喜びは大変でまた教育面での効果も大きかった」
昭和12年2月11日「ピアノ披露音楽会、長野高女教諭町田等、東京都音楽家北村英雄(本村出身)、篠ノ井町井上てい(琴師範)」(「真島小学校百年誌」、昭和48年刊、p.96)
- 昭和11年(1936)○箕輪町・箕輪中部小学校
「河合楽器よりグランドピアノ一台購入」(「箕輪中部小学校百年誌」、昭和53年刊、p.272)
昭和12年2月22日「グランドピアノ一台着」(同前、p.274)
- 昭和11年(1936)○長野市・古里小学校「校歌制定、ピアノ入る」(「長野県の学校」、p.545)
「1936(昭和11)年、三才、浄専寺若槻伝導氏次男、道隆氏が箱型ピアノ一台を寄贈された。時あたかも二番目の校歌が作詞・作曲された時であり、両披露をするに十分であった。以後、古里の学校からもピアノの音が流れ、音楽教育のために十分活用された」(「古里小学校百年誌」、平成2年刊、p.230)
- 昭和11年(1936)○木島平村・木島平中部小学校〔往郷尋常高等小学校〕
「ピアノ・ラジオ、同窓会で寄付」(「長野県の学校」、p.455)
「ピアノ・ラジオ寄附(同窓会)」(「往郷・中部小学校沿革誌」、平成9年刊、p.720)
- 昭和11年(1936)○御代田町・御代田南小学校〔伍賀小学校〕
「講堂新築記念として特志家によって、ピアノ購入する」(「伍賀小学校のあゆみ」、昭和52年刊、p.239)
- 昭和11年(1936)○佐久市・北牧小学校「ピアノ購入・披露式」(「閉校記念誌」、平成24年刊、p.32)
「昭和9年にグランドピアノが置かれ、その年当時の小林校長先生と交流のあった文学歴史の研究者中村孝也先生に作詞を、作曲は長野師範学校の先生をしていた福井直秋先生にお願いをし校歌の誕生となった」(同前、p.2)
11月16日「ピアノ購入・披露式」(小海町立北牧小学校「百年のあゆみ」昭和42年刊、p.27)
- 昭和12年(1937)○長野市・若槻小学校
2月11日「昭和十二年二月、当村稲田区出身の宮沢源十郎(長野市在住)から若槻小学校にスタンドピアノ一台が寄贈された。同月十一日、紀元節の式典につづいて、ピアノ披露音楽会が開催された。この披露には、長野県師範学校の音楽科教官山田辰男教諭が、弾き初めをおこなった。オルガンはひくものだがピアノは叩くものだという説明を聴いて、《叩いても壊れてしまわないものだろうかと思議でならなかった》と、その時の印象を述懐する卒業生がいる。このころ近隣には、ピアノが設備された小学校は極めて稀であった」(「若槻小学校百年史」、平成3年刊、p.180)
- 昭和12年(1937)○上田市・西塩田小学校
「篤志家によりピアノ一台寄贈」(「長野県の学校」、p.93)
3月6日「学校にはまだピアノもなく、初めてピアノが入ったのは昭和十二年三月、篤志寄付によるもので、それ以前はオルガンを使っていた。(…)昭和三年十一月一日の西塩田時報に、学校から《ピアノが欲しい》と次のような訴えがなされた。
『音楽が人の情操を高潮に達せしむることは今更喋々するの要はない。オルガンの流るゝ旋律は沈重であり、ピアノの発する快活であり明晴である。児童の世界は快晴其のものである。(…)時恰も本年は御大典奉祝の好機、鶴首してこの一隅を待った。在外者の好意によるも可、在村者

の寄付に願うも又可(…)]

このような記事で、オルガンに代るピアノを所望していた。これから八年有余、昭和十二年三月、篤志家の寄付により初めてピアノが備えつけられた。そして三月六日、地久節の良い日を定めて、上田からたち会をお呼びし、村内婦人団体の後援で音楽会を開催した。どんなにか嬉しかったことであろう」(「西塩田小学校百周年記念誌」、平成元年刊、p.258f)

昭和12年(1937) ○長野市・西条小学校

3月22日(ピアノ披露式演奏会)「春日麗朗として陽光流し清澄和楽講堂に満ち、山葉ピアノ平台三十号の美装之に和して壯観なり(…)演奏の方々として本村出身草川信先生、増野夏子嬢、松田トシ子嬢、海沼実氏(松代出身)、長野高女校町田等先生、松代校倉島通先生、清野校松本久登先生等の来奏あり盛会なりき」(「西条小学校創立百十周年記念誌」、昭和61年刊、p.169)

昭和12年(1937) ○生坂村・生坂南小学校

4月30日「中村の堀保麻呂氏より、ピアノ一台寄贈される」(「閉校記念誌」、昭和54年刊、p.27)

昭和12年(1937) ○千曲市・戸倉小学校

5月9日「ピアノ披露式 音楽会」(「戸倉小学校沿革誌」、昭和42年刊、p.314)

昭和12年(1937) ○中川西小学校

7月「ピアノ披露演奏会が行われる」(中川西小学校開校百三十五周年記念誌「桐友」、平成21年刊、p.128)
「ピアノ一台 価格一千二百円也 昭和十二年七月 小川源兵衛様」(同前、p.254)

昭和12年(1937) ○喬木村・喬木第一小学校

7月31日「記念貯金にて、ピアノ一台、オルガン一台購入する」
(「喬木第一小学校沿革概要」、昭和40年刊、p.108)

昭和12年(1937) ○中野市・豊井小学校

「校歌・ピアノ披露式及び演奏会が行われる」(「長野県の学校」、p.506)

昭和12年(1937) ○長野市・篠ノ井東小学校〔東福寺小学校〕

「現在体育館にピアノが置かれている。古いけれども音は確かで今でも音楽会や集会の時に美しい音色を響かせている。このピアノは、昭和十二年体育館が落成した時に、県外在住の卒業生から寄贈していただいたものである。」

《十二年の学校日誌》

五月二十八日 ピアノ寄附依頼状を出す

六月七日 篠ノ井発列車で丸田校長、宮沢助役と共に東京横浜方面へピアノ購入資金募集のため出張する。

三月七日 例年学芸会を行っていたが、本年はピアノ披露をかねて音楽会をなす。師範学校山田先生ピアノ演奏する」(「東福寺小学校閉校記念誌」、昭和51年刊、p.190)

昭和12年(1937) ○大町市・常盤小学校

「村内有志によりグランドピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.397)

「村内有志の寄附により、はじめてグランドピアノを購入する」

(「大町市常盤小学校創立八十周年記念学校沿革誌」、昭和45年刊、p.20)

昭和13年(1938) ○上田市・武石小学校

1月24日「宇田川大八郎氏、グランドピアノ寄贈」(「百年の歩み」、昭和48年刊、p.44)

昭和13年(1938) ○飯田市・丸山小学校

3月11日「ピアノ到着」(「丸山小学校沿革史」、昭和49年刊、p.29)

昭和13年(1938) ○上田市・東小学校〔上田尋常高等小学校・東部校〕

「笠原善吉氏よりピアノ寄贈され披露演奏会」(「長野県の学校」、p.99)

3月12日「笠原善吉氏よりピアノ寄贈さる」(「六十年の歩み」、昭和51年刊、p.11)

「笠原善吉氏よりピアノ寄贈さる。披露演奏会をなす」(「七十年の歩み」、昭和61年刊、p.10f)

「笠原善吉氏よりピアノ寄贈され披露演奏会を行う」(「90年のあゆみ」、平成19年刊、p.15)

昭和13年(1938) ○飯山市・東小学校

4月6日「学校ではじめてのピアノが到着し、十四日午後五時より村会議員等の参会のもと披露兼懇親会が開催された」(「閉校記念誌 瑞穂」、昭和55年刊、p.61)

昭和13年(1938) ○小諸市・小諸(尋常高等)小学校

4月27日「長谷川昌造氏よりピアノ一台寄附 時価一五〇〇円」(3台目)

(「小諸学校沿革誌」、小諸学校跡建碑の会・昭和57年刊、p.221)

昭和13年(1938) ○千曲市・埴生小学校

5月2日「午後校長、柿崎先生、丸子へピアノ購入につき出張」

(「埴生小学校百周年記念誌」、昭和48年刊、p.259)

昭和13年(1938) ○山形村・山形小学校

「昭和十三年には、はじめてピアノが備え付けられ音楽教育の向上に資せられた。またこのころから職員の出召がはじまった」(「山形学校沿革誌」、昭和41年刊、p.97)

- 昭和14年(1939)◎松本市・本郷小学校
 「大村、竹内氏寄付によるピアノ披露演奏会が行われる」(「長野県の学校」、p.622)
 「大村出身の竹村喜太郎氏(奉天銀行の頭取)の遺言により、遺族が昭和14年寄贈」
 2月11日「ピアノ寄贈記念《イバツハ》(グランド)披露演奏会開催」
 (以上「記念誌 百年の歩み」、平成20年刊、p.24)
- 昭和14年(1939)○麻績村・麻績小学校
 5月21日「ピアノ到着」(「麻績小学校百年史」、昭和52年刊、p.916)
 「麻績小学校に寄贈されたピアノの披露唱歌会は、昭和十四年三月三日に実施された(…)ピアノ披露会には、来賓四〇人、父兄五〇人が参加し、最後は招待員の指揮で《愛国行進曲》を斉唱した」
 (同前、p.378f)
- 昭和14年(1939)○諏訪市・城南小学校
 7月10日「ピアノ披露音楽会 増沢・鶴飼両氏記念演奏」(「五十年のあゆみ」、平成元年刊、p.24)
- 昭和14年(1939)○筑北村・本城小学校
 7月18日「山崎卓磨氏寄贈ピアノ山葉平台二号二千七百五十円の品、銀座支店にて受領す」
 7月21日「ピアノ学校到着」(「本城小学校沿革誌」、昭和42年刊、p.57)
- 昭和14年(1939)○佐久市・佐久西小
 7月28日「ピアノ到着(一千三百円)」(「佐久西小のあゆみ」、昭和53年刊、p.164)
- 昭和14年(1939)○諏訪市・豊田小学校
 11月1日「ピアノ寄贈さる 岡谷市中島正氏、中島克躬氏 山葉グランド二号」
 (「豊田小学校百年の歩み」、昭和48年刊、p.248)
- 昭和14年(1939)○更埴市・治田小学校〔桑原尋常高等小学校〕
 「特殊資金と篤志家の寄付によりピアノ購入」(「長野県の学校」、p.418)
- 昭和14年(1939)○佐久市・佐久中央小学校〔海瀬学校〕
 「ピアノ購入、一二月購入祝をする」(「海瀬学校・八十年史」、昭和56年刊、p.200)
- 昭和15年(1940)○松本市・入山辺小学校
 2月「中村謙太郎氏寄贈のピアノ披露演奏会」(「入山辺小学校誌」、昭和48年刊、p.103)
- 昭和15年(1940)○松本市・島立小学校
 4月「ピアノ披露音楽会を開催」(「島立小学校百年誌」、昭和62年刊、p.57)
- 昭和15年(1940)○上田市・川辺小学校
 7月「ピアノ購入並びに道場炊事場落成祝」(「川辺小学校百年誌」、昭和49年刊、p.134)
- 昭和15年(1940)○安曇野市・明北小学校〔東川手小学校〕
 8月5日「待望のピアノ着荷(二千六百年記念に滝沢諭一氏寄贈)」(「学校沿革誌」、昭和45年刊、p.29)
- 昭和15年(1940)○長野市・柵小学校
 8月「御真影奉安殿、忠霊殿が建設された。待望していたピアノが初めて購入された。また二宮尊徳の像が寄贈された」(閉校記念誌「わが学び舎 永遠に」平成18年刊、p.18)
- 昭和15年(1940)○野沢温泉村・野沢温泉小学校〔野沢尋常高等小学校〕
 「ピアノ、映写機披露」(「長野県の学校」、p.457)
 9月28日「寄贈ピアノと映写機の披露、音楽映画の夕べを催す」
 (「百周年記念誌野沢温泉小学校」、平成13年刊、p.47)
- 昭和15年(1940)○佐久市・田口小学校
 10月31日「ピアノ購入」
 (「田口小学校百周年記念誌」、昭和48年刊、p.45/「田口小学校百三十周年記念誌」、平成15年刊、p.147)
- 昭和15年(1940)○松本市・錦部小学校
 12月5日「寄贈ピアノ本日到着す」
 12月15日「寄贈ピアノ披露演奏会。松本音楽研究会員7名」(「錦部小学校沿革誌」、昭和45年刊、p.96)
- 昭和15年(1940)○長野市・青木島小学校〔大塚尋常高等小学校〕
 「ピアノ購入、披露式・演奏会が行われる」(「長野県の学校」、p.570)
 12月23日「ピアノを購入し、披露式を挙げる」(「青木島小学校百二十年誌」、平成7年刊、p.174)
- 昭和15年(1940)○安曇野市・穂高南小学校〔東穂高尋常高等小学校〕
 「東京新宿中村屋主人相馬愛蔵氏よりピアノ寄贈さる。ピアノ覆(三十余円)白金相馬利雄氏より寄贈」(「開校八十五周年記念誌」昭和34年刊、p.4)
- 昭和15年(1940)○飯縄町・牟礼西小学校〔高岡尋常高等小学校〕
 「縦型ピアノが購入された」(「長野県の学校」、p.478)
- 昭和15年(1940)○下條村・下条小学校
 「下條部校グランドピアノ」(「長野県の学校」、p.232)
- 昭和15年(1940)○長野市・朝陽小学校
 「昭和十五年には《紀元二千六百年祭》が、政府主催の祭典行事として全国民総動員で開かれ、朝陽小学校でも記念事業の一つとして、祝賀音楽会ならびにピアノ披露式が催された。それは《国民精神

総動員》を意図するもので、翌年の太平洋戦争突入へと向けられていったが、北尾張部の河原田新治氏から寄贈されたピアノは、児童の情操教育のため多に活用された」

(「朝陽小学校百年のあゆみ」、平成2年刊、p.185)

昭和16年(1941)○長野市・浅川小学校

「ピアノ贈呈式」(「浅川小学校百周年記念誌」、平成2年刊、p.522)

「村では災害続きでピアノ購入の予算が組めません。校長の海野先生は村と種々相談し寄附してもらおうとし、中曾根出身で植木屋をしておられた酒井治平氏にお願いする事にしました。十五年春に話が出て、学務委員をしておられた兄の宮沢藤八氏が仲介の労を取られ実現することになりましたが、戦争の為物不足が始まり、制作会社との交渉も苦労でした。秋には待望のヤマハのグランドピアノが届き先生方は喜びに湧きました。価格は詳しく知りませんが、届けて下さった方の記憶では二千三百円との事でした。当時、今の高校卒で月三十円の給料は最高でしたので大変な額です」

2月11日「午後二時、全校生徒や村人も参列してピアノ贈呈式が行われた。村長から酒井氏に感謝状が贈られた後、披露演奏は長野高等女学校音楽教師の町田等教諭によって奏でられ、加茂小音楽担当のバイオリン独奏も賛助演奏された。曲目はメヌエットとかガボットといった専門曲で、参列者に馴染みがなかったが「桃太郎変奏曲」は生徒もほっとして聴いていた」(同前、p.151)

昭和16年(1941)○伊那市・長谷小学校〔美和小学校〕

2月21日「待望のピアノ来る」(「美和小学校沿革誌」、昭和51年刊、p.49)

昭和16年(1941)○上田市・塩川小学校

4月「ピアノの購入披露演奏会を行う」(「塩川学校百年誌」、昭和49年刊、p.94)

昭和16年(1941)○飯田市・山本小学校

12月1日「ピアノ注文。一般より1,950円、学校より(この中には、児童の勤労奉仕謝礼、いなごりの金等が含まれる)1,713円をあてる」(「山本小学校沿革史概要」、昭和39年刊、p.7)

昭和16年(1941)○安曇野市・三郷小学校〔温明小学校〕

「ピアノを購入する(米国製キンボール)」(「温明小学校閉校記念誌」、昭和45年刊、p.34)

昭和16年(1941)○長野市・川田小学校

「ピアノ寄贈(東山善司、昭和16年)」(百周年記念誌「100年のあゆみ」、昭和46年刊、写真p.30)

昭和16年(1941)○中野市・平岡小学校

「グランドピアノ及びブラスバンド楽器、村内の有志によって寄贈される」(「長野県の学校」、p.465)

昭和16年(1941)○小諸市・東小学校〔北大井小学校〕

「山口慶蔵氏よりピアノ寄附二七〇〇円」(「改築記念誌」、昭和45年刊、p.25)

昭和17年(1942)◎長野市・篠ノ井西小学校〔川柳小学校〕

3月21日「川柳国民学校は小校の悲しさ、これまで郡下の大校にはあったピアノがなかった。乙組音楽会などの晴れの舞台では、ピアノの伴奏で歌わなければならなかったのに、ふだんオルンで音楽の勉強をしている川柳の児童は、勝手が違って上がってしまい、十分実力を発揮することが出来ず、学校にピアノがほしいという声の切なるものがあった。

こうした希望に応じて、昭和十七年、村長山本久我治は村内より寄附金を募ってピアノを購し、同年三月二十一日、大谷冽子・澄子姉妹を招き、その披露式と演奏会が川柳国民学校体育館ではなばなく行われた。ピアノはグランドピアノで代金は六万四千円であったという。

小野ピアノ店より到着したピアノは舶来の上級品であり、大谷冽子といえば当時聞えた名ソプラノ歌手であったので、児童も披露演奏会に集まった村民も、すばらしいピアノの音色と、田舎では初めて聞くソプラノの美声にただ驚くばかり、念願かなってピアノで音楽の勉強が出来る幸せをかみしめた」(「川柳小学校誌」、昭和53年刊、p.267f、演奏会写真)

昭和17年(1942)○茅野市・泉野小学校

3月21日「工作の実施・ピアノ購入」(創立百周年記念誌)、昭和49年刊、p.158)

昭和17年(1942)○飯島町・七久保小学校

4月19日「ピアノ披露演奏会」(「七久保小学校・学校沿革誌」、昭和44年刊、p.35)

昭和17年(1942)○長野市松代・清野小学校

6月20日「ピアノ寄附 岩野区整骨医安藤利公・幸公両氏」(「清野小学校開校百年誌」、昭和61年刊、p.156)

昭和17年(1942)○小布施町・栗ガ丘小学校〔都住小学校〕

7月9日「ピアノ寄贈披露演奏会」(「学校沿革誌」、昭和42年刊、p.120)

昭和17年(1942)○松本市・岡田小学校

「守田治平氏ピアノ寄贈」(「長野県の学校」、p.614)

「グランドピアノ一台本村出身守田治平氏より寄贈され、披露演奏会を行った。この時からピアノによる音楽教育が始まった」(「岡田小学校七十年誌」、昭和36年刊、p.41)

8月14日「ピアノ寄贈、守田治平氏(明治28年卒業、鋳物工場主)」(「岡田学校百年誌」、平成2年刊、p.194)

11月「ピアノ披露式および音楽会(…)ピアノ寄贈者守田治平夫妻来校」(同前、p.561)

昭和17年(1942)○川上村・川上第一小学校

9月19日「第一小ピアノ及び電蓄寄付披露演奏会を開催」(「川上教育百年」、昭和49年刊、p.782)

「ピアノ及び電蓄寄付披露演奏会を開く。午前十一時より開催 午後二時終了。終って裁縫室で昼食

を共にし茶話会を開く。席上ピアノの寄付者川上愛太郎氏、電蓄寄付者由井虎夫氏他三十名の諸氏に感謝状並に記念品を村及び学校よりそれぞれ贈呈する」(同前、p.243)

昭和17年(1942)○川上村・川上第二小学校

「ピアノ披露音楽会開催」(「長野県の学校」、p.5)

11月17日「第二小ピアノ披露音楽会を開催」(「川上教育百年」、同前、p.782)

「川上愛太郎氏寄附のピアノ披露音楽会を開く。来賓十数名及び父兄約二〇名出席あり」(同前、p.448)

昭和17年(1942)○長野市・保科小学校

「ピアノ・電蓄寄贈される」(「保科の教育百年」(開校百周年記念誌)、昭和48年刊、p.82)

昭和17年(1942)○長野市・通明小学校

「ピアノ披露音楽会、玉木葦子先生来演」(道明小学校百年詩、昭和49年刊、p.498)

昭和17年(1942)○飯山市・木島小学校

「在東京木島会有志寄贈のピアノ披露式並記念音楽会」

(「木島小学校沿革史」、昭和41年刊、p.18)

昭和17年(1942)○松本市・中山小学校

「全村寄付によりグランドピアノ一台を購入する」(「長野県の学校」、p.611)

「全村寄付によりグランドピアノ一台購入」(開校七十周年記念「沿革誌」、昭和33年刊、p.28)

昭和17年(1942)○坂北村・坂北小学校

「同窓会寄附のピアノ披露音楽会を行う」(「坂北学校百年史」、昭和49年刊、p.254)

昭和17年(1942)○長和町・和田小学校

「長井清一郎氏よりピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.84)

昭和17年(1942)○立科町・立科南小学校

「篤志家の寄付によりピアノ購入。披露音楽会を開く」(「わが校の歩み」、昭和48年刊、p.14)

昭和18年(1943)○茅野市・湖東小学校

2月8日「小林楽器店よりピアノ及び電気蓄音機を購入する」

(「湖東小学校七十年のあゆみ」、昭和58年刊、p.263)

昭和18年(1943)○大桑村・大桑小学校

2月24日《ピアノ購入披露音楽会》

「ピアノ購入に関して 昭和十七年十月 大桑国民学校

楽器としてのピアノは其の音域の広いこと、音色の美しいこと、音量の豊富なこと、発想の自由な点等に於て、他の楽器の到底及ばない処であります、その上国民学校に於ては音感教育を極めて重要視して居りますが、これには是非ピアノが必要であります。今日に於て学校にピアノを備えることは児童等の情操を豊かにしてなごやかな気持を与える上からも又音感に鋭敏さを与える上からも絶対に必需品であり決してぜいたく品ではないと信じます。然も学校では授業日である限り毎日数時間づつ使用致さねばならないのであります。(…)

今回調査の上左記ピアノを希望致しました、備付に要する予算は次の通りであります。

記

一、 堅型規格の一号木地塗、八十八鍵 象牙 二、 八八九円一一銭

一、 附属品荷作運賃据付料等 四一〇円

合計三、 二九九円一一銭」

(「大桑小学校百年史」、昭和47年刊、p.69)

昭和18年(1943)○佐久市・切原小学校

2月「学校にピアノが届く。ピアノ寄付者黒沢権三氏と土屋代吉氏 金三六六〇円也」

(「切原小学校百二十五周年記念誌」、平成10年刊、p.33、贈呈式写真)

昭和18年(1943)○長野市・下氷鉋小学校

3月5日「新調ピアノ講堂へ運ぶ」

3月14日「ピアノ披露音楽会」(以上「下氷鉋小学校百年史」、昭和51年刊、p.428)

昭和18年(1943)○根羽村・根羽小学校

「ピアノが購入されて披露音楽会」(「長野県の学校」、p.231)

3月25日「ピアノ購入到着」(「根羽学校百年のあゆみ」、昭和48年刊、p.256)

昭和18年(1943)○阿南町・富草小学校

4月9日「寄付金によるピアノの購入があり、4月9日到着。翌10日音楽室に備え付ける。(2,449円80銭)」

(「富草小学校創立100年沿革史」、p.9)

昭和18年(1943)○佐久市・三井小学校

5月26日「ピアノ寄贈さる」(「三井小学校沿革史(創立七十周年記念)」、昭和38年刊)

昭和18年(1943)○伊那市・新山小学校〔富県尋常高等小学校東部校〕

7月10日「ピアノ披露式を挙げる」(「新山学校百年史」、昭和51年刊、p.240)

昭和18年(1943)○飯田市・下久堅小学校

10月15日「宮井隆次氏ピアノ寄付になる披露式挙る」(「下久堅小学校の百年」、昭和48年刊、p.177)

- 昭和18年(1943)○長野市・豊野東小学校
11月3日「紀元二千六百年記念として、寄付金三,五一〇円を受けてピアノを購入する」
(「立石が丘の百年」、平成元年刊、p.271)
- 昭和18年(1943)○茅野市・玉川小学校
12月1日「ピアノの寄付を受ける」(「玉川学校教育百年の歩み」、昭和48年刊、p.28)
- 昭和18年(1943)○富士見町・落合小学校
「3000円の寄付金でピアノ・オルガン各一台購入」(「長野県の学校」、p.149)
「金三〇〇〇円の寄贈を受け、ピアノ平型一台購入」
(「目で見える落合学校百三十年のあゆみ」、平成15年刊、p.30)
- 昭和18年(1943)○飯山市・秋津小学校
「ピアノ寄付 田中森之助ほか二名」(「秋津学校百歳誌」、昭和49年刊、p.15)
- 昭和19年(1944)○長野市・牧郷小学校
1月8日「青木方憲氏ピアノ寄附金持参、前回と併せて金参千円也、これにて吉原寿男氏より購入す」
(「牧郷小学校閉校記念誌」、昭和57年刊、p.82)
- 昭和20年「青木方憲氏よりピアノ寄贈さる」(同前、p.32)
昭和20年「青木方憲氏よりピアノ寄贈される」(「長野県の学校」、p.494)
- 昭和19年(1944)○南木曾町・読書小学校
6月8日「ピアノ一台入荷」(「読書小学校沿革誌」、昭和48年刊、p.215)
- 昭和19年(1944)○塩尻市・贅川小学校
6月23日「ピアノ披露を行う」
11月2日「ピアノ披露音楽会」(以上「贅川小学校沿革誌」、昭和48年刊、p.22)
- 昭和19年(1944)○上田市・浦里小学校
11月3日「ピアノ購入」(「九十年濃の歩み」、昭和37年刊、p.16)
「昭和十九年の八月…その当時としては誠に珍しい電気ピアノを買うことになり…確か七千円の金を持って上京し、まだ金を支払ってしまわないうちにB29の初襲撃に会い縁の下に逃げこみ、鼻の穴と耳の穴を指でおさえて息を殺していたことを今もって忘れないでいる」(同前、p.34)
- 昭和19年(1944)○松本市・今井小学校
11月23日「古池栄一氏ピアノ寄贈」(今井学校開設九十周年記念「学校沿革誌」、昭和39年刊、p.67)
- 昭和19年(1944)○諏訪市・四賀小学校
12月1日「ピアノ披露音楽会を行う」(「四賀小学校百年史」、昭和49年刊、p.418)
- 昭和19年(1944)○松本市・開智小学校
12月17日「今町石曾根玉三郎氏より寄贈のピアノ披露演奏会を開く」(「開智学校沿革史」、同前、p.310)
- 昭和19年(1944)○小谷村・南小谷小学校
「ピアノ購入 児童の勤労報酬に依る 5千円也」
(「いま、百八年の想いを語る(南小谷小学校閉校記念誌)」、平成17年刊、p.138)
- 昭和19年(1944)○飯山市・泉台小学校〔柳原小学校〕
「ピアノ購入(峰岸義衛氏寄贈)」(「閉校記念誌 柳原校史」、昭和62年刊、p.251)
- 昭和19年(1944)○筑北村・坂井小学校
「昭和十四年には、ピアノ購入のための懇願を行っているが、結局、ピアノ購入は昭和十九年となる。以下、『信濃毎日新聞』(昭和14年7月7日付)における関連記事をのせておく。
ピアノ筑北各小学校に備わる
東筑摩郡筑北地方各小学校には、今まで楽器ピアノの設備なく、各校とも毎年右購入方を村会に提出しているが、戦時体制下財政多端の折柄とて、その要求は押しつぶされていたが、今回麻績村、村会議員飯森英男氏が金二千円を投げ出し、同校のため、ピアノ一台を寄付されたのをキッカケとして、同様篤志寄附に依って希望を実現せしめんと、先ず坂井村会議員有志は同地の大地主、玉井彦永氏(現村長)にすがりつき、同様寄附を懇願した。玉井氏は、ピアノばかりで宜しいかと尚より以上、大寄附の用意ある旨を仄めかされて、村議有志もタジタジで辞去、また坂北は移転改築記念として、村内富豪より同様寄附を求めんとしており、本城村でも土木請負業者関川澄弥氏に、又日向村は飯森医院長医学博士飯森喜方氏に同様寄附を求めると呼びかけて、何れも実現性のある話で先頭に立った麻績村村議飯森英男氏の寄附が動機となって、各校ともぼつぼつピアノが備わる段取りとなった」
(「坂井小学校沿革誌」、昭和62年刊、p.184)
- 昭和19年(1944)○須坂市・小山小学校
「戦争一色の中、心の潤いをもとめピアノの購入」(「長野県の学校」、p.433)
「ピアノの購入と小山の音楽の基礎」(「小山小学校百年史」、昭和49年刊、p.349)
- 昭和19年(1944)○須坂市・高甫小学校
「ピアノ寄贈(竹前邑治氏)」
(「高甫学校開校百周年のあゆみ」、昭和51年刊、p.176、写真p.25)
- 昭和19年(1944)○木曾町・三岳小学校
「熊谷組寄贈のピアノ披露」(「三岳学校百年誌」、昭和49年刊、p.6)

- 昭和19年(1944) ○伊那市・伊那東小学校
「ピアノ寄付される」 (「長野県の学校」、p.180)
- 昭和19年(1944) ○上田市・本原小学校
「ピアノを購入する」 (「本原小学校百年誌 育英」、平成元年刊、p.27)
- 昭和19年(1944) ○佐久市・中佐都小学校
「学校にピアノ寄贈される。(現在講堂にあるもの) ピアノ配給の割当があったのを機に、青森のぶ、池田きう、荻原あいの三氏から寄贈をうける。披露式には音楽学校より、酒井弘氏を招いて演奏を行う」 (「中佐都小学校の歩み(開校八十周年記念誌)」、昭和45年刊、p.70)
- 昭和19年(1944) ○佐久市・大沢小学校
「ピアノ寄贈あり(寄付者市川潔、高畑藤一、鷹野千勝)」(「大沢小学校の歩み」、昭和49年刊、p.61)
「ピアノ寄贈あり(寄贈者市川潔、高畑藤一、鷹野千勝)披露式、感謝状贈呈式を行う」
(「大沢小学校閉校記念誌」、昭和58年刊、p.16)
- 昭和19年(1944) ○長野市・芋井小学校
「りんご組合よりグランドピアノ寄贈」
昭和20年「第一分校ピアノ寄贈さる(根岸勝信)」 (以上「芋井学校の百年」、昭和51年刊、p.414)
- 昭和20年(1945) ○松川町・松川東小学校
2月「ピアノ披露式」 (「松川町における学校教育の変遷」、昭和48年刊、p.34)
- 昭和20年(1945) ○茅野市・北山小学校
3月5日「音楽会、檜崎博士寄贈ピアノ披露式を合わせて行う」
(「北山小学校 開校六十五周年」、昭和40年刊、p.114)
- 昭和20年(1945) ◎松本市・筑摩小学校
「**四台のピアノ** 本校は開校時の大正七年五月十一日に最初のピアノが購入された。当時はまだピアノでなくオルガンで音楽教育を主にやる方針であった時代に(…)最初からピアノによって音楽教育がすすめられた。(…)次に特筆すべきことは戦雲急を告げる昭和二十年の初め物資が極めて不足し食糧事情の最悪の時期に本校に二台もピアノが入ったことである。一台はイバツハ、他の一台はワルトシュタイン。スタンドピアノであった。(…)この二台のピアノは東京にあったものであるが戦災から守るため地方へ移すことになり、松本市の日章堂と竹田楽器店が引受けることとなり、その中の一台は西五町的小林清章氏が個人で寄贈され、他の一台は本校校医の赤羽先生外の方々によって購入寄贈された。当時は戦時下のため商工省の許可を得てようやく楽器店から入荷された」 (「筑摩学校六十年史」、昭和54年刊、p.122f、二台の写真)
- 昭和20年(1945) ○松本市・中山小学校
昭和18年「学校後援会ピアノ購入資金を集金」
昭和20年3月20日「プラスバンド・ピアノ披露音楽会」 (「中山小学校百年史」、平成元年刊、p.386)
- 昭和20年(1945) ○白馬村・白馬北小学校
3月11日「ピアノの荷到着」
3月17日「ピアノ披露演奏会」 (「白馬北小学校百年の歩み」、昭和49年刊、p.174)
- 昭和20年(1945) ○上田市・川西小学校〔室賀小学校〕
6月「ピアノ・拡声器がはいる(寄付金募集)」 (「百年のあゆみ」、昭和48年刊、p.83)
- 昭和20年(1945) ○茅野市・宮川小学校
6月26日「ピアノ購入」 (「宮川小学校の歩み」、昭和48年刊、p.112)
- 昭和20年(1945) ○千曲市・東小学校〔倉科学校〕
8月10日「ピアノ披露音楽会開催(倉科学校)」 (「更埴市立東小学校百年史」昭和52年刊、p.689)
- 昭和20年(1945) ○泰阜村・泰阜北小学校
8月14日「牧島氏寄贈によるピアノ本日学校に到着する」
8月18日「牧島哲氏寄贈ピアノ披露式をなす」 (「泰阜北学校史」、昭和55年刊、p.336f)
- 昭和20年(1945) ○松川町・松川中部小学校
8月31日「ピアノ購入披露演奏会を開催」 (「松川町における学校教育の変遷」、同前、p.35)
- 昭和20年(1945) ○生坂村・生坂中央小学校
11月23日「ピアノ披露音楽会 寄付者平林嘉国氏」 (「閉校記念誌」、昭和54年刊、p.73)
- 昭和20年(1945) ○茅野市・金沢小学校
「昭和一七年(一九四二)の学校日誌一二月二八日の記事、「堅型四号(規格五号)コシカケ及覆を大井訓導が使いして三井理助氏へ注文書を発送」と書いてある。それがいつ購入されたか期待して一頁一頁めくったが、一七年にも一八年の日誌にはこの件については何も書かれていなかった」(…)一九年一月二一日 牛山久明氏よりピアノの件話あり 東京に頼みたる話 荏原氏心配
一月二四日 牛山久明氏ピアノ心配してくれる返事あり 有賀豊一氏よりの手紙によれば河合製八十五鍵新品同様なりしも価高しといふ
二〇年四月三〇日 ピアノ注文す 村長承知の上 清水氏に依頼す
六月一二日 ピアノ到着す 二台 午後四時雨の中を高等科生動員して駅まで運びに行く 職員吉江帯川細野児童二十名 直ちに荷をとく
六月一三日 村長ピアノを見に来る

七月一日 ピアノ一台 初一教室へ移動する

七月二四日 ピアノ代金二台分 村長殿より支払済みとなる 三九〇〇円(…)

戦時中は音楽も敵機識別などということで音感教育も盛んに行われ、前々からピアノを欲しいとは思っていたが戦争のため物資不足で、入手することが困難であった。一九年ころは本土決戦に備えて、大都市は強制疎開の真最中であった。仲介の労を取ってくれる人のいたおかげで、待望のピアノを一度に二台も買うことができた。ピアノを購入できたものの、このころの日本は次第に敗戦に追い込まれているときで、教室での学習は行われなくなっていた。しかし間もなく終戦、二台のピアノは半世紀使われてきた古いオルガンとともに、戦後の暗い世の中に明るい燈火をかきたててくれた」

(「信州金沢学校百年史」、昭和49年刊、p.330 f)

昭和21年(1946)○坂城町・南条小学校

「寄贈ピアノ(19年山崎与吉氏)の披露記念音楽会開かれる」 (「長野県の学校」、p.410)